

特定教育・保育施設等における事故情報データベース【令和6年11月5日更新】

[illegible]

No	初 回 掲 載 年 月 日	概 要 認可・認可外 施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故にあった子どもの年齢・性別・特記事項			事故状況発生時状況		事故の転帰		事故誘因	事故発生時の要因分析					環境面 教育・育成支援の状況	その他要 因・分 析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き理由					担当職員 の動き 何をしていたか	他の職員 の動き 何をしていたか	その他 要因・ 特記事項	改善策	掲載更新年月日											
					人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳以上					その 他	状況	死亡 死因	負傷 負傷状況		受傷部位	診断名	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防 研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要 因・分 析、特記事項	改善策		ハード面 施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要 因・分 析、特記事項	改善策				対象児の動き理由	担当職員 の動き 何をしていたか	他の職員 の動き 何をしていたか	その他 要因・ 特記事項	改善策																
3217	令和3年5月31日	1.認可 1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	24		6		18			2	2	17. 5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3.基準配置	—	—	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	—	—	1.集団活動中・見守り	異年齢児と活動を行っていた。	フロアーリングで滑りやすいため、走り出しなど気を付けるよう声掛けを行う。異年齢児との活動を行う場合は、活動の内容を工夫し考慮した保育内容にする。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	リズムに合わせて走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ピアノを弾いていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	2歳児の見守りをしていなかった。	活動時、本児に対しての配慮が十分であった。	その他要因・特記事項	改善策	普段使わない大部屋だったため、クラス園児全員に説明をしたうえで活動前には再度本児に对してよりわかりやすく説明や声掛けをしていく。	
3218	令和3年5月31日	1.認可 1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	86	15	13	18	21	19		19	15	15. 3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2.基準以上配置	雲梯遊びをしている園児から目を離してしまっていた。危険意識が原因と思われる。	危険意識を高めるための研修を励行するとともに、特に危険を伴う遊びをしている園児から目を離さない等、安全対策を徹底する。	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	毎日	雲梯の下に、万一下落した場合に衝撃を抑えるマットを敷いているが、クッション性の維持・確保について点検事項に付け加える。	マットのクッション性の維持・確保について点検事項に付け加える。	1.集団活動中・見守り	雲梯遊びに伴うリスクについての園児がまだ薄い認識が不足していると思われる。	安全な雲梯遊びをするときに、子どもだけでなく雲梯遊びなどのルールを伝えていく。	1.いつおどりの様子であった	最近雲梯遊びをする姿が多く見られ、いつも以上に雲梯遊びを行っていた。	4.対象児の動きを見守っていた	雲梯遊びをしている園児から目を離してしまっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園児が雲梯から落下するところを見守っていた職員がいた。	雲梯遊びをする園児から目を離してしまっていた。危険意識の欠如が原因と思われる。	危険意識を高めるための研修を励行するとともに、特に危険を伴う遊びをしている園児から目を離さない等、安全対策を徹底する。			
3219	令和3年5月31日	1.認可 1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	17							2	2	16. 4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	—	園内傷病報告をして職員間で子どもの状況や環境について情報共有するとともに、事故防止策についても共通理解していく。	園内傷病報告をして職員間で子どもの状況や環境について情報共有するとともに、事故防止策についても共通理解していく。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	24	—	引き続き安全点検を行うとともに、子どもの目録で危険な箇所は保護者を使用するなどに活動できるようにする。	園庭の安全な使用も、子どもが年齢にふさわしい遊びをする機会を確保していく。	1.いつおどりの様子であった	朝から元気な様子で、天気も良かった。食後の準備ができたため園庭で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育者は見守っていたものの、該当児とは距離を離れていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援児への対応を行っていた。	—	学年間やその他の職員との連携をより密にし、クラスの子だけでなく近くにいる子どもたちの様子をその場で見守っていくよう再確認していく。				
3220	令和3年5月31日	1.認可 1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	50	7	6	9	11	14	3	16	14	17. 5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	眉間部擦痕	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	11	2.基準配置	職員が、子どもたちの遊ぶ材料(風船)を追加しようと、ロッカーに取りに行った際、約1分間の間に、結果的に死傷する場所へ移動した時に起き、危険予測が十分であった	危険予知意識・能力の向上、保育者の連携強化のため、今後引き続き、事例の研修等を重ねていく	危険予知意識・能力の向上、保育者の連携強化のため、今後引き続き、事例の研修等を重ねていく	1.定期的に実施	随時	2.不定期に実施	随時	2.不定期に実施	随時	昨年より室内においても、子どもたちの遊ぶ材料(風船)を追加しようと、ロッカーに取りに行った際、約1分間の間に、結果的に死傷する場所へ移動した時に起き、危険予測が十分であった	玩具棚(高さ80cm×横90cm×幅40cm)として、本来の子どもが主体的に選択して遊ぶという環境構成に連動して、集中して遊ぶ環境づくりを促す。	「引っぱって倒れてしまった」というようなことから、安全に遊ぶための環境づくりを促す。	3.個人活動中・見守り	前述のとおり、柵以外のものが置かれていた。また、「引っぱって倒れてしまった」というようなことから、安全に遊ぶための環境づくりを促す。	縄遊び等、一度、それぞれの遊び方について子どもたちと話しながら、安全に遊ぶための環境づくりを促す。	1.いつもどりの様子であった	普段通り、自分で遊び遊んでいた。一旦部屋を出る前は、同じ部屋で風船遊びをしていた。	4.対象児の動きを見守っていた	再び入室し縄遊びを始めた。様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋の扉外にトイレがあり、保育者が行きたい場所があった	連携が不足しており、見守りから離れたときに、声掛けを行っていた	様々な事故事例に触れ、危険意識を高め、連携を密にしていく

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの 年齢 性別 特記事項			事故状況 発生時状況		事故の転帰 死亡 死因 負傷 負傷状況			診断名	事故誘因	事故発生の要因分析					ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育支援の状況	人的面			掲載更新年月日																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
						人数	異年齢構成の場合の内訳					教育・保育等従事 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	状況	死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	ソフト面																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳											5歳以上	学童			その他	マニュアルの有無	事故予防	研修実施頻度【回/年】	職員配置							その他要因・分析、特記事項	改善策																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
3221	令和3年5月31日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5 2. 午前中	2. 施設敷地外(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	31						6	6	14. 2歳	1. 男児					1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足首上部骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	2. 不定期に実施	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															

[illegible]

[illegible]

No	概要 初回掲載年月日 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故にあった子どもの状況		事故発生時の要因分析		ハード面		環境面		人的要因		掲載更新年月日																		
					発生時の体制	人数	異年齢構成	場合の対応	内訳	その他		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転機	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要因・特記事項	改善策		対象児の動き理由	担当職員	他の職員	その他要因・特記事項	改善策													
3278	令和3年5月31日	1.認可	9月7日午後	2.施設敷地内(室内・園庭等)	5.4歳児クラス	57					2	2歳	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕左桡骨頸部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	8	3	4	3—	前転を行う前に、走っているスピードが速くなる。もし止まれば止まらなければならない障害物を配置するようにする。	1.集団活動中・見守り	走っている勢いで手をとどめるか当該園児を見失ったと考えられる。	1.いっもりの様子であった	事故前は、普段通りで通っていたが、直後は泣いて訴えたが、その後少しづつ歩いたが、通常の動きをしていた。	2.対象児の遠くで見えていた	当該園児のグループを走らせていたところを見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	担当職員と一緒に園児を見つけた。	—	前転を行う位置で、もう一人職員が待機する。もしくは、走り込んで前転すると危険であることなど、どのような危険があるかについて話をすること。	
3279	令和3年5月31日	1.認可	7月2日午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	110	5	25	38	35	13	13歳	16歳	4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2	1	毎日	固定遊具ではない活動用の遊具は、言葉での約束確認だけでなく、【あそびません】プレートを遊具につける。	1.集団活動中・見守り	保育参加の日でも達子やワッキーが落ちてしまった。	1.いっもりの様子であった	友だち3人と、保育参加の人で雲梯をしていました。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	各コーナーに職員がついて、保育参加の時も対象児を見ていた(至近距離にいた)	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	保護者の見守りがあつたため、少し離れた場所であつた子どもに気づいた。	園舎側からわくわくハウスの隠れ家が見えない	保育者が必ず雲梯・畑側に1人はつく。	
3280	令和3年5月31日	1.認可	3月7日午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50	7	9	11	8	7	8	9歳	17歳	5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	1	—	—	遊び方が危険であつたため、監視のため、ハード面では改善策を考えます。	1.集団活動中・見守り	落下のある危険のある遊具の近くに職員を配置するようにする。担当職員がその場を離れるときは必ず引き継ぎを行う。	1.いっもりの様子であった	特に普段とは変わっていませんでした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が鉄棒で遊んでいることは確認していたが、他も見守っていたため、園児の含めていないために、園内にいた。	2.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	園庭に3歳未満の園児もいるため、いろいろな行動に注意を払う必要があつた。また園庭の広範囲で園児が遊んでいたため、職員一人当たりの管理範囲が広がってしまった。そのため、対象園児が鉄棒で遊んでいるのを注視することができなかった。	職員の配置人数の基準を満たさず、危険箇所を全体で把握し、適切な職員配置を行うとともに、園内研修を行い、職員に周知徹底を図る。		
3281	令和3年5月31日	1.認可	6月2日午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	19					2	1歳	16歳	4歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	左第3趾挫傷 左第3趾基部骨近位常端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	3	12	1	12	立ち上がりの際などにふともも幼児は骨折する	1.集団活動中・見守り	情緒の安定や落ち着いた行動を促す	1.特定にない	特定にない	2.対象児の遠くで見えていた	運動場で遊んでみた	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	支援対象の他児への対応をしていた	自らの使用の方が、発達過程である	本児の発達を配慮した声かけや援助。	

No	初 回 掲 載 年 月 日	概 要 認可・認可外	施設・事業 所種別	事 故 発 生 時 期 月 時間帯	発 生 場 所	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事 者 うち保育教 諭・幼稚園 教諭・保育 士・放課後 児童支援員 等	事故に あ っ た 子 ど も の 年 齢	性 別	特 記 事 項	事故状況 発生時状 況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故 誘 因	事故発生の要因分析					ハード面					環境面 教育・育 成・支 援の状 況	その他要 因・分 析、特 記 事 項	改善策	人的面					掲載 更 新 年 月 日								
						人数	異年齢構成の場合の内訳					事故 予 防 研 修 実 施 頻 度 【回/ 年】	職 員 配 置	その他要 因・分 析、特 記 事 項	改善策											施設の安全点検 実施頻度 【回/ 年】	遊具の安全点検 実施頻度 【回/ 年】	玩具の安全点検 実施頻度 【回/ 年】	その他要 因・分 析、特 記 事 項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き に何をしていたか	他の職員の動き に何をしていたか	その他 要因・分 析、特 記 事 項	改善策																	
							0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳																												5 歳以上	学 童	その他											
3305	令和3年5月31日	1.認可	1. 幼保連 携型認定 こども園	5	7. 午後	1. 施設敷 地内(室 内)	6. 5歳以 上児クラ ス	30							2		2	17. 5 歳	1. 男 児		2. 室内活 動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢 (腕・手・手 指)	右橈骨遠 位端骨折	5. 他児 から危 害を加 えられ たもの	1. あり	2. 不定 期に実 施		1. 基準 配置	職員配置 に問題は なかった	なし	1. 定期的 に実施	3	1. 定期的 に実施		3	施設、設 備等に問 題はな かった	なし	3. 個人 活動中・見 守りあり	保育の状 況に問題 はなかつ た	なし	1. いっ ぽりのお どりの様 子であ った	特に変わ った様 子はな かった	4. 対象 児の動き を見てい なかつ た	給食後、 教室内の 食後の様 子を見な がら、多 目的のホ ール側の ドアの所 から友達 とあそん でいた所 を見て、 走らない ように声 をかけた 直後は走 っていな かった。 その後転 んだが、 転んだこ ろは見 ていなか った。	2. 担当 者・対 象児の 動きを 見てい なかつ た	それぞれ クラス活 動中	多目的 ホールに いた職員 は他児に 係わって いたため 、転んだ 子どもの 様子が解 らなかった。 教室から 声をかけ た教師も 事故の様 子には気づ けなかつ た。	教室から 声をかけ た時に、 もう少し 様子を見 守るべき だった。 降園時の 視察を丁寧 に行う。	
3306	令和3年5月31日	1.認可	1. 幼保連 携型認定 こども園	1	7. 午後	1. 施設敷 地内(室 内)	7. 異年齢 構成	68		30	17	21			4		4	17. 5 歳	2. 女 児		2. 室内活 動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	5. 下肢 (足・足 指)	右足関節 捻挫	2. 自らの 転倒・衝 突による もの	1. あり	3. 未 実施	—	2. 基準 配置	危機管理 研修不足	危機管理 研修の受 講	1. 定期的 に実施	3	1. 定期的 に実施		3	施設設備 に見直した 点はない	特にな い	4. 個人 活動中・子 どものみ	バス乗車 の子ども 達が降園 し誰もい ない教室 になった	誰もいな い教室に 行かない ように伝 える	1. いっ ぽりのお どりの様 子であ った	スキップ ・けんを してあそ んでいた	4. 対象 児の動き を見てい なかつ た	多目的 ホールで 他児と関 わって、 教室に 移動した ことに気づ けなかつ た。	2. 担当 者・対 象児の 動きを 見てい なかつ た	多目的 ホールで 他児と関 わって いた。	課外活 動で残 るものを どのように 待たせる か、把握 が十分で なかつ た	課外活動 の体操教 室と連携 をとる。バ ス降園後 の園内巡 回。	
3307	令和3年5月31日	1.認可	1. 幼保連 携型認定 こども園	10	8. 夕方 (16時頃 ～夕食提 供前頃)	2. 施設敷 地内(室 外・園庭 ・校庭等)	7. 異年齢 構成	46		12	11	23			4		2	18. 6 歳	1. 男 児		1. 屋外活 動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢 (腕・手・手 指)	右手上腕 の骨折	1. 遊具 等からの 転落・落 下	1. あり	2. 不定 期に実 施		1. 基準 以上配 置	全体を指導 保育した ため、雲 梯だけに 保育者が 付くこと をしてい なかつ た。	雲梯につ ける職員 がいな い場合は 、雲梯の 使用禁止 とする。	1. 定期的 に実施	12	1. 定期的 に実施		12	運動遊具 の点検を 続け、遊 具の下や 砂の状態 にも配慮 して行く 必要がある 。	運動遊具 の下は砂 が移動す ることが あり、安 全シートの 状況にも 毎日点検 で徹底管 理を行う 。	1. 集団 活動中・見 守りあり	全体を見 守っていた が、慣れ ている雲 梯にすぐ 入り安全 を確認す る。また 、職員が 補助でき ない場合 は、その 時間は使 用禁止と し、指導 を徹底す る。	子どもた ちが雲梯 を使用す る際は、 必ず補助 に入る。	1. いっ ぽりのお どりの様 子であ った	雲梯が上 手になり 、下がつ て体が揺 らしてい た。	4. 対象 児の動き を見てい なかつ た	全体の様 子を見て いたため 、その瞬 間の本人 の様子を 見てい なかつ た。	2. 担当 者・対 象児の 動きを 見てい なかつ た	担当4名 以上の職 員は、各 クラスの 環境整備 をしてい た。	基準以 上の配 置をして いたが、 各遊具に 1名の補 助にはな らなかつ た。	子どもた ちが雲梯 を使用す る際は、 職員が入 り安全を 確保す る。また 、職員が 補助でき ない場合 は、その 時間は使 用禁止と し、指導 を徹底す る。	
3308	令和3年5月31日	1.認可	1. 幼保連 携型認定 こども園	10	2. 午前中	2. 施設敷 地内(室 外・園庭 ・校庭等)	5. 4歳児 クラス	21							2		1	16. 4 歳	1. 男 児		1. 屋外活 動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢 (腕・手・手 指)	右腕の肘 骨折	3. 子ど も同士 の衝突 による もの	1. あり	2. 不定 期に実 施		1. 基準 以上配 置	尻尾取り ゲーム中 に夢中にな り、周り が見えて いなか った。	ゲームの 楽しさだ けでなく 危険性も 知らせ、 約束事 を守って 参加す るように 指導す る。	1. 定期的 に実施	48	1. 定期的 に実施		48	夢中にな るゲーム は全体が 良く見渡 せる位置 で、しつ かりと 見守る。 危険を感 じたら吹 笛をして 行動を制 止する。	保育教諭 は全体が 良く見渡 せる位置 で、しつ かりと 見守る。 危険を感 じたら吹 笛をして 行動を制 止する。	1. 集団 活動中・見 守りあり	1. いっ ぽりのお どりの様 子であ った	4. 対象 児の動き を見てい なかつ た	保育者も 一緒に ゲームに 参加して いたの で、危険 を察知す るのが遅 れた。	2. 担当 者・対 象児の 動きを 見てい なかつ た	—	園児が夢 中になる ゲーム を行うと きは、広 いスペース で行う。 前をよく 見て走る ように注 意する。					

No	初 回 掲 載 年 月 日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故にあった子どもの年齢性別特記事項	事故状況 発生時状況					事故の転帰 死亡原因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面					ハード面 施設の安全点検				環境面 教育・保育・育成支援の状況	人的面 対象児の動き理由	担当職員の動きを 何をしていたか	他の職員の動きを 具体的に何をしていたか	その他 要因・特記事項	改善策	掲載更新年月日																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
						発生時の体制	人数	異年齢構成の割合	場合の内訳	学童その他	状況	状況	状況	状況	状況			状況	状況	状況	状況	状況						状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況								状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故にあった子どもの 年齢 性別 特記事項	事故状況 発生時状況					事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面					ハード面 施設の安全点検実施頻度【回/年】					環境面 教育・育成支援の状況	その他の要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き理由	担当職員の動きを 具体的に何をして いたか	他の職員の動きを 具体的に何を していたか	その他の 要因・分析、 特記事項	改善策	掲載更新年月日
						人数	異年齢構成の場合の内訳					死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名			事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他の 要因・分析、 特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】		遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他の 要因・分析、 特記事項	改善策															
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																	5歳以上	学童	その他												
3322	令和3年5月31日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10 7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	38									5. 食事中(おやつ含む)	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右機骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	—	1. 基準以上配置	本児のけがの状況確認を完全には把握していなかった。職員室にいた職員にも詳しく伝えられていなかったため対応が遅れた。	職員で聞き取り・アンケート調査をした後の保育体制を見直す。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	3 —	6. 食事(おやつ)中	2号認定児の増加により、5歳児と4・3歳児に分かれての保育を実施。 保育は合同で行う場合は5歳児、4・3歳児で見分けて行う。椅子の正しい座り方の確認をする。	—	普段から落ち着きやすい子どもが近くにいて、弟に気が取れていた。 椅子の方を再指示したが指し示す、近くにいる保育者が止まらず、倒れかけた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育者一人が、安全に対する意識を高めようとする責任を持って当ことを確認しよう。	両親と話しいかがいについてのお伝えをした。落ち着きのない本児へのかかわり方を今後面談をすることとした。	
3323	令和3年5月31日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10 8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭等)	5. 4歳児クラス	19									1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右機骨頭骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	「遊びのルール」というマニュアルがあるが、鉄棒のルールとしては、①やっついている子以外は鉄棒エリア（地面が茶色）に入らない。②鉄棒の上に登らない。③職員が1人以上付き安全を確認する。という内容である。	「遊びのルール」の記載内容を再見直し安全管理の強化を図る。ただし、ルールでがんじがらめにすることは、子どもたちの主体的な遊びを束縛するのであるのを配慮していく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	定期点検、使用前点検を行う。設備の不具合があれば速やかに改善し、安全設備を維持する。	自由遊び時間中に開放的になり、頑張りすぎた。 鉄棒の破損箇所はなく、地面もゴムチップ舗装、クッション性があるので大きな問題は無いと考えた。	子どもたちで退屈した様子が見られたので、副担任とフリー保育で遊ばせていた。鉄棒のすぐそばで対象児を見た瞬間に落下してしまうこともなかった。	いつもと変わらず何んでも鉄棒で遊んでいた。 1. ひとつのおもりの様子であった	主担任が早番勤務だったため、副担任とフリー保育で遊ばせていた。鉄棒のすぐそばで対象児を見た瞬間に落下してしまうこともなかった。	園庭で他児の遊びを見ていたため、見なかった。	何度も鉄棒に挑戦していたため、疲労がたまり落下してしまっていた。	・子どもたち及び職員に再度、鉄棒の安全な遊び方、危険性等について説明指導していく。 ・子どもたちに細目に声をかけをし、無理のないよう指導していく。	
3324	令和3年5月31日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10 8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭等)	7. 異年齢構成	40									1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	事故発生時は、園庭に出ていた職員3人でそれぞれ配置しながら園庭全体をみていた。	うんていと鉄棒等の遊具の見守りをもっとルール化する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	2. 不定期に実施	—	当日は夕方の園庭での自由遊びの時間は3.4歳児クラスだけがあり、他の職員が園庭に出ず、3人で園庭全体を見守るような状態になっていた。	●●にうんてい下部と鉄棒下部に安全ネットを設置。うんてい踏み台部分にコーダーガードを取り付けた。	うんていでぶら下がったのは初めてだったので、ぶら下がった瞬間に怖くなり両手を離した。	3. 4歳児担任5名は園庭に出ており、うんていでは別の遊具についていた。担当職員3名は目の前の園庭のみをみただけでなく、周囲の園児の様子も見守っていた。全体的に見ると、全体的に安全確保はできていた。事故発生時に、事故原因を特定するために、園庭全体の状況を把握することが必要だと考えている。	4. 対象児の動きを見ていた	幼児クラス担当職員は、園庭に出て園児の活動を監視している。園庭全体の状況を把握することが必要だと考えている。	園庭遊びの時には複数職員が出て園児の活動、見守り体制を強化する。園々の遊具のリスクを再考する。		
3325	令和3年5月31日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9 7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭等)	4. 3歳児クラス	50									1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右第一中足骨骨折 右足第1中足骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	今回の現場は、高さが低いところであり、高さのある遊具ではない。	死者を作らないように見回りを行う。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	異年齢の園庭にて自由に遊ぶ時間がある。起る原因が多岐にわたる。	起る原因を振り返る。	1. ひとつのおもりの様子であった	その遊具で遊んでいて、高さが低いため、高飛び降りをしないと思った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていた	活動の際には遊具の使い方を伝えていくが、高さが低いことから飛降りる危険があることがわかった。	再度、園児にはその高さから飛降りる危険があることを伝える。		

No	初 回 掲 載 年 月 日	概要		施設・事業 所種別	事 故 発 生 時 期 月 時 間 帯	発 生 場 所	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事 者 うち保育教 諭・幼稚園 教諭・保育 士・放課後 児童支援員 等	事故にあった子どもの			事故状況		事故の転帰		事故 誘 因	事故発生の要因分析					ハード面					環境面 教育・育 成・支 援の状 況	その他要 因・分 析、特記 事項	改善策	人的面		その他 要 因・ 分 析、 特 記 事 項	改善策	掲載 更 新 年 月 日						
		人数	異年齢構成の場合の内訳					年齢	性別	特記事項	発生時状 況	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	ソフト面 マニ ュ ア ル の 有 無		事故予 防 研 修 実 施 頻 度 【回/ 年】	職員 配 置	その他要 因・分 析、特記 事項	改善策	施設の安全点 検 実 施 頻 度 【回/ 年】	遊具の安全点 検 実 施 頻 度 【回/ 年】	玩具の安全点 検 実 施 頻 度 【回/ 年】		その他要 因・分 析、特記 事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に 何をして いたか	他の職員の動き 具体的に 何をして いたか																			
			0 歳				1 歳																								2 歳	3 歳	4 歳	5 歳 以上	学 童				その他										
3352	令和 3年5 月31 日	1.認可 2.認可 外・認可 外	11	7.午後	2.施設敷 地内(室 外・園 庭・校 庭等)	7.異年齢 構成	25		2	9	5	8	1		2	1	15. 3 歳	1.男 児	—	1.屋外活 動中	1.負 傷	—	2.骨折	1.頭部	—	1.遊具 等からの 転落・落 下	2.なし	3.未 実施	—	2.基準 配置	—	—	2.不定期 に実施	—	3.未 実施	—	—	1.集団 活動中・ 見守り	本人は手 を離して いるが、 故手を離 したのか、 すべった のか、そ のあたり がわかり ない	ジャング ルの下に 綱、芝生 等をしい たが、良 い方法が 見つから ず、3歳 児も遊 べるよう に遊具を 注文して います。 ジャング ル使用す る場合は そのみ みを使用 すること とする。	1.いつも の様子 であ った	元々、こ の子はこ のよう な子で ない。何 も異な った。	3.対象 児から 離れた 場所で 対象児 を見て いた	遊んでい ることは わかって いたが、 他の子と ドラブル をしながら の瞬間に は見てい ない。	2.担当 者・対 象児を 見てい なかつ た	他児のト ラブルで 目をそ らした ときの 出来事 だった。	—	—	
3353	令和 3年5 月31 日	1.認可 2.幼稚園 型認定こ ども園	10	1.朝(始 業～午前 10時頃)	1.施設敷 地内(室 内)	4.3歳児 クラス	—							1	1	16. 4 歳	1.男 児	—	8.その他	1.負 傷	—	2.骨折	4.上肢 (腕・手・ 手指)	右手薬指 骨折(ヒ ビ)	2.自らの 転倒・衝 突による もの	1.あり	2.不定期 に実施	—	1.基準 以上配 置	—	階段の上 り下りの 際は、手 すりを活 用する ように 促す。	1.定期的 に実施	3	1.定期的 に実施	3	1.定期的 に実施	3	—	1.集団 活動中・ 見守り	手すりが 整備され ているの で、手す りを利用 するよう に促す。	階段での 転倒は骨 折等の怪 我につな がるの で、日ご ろの保育 で注意を する。	1.いつも のよう な子で あった	—	2.対象 児の至 近で対 象児を 見てい た	—	1.担当 者・対 象児の 動きを 見てい た(至 近距離 にいた)	—	当初はひ びに気づ かなか ったの で、早め に保護 者に連 絡し、病 院への 受診を 勧める ように する。	
3354	令和 3年5 月31 日	1.認可 2.幼稚園 型認定こ ども園	12	2.午前中	2.施設敷 地内(室 外・園 庭・校 庭等)	7.異年齢 構成	91							12	6	16. 4 歳	2.女 児	—	1.屋外活 動中	1.負 傷	—	2.骨折	4.上肢 (腕・手・ 手指)	右腕骨折	2.自らの 転倒・衝 突による もの	1.あり	1.定期的 に実施	1	1.基準 以上配 置	—	—	1.定期的 に実施	0.5	1.定期的 に実施	0.5	2.不定期 に実施	12	普段から 遊んでい る場所だ がつまず いて転倒 、下りだ したこと もあり勢 いがつい て今回の 事故につ ながった と考え る。	遊具安全 点検に基 づいて、 予算の範 囲内で遊 具の改善 を図って いく。昨 年度、ト ンネル山 は土を入 れ補修も している 。	行事の際 には子ど も達が落 ちるこ こでも 安全に 遊ぶこ とを考 慮し、上 に配慮 する。	行事のた め、通常 では違う 日程や 時間設定 であつ た。	1.集団 活動中・ 見守り	登園時か ら特にな かったと 思われ る。	2.対象 児の至 近で対 象児を 見てい た	事故当時 、対象児 と一緒に 遊んでい た。対象 児は手を のばされ た瞬間に は見てい なかつた ので、す ぐに駆け 下り職員 室へ対応 した。	2.担当 者・対 象児の 動きを 見てい なかつ た	他の幼児 と園庭の 違う場所 であつた 。	トンネル 山での安 全な遊び 方につい て職員間 で検討す る。	

[illegible]

[illegible]

No	初 回 掲 載 年 月 日	概要 認可・認可外		施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの年齢 性別 特記事項			事故状況発生時状況		事故の転帰		事故誘因	事故発生の要因分析							ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面		担当職員 の動き 具体的に何をしていたか	他の職員 の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日							
							発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳					教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	ソフト面 マニュアルの有無		事故予防 実施頻度【回/年】	研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き理由	対象児の動き 具体的に何をしていたか																						
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																											5歳以上	学童						その他						
3403	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	2	午前中	施設内（室外・園庭等）	3歳児	34	11	22	29	34	40	38	0	2名	2名	3歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢（腕・手・手指）	—	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度（2）回/年	基準以上配置	遊びの範囲が広がった（ブランコ、雲梯、鉄棒）	ヒヤリハット用紙、マニュアルの見直し	定期的に実施	実施頻度（適宜）回/年	定期的に実施	実施頻度（ ）回/年	不定期に実施	実施頻度（ ）回/年	年少児対象の遊具ではなかったか	雲梯の撤去と園庭遊具周辺にクッション材を検討中	集団活動中・見守りあり	補助の位置	活動範囲の見直しと補助の仕方の検討	いつもどおりであった	（具体的内容記載欄）補助されながら3、4回繰り返す	対象児とマンツールの状態（対象児に接していた）	（具体的内容記載欄）対象児とマンツールの状況（右前方より右の足を足の間に、左より後方より左手を支える）	担当者・対象児の動きを見なかった	（具体的内容記載欄）ブランコの補助中、見ていなかった	補助の仕方	活動範囲の見直しと補助の仕方の検討人数に見合った遊びの範囲	
3404	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	2	夕方（16時頃～夕食提供前頃）	施設内（室内）	異年齢構成	35	2名	6名	9名	8名	10名	名	3名	3名	6歳	男児	なし	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢（腕・手・手指）	左小指基節骨骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度（4）回/年	基準以上配置	今年度、飛び箱をする機会が数か月に行った。	運動遊具での遊びを計画的に取り入れ、遊具の扱い方をしっかり確認し子どもたちには知らせていく。	定期的に実施	実施頻度（12）回/年	定期的に実施	実施頻度（12）回/年	定期的に実施	実施頻度（12）回/年	なし	なし	集団活動中・見守りあり	準備運動では、指の曲げ伸ばしや足首を回すなど細かな運動をなかった。	準備運動の項目を確認し、いろいろな運動遊びのときは、準備運動をしっかりと行っていく。	いつもどおりであった	（具体的内容記載欄）自分では跳べると思っていたが、イメージと実際の体の動きに差があり、指を曲げて台に付いてしまった。普段通り、過ごしていた。	対象児の動きを見ていた	（具体的内容記載欄）飛び箱に付き、順番に跳ぶ様子を見ていた。	担当者・対象児の動きを見なかった	（具体的内容記載欄）長縄跳びとトンネルの遊びにそれぞれで見ていなかった。	始めから勢いよく助走をつけて跳んでいた。	助走をつけずに跳び箱にまたがることや準備運動で指先まで意識するなどの練習を行う。		
3405	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	1	午後	施設内（室外・園庭等）	3歳児	23	名	名	名	名	名	名	2名	2名	4歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢（腕・手・手指）	右ひじ骨折	遊具等からの転落・落下	あり	定期的に実施	実施頻度（2）回/年	基準配置	特になし	特になし	定期的に実施	実施頻度（1）回/週	定期的に実施	実施頻度（1）回/週	定期的に実施	実施頻度（1）回/週	雲梯を使用する際は、必ずマットを敷いている。普段は上手に着地している。	これから、雲梯をマットを敷き、着地するところをしっかりと見届けるようにする。	当該園児は一人であり、帰るときに、途中で休憩を入れるなどの配慮が必要である。	当該園児は一人であり、帰るときに、途中で休憩を入れるなどの配慮が必要である。	雲梯が好きでも、何回も取れなくなると思うので、時間を決めて帰る。途中で休憩を入れるなどの配慮が必要である。	いつもどおりであった	（具体的内容記載欄）当該園児の体調は、いつも元気であった。	対象児の動きを見ていた	（具体的内容記載欄）当該園児のそばにいたが、職員の後ろを向いて対峙していた時に、園児が落下した。瞬間を見ておらず、園児もその時は泣かず、また、雲梯をしようとしたため、職員も気が付かなかった。	担当者・対象児の動きを見なかった	（具体的内容記載欄）保育室に入らなかったため、他の子どもに片づけていた。5歳児の職員は、雲梯と反対側で5歳児の子ともと一緒に鬼ごっこをしていた。	職員1人が雲梯に付き、子どもの補助をしていたが、職員の後ろを向いて対峙していた時に、園児が落下した。瞬間を見ておらず、園児もその時は泣かず、また、雲梯をしようとしたため、職員も気が付かなかった。	子どもの発達や身体能力に合わせた補助を行う。また、異常を感じたら、すぐに園長・主任に報告する。		

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・児童支援員等	事故にあった子どもの年齢・性別・特記事項			事故状況発生時状況					事故誘因	事故発生の要因分析ソフト面					ハード面				環境面			人的面			掲載更新年月日							
						発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の割合					内学童その他	死亡死因	負傷負傷状況		受傷部位	診断名	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他の要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】		玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他の要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他の要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き理由	担当職員の動きを何をしていったか	他の職員の動きを具体的に何をしていたか	その他の要因・分析、特記事項	改善策												
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																									5歳以上											
3409	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	1 午前中	施設内（室内）	異年齢構成	10名	4名	6名	名	名	名	名	3名	3名	1歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面（口腔内含む）	打撲により前歯（乳歯）がぬけた	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度（10）回/年	基準以上配置	保育士が子供の行動を予測できていなかった。	部屋の環境設定を見直し、危険のないようにする。保育士の動きを見直し、清掃の加配を行う。	定期的に実施	実施頻度（毎日）回/年	定期的に実施	実施頻度（毎日）回/年	不定期に実施	実施頻度（毎日）回/年	アレルギーマスクのため、机の数が多い。置き場が狭い。不衛生であった。	家具の置き方を全体で見直し、危険のないようにする。	狭い所に入り込んでいて、友だちと一緒になって遊んでいる子供がいた。友だちと一緒になって遊んでいる子供がいた。友だちと一緒になって遊んでいる子供がいた。	いつもの様子であった	（具体的内容記載欄）友だちと一緒に遊んでいた。	対象児の近くで対象児を見つけた。	（具体的内容記載欄）子供たちの着替えや排泄の手伝いをしていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載欄）食後の片づけや子供たちの着替えの手伝いをしていた。	子供たちの着替えの手伝いをしながら、一人が排泄の補助をしていたため、遊びの側についていなかった。	清掃の加配をつけ、3名の保育士が子供たちの着替えに関わり、遊んでいる子供を見届けるよう届する。
3410	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	11 朝（始業～午前10時頃）	施設内（室内）	2歳児	10名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	3歳	女児	特になし	その他	負傷	—	骨折	上肢（腕・手・手指）	右肘関節骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度（1）回/年	基準配置	マニュアルや研修、人員配置に関する問題なし。	事例検証をし、再発防止を図る。	定期的に実施	実施頻度（1）回/月	定期的に実施	実施頻度（1）回/月	定期的に実施	実施頻度（乳児：毎日、幼児：月1）回/年	特になし。	今後も安全なポイントを確認する。	集団活動中・見守りあり	靴を脱いだらすぐに履いていた。	いつもの様子であった	（具体的内容記載欄）戸外あそびが終わった後、靴を履き替える際に、全員で手を洗って待っていた。女の子が転んだ位置から約3.3mの位置にいた。	担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	（具体的内容記載欄）玄関から靴を脱いでいるところを見た。女の子は動かないで待っていた。	普段から転びやすいので、子どもを助けてあげておくべきであった。	事例を検証し、環境面を考慮して保育士との連携を図る。	
3411	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12 午前中	施設内（室外・園庭等）	異年齢構成	70名	名	名	23名	18名	23名	名	6名	5名	4歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	体幹（首・胸部・腰部）	右鎖骨骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度（必要に応じて実施）回/年	基準配置	確認事項や危機管理マニュアルなどをより確認し、危機意識を高めていく。	定期的に実施	実施頻度（1）回/月	定期的に実施	実施頻度（1）回/月	定期的に実施	実施頻度（数回）回/年	バスケットの上では靴を脱いで遊ぶのを禁止している。当日も靴を脱いで遊ぶのを止めた。移動するときに滑ってしまったと推測される。	靴を脱いだらすぐに履くことを徹底させる。	集団活動中・見守りあり	当日、クラス担任はクラスの職員や他クラスの職員に声をかけ、子どもたちと一緒に遊んでいた。職員は数名の子どものそばに立ち回り、見守りをしていた。	クラス担任はクラスの職員や他クラスの職員に声をかけ、子どもたちと一緒に遊んでいた。職員は数名の子どものそばに立ち回り、見守りをしていた。	（具体的内容記載欄）担任は4歳クラスの前より、全体を見守っていた。本日は担任が一人で遊んでいた。対象児の近くには遊ばせていない。	どんな遊びをしているかを事前に把握していた。また、実働的な指導については分かっていなかった。	落ち着いている場合でも目の行き届いた状況を確認できた。				

[illegible]

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故にあった子どもの 年齢 性別 特記事項			事故状況 発生時状況		事故の転帰					事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面					ハード面					環境面 教育・保育・育成支援の状況	人的面			掲載更新年月日					
						発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳					学童 5歳以上 その他	状況	死亡 死因		負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】		玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き理由	担当職員 の動きを 見せていたか	他の職員 の動きを 見せていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策												
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																								5歳以上											
3428	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	3 午後	施設内（室内）	4歳児	21名	名	名	名	名	名	1名	1名	5歳	男児	身長121cm、体重21kg、満傾向テンションが上がる時がある。気分により集団行動をとらない事がある。発生時の天候は晴れ。	室内活動中	負傷	—	骨折	下肢（足・足指）	右胫骨幹部骨折、右足部捻挫	自らの転倒・衝突によるもの	あり	未実施	実施頻度（1回/年）	基準配置	特に無し。	特に無し。	不定期に実施	実施頻度（2～3回/年）	定期的に実施	実施頻度（48回/年）	不定期に実施	実施頻度（2回/年）	一人でバランスを崩して転んだため、怪我を被った。	柔軟性・筋力を高めるなど、身体を十分に動かす遊びを取り入れ、怪我をしない体をつくる。	いつもどおりの様子であった。	（具体的内容記載欄） 他児はみんなで大きな声を出して言葉を練習していたが、じっとしていない子もいるので、声掛けも少なくし見守っていた。対象児を含め、児童全体を見ていたが、危険な行動ではなかった。	対象児の至近で対象児を見ていた。	（具体的内容記載欄） 目頃から、集団行動へは無理に誘う事はしないで見守るような子もいるので、声掛けも少なくし見守っていた。対象児を含め、児童全体を見ていたが、危険な行動ではなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった。	（具体的内容記載欄） 一人担任での保育であったため、応援を求めている状況から行動した。	特に無し	子どもの動きをさらに想定、把握するよう気を配る。	
3429	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	2 午前中	施設外（園外保育先・公園等）	5歳以上児	32名	名	名	名	名	名	7名	3名	6歳	男児	特になし	室内活動中	負傷	—	火傷	上肢（腕・手・手指）	火傷	その他	あり	定期的実施	実施頻度（12回/年）	基準以上配置	特に無し	園外での事故について振り返り、職員へ報告、周知徹底した。	定期的実施	実施頻度（2回/年）	定期的に実施	実施頻度（2回/年）	定期的に実施	施設の設定が大人用であったため、子ども向けに台を置くなどの配慮が必要であった。	子ども達も園外施設で遊ぶ機会が多いため、園外施設での活動に慣れていた。	子ども達も園外施設で遊ぶ機会が多いため、園外施設での活動に慣れていた。	（具体的内容記載欄） 5歳児の職員も近くまで一緒に野菜を切る、グループに分かれて昼食作りをしていた。	担当者・対象児の動きを見て（至近距離にいた）	（具体的内容記載欄） 5歳児の職員も近くまで一緒に野菜を切る、グループに分かれて昼食作りをしていた。	後、子ども自身も火傷を負った際に活動が出来なくなった。職員へ声を掛けられ、活動の前後に十分注意を促すよう行動した。子どもは危険な行動をしないよう注意を促すよう行動した。	今回、火を使う活動であったため、活動の前後に十分注意を促すよう行動した。子どもは危険な行動をしないよう注意を促すよう行動した。				
3430	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	3 午後	施設内（室内）	4歳児	11名	名	名	名	名	名	1名	1名	5歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢（腕・手・手指）	左母指中手骨近位端骨端（線）損傷	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	年13回	基準配置	保育士が本児の動きを予測できなかった。	運動遊びの指導ポイントを研修で確認し、安全に留意する。	定期的に実施	実施頻度毎日	定期的に実施	実施頻度週に1回	定期的に実施	広さは十分にあり、床のおうとくもが滑りやすいため、怪我を被った。	全員が一斉に跳び、急な動きが多いため、安全を確認しながら保育を行う。	いつもどおりの様子であった。	まだ一人縄跳びが出来ず、一人で縄跳びをするのが苦手であった。	至近距離にいたため、急な動きが多いため、安全を確認しながら保育を行う。	担当者・対象児の動きを見ていなかった。	遊戯室には担任一人、急な動きが多いため、安全を確認しながら保育を行う。	いつも一人ひとりの発達状況を把握して適切な指導を行う。				

[illegible]

[illegible]

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故に合った子どもの年齢			性別	特記事項	事故状況発生時状況	事故の転帰					事故誘因	事故発生の要因分析ソフト面					ハード面				環境面 教育・保育・育成支援の状況	人的面		担当職員	他の職員	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日				
							発生時の体制	人数	異年齢構成の割合	場合の学室以上	内訳その他	死亡原因	負傷負傷状況	受傷部位	診断名	事件予防研修実施頻度【回/年】		職員配置	その他の要因・分析、特記事項	改善策				施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他の要因・分析、特記事項	改善策		対象児の動き理由	担当職員の動きを何をしていたか	他の職員の動きを何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策																
3449	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	異年齢構成	68名	9歳	10歳	12歳	11歳	14歳	12歳	0名	11名	11名	6歳	女児	無し	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	子ども同士の間で衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	前日に嘔吐あり。体調がすぐれない場があった。	寝転がる子は、声かけし、体調がすぐれない場合は医師に連れていく。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	保育室の絵本コーナーの位置は適切であったか	絵本コーナーの位置再度確認	集団活動中・見守りあり	(具体的内容記載欄)指診の確認	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)本児は朝の終わりが絵本コーナーにいる	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)	寝転んで遊ぶ子。走り回っている子への声かけや指導が不十分であった	保育室での遊び方、約束事について子供達に伝える。保育者の見る位置や環境をもう一度、園全体で話し合う朝の受け入れや、遊び方に配慮する。	
3450	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	1	昼食時・おやつ時	施設内(室内)	3歳児	17名	名	名	名	名	名	名	名	2	2歳	男児	特になし	室内活動中	負傷	—	その他	上肢(腕・手・手指)	右第5指中節骨ひび疑い	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(3)回/年	基準以上配置	食事の準備や片付けで、食器など(台布巾、残食ボウル)を持って階段を上る際に意図的ではなかったが、子どもが持つ物と、大人が持っている物を混同し、もしも転倒してしまっただけで済んだかもしれない。平面的な床で歩いている時に、足元が滑って倒れた。食器は大人が保育室まで運ぶことにした。	食器は子どもには運ばせずに、大人が保育室まで運ぶことに変更。他の園児達にもお友達で階段で手の指を打ってしまったことを子どもに伝えておく。年齢的な含め、子どもは適切な行動をとることができない。大人の判断と見極めが必要である。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	床や階段の状態ではないかと、点検事項として追加する。	集団活動中・見守りあり	(具体的内容記載欄)お皿を4枚、両手に持ち1段階ずつ登っていた。	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)本児が転倒すると「大丈夫？」「大丈夫？」と声をかけたが、様子を確認した。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	他は、保育者と他の子ども達と一緒に注意を促す。	子ども自身も自分をつけれないように、日常的に繰り返すように注意を促す。				
3451	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	朝(始業～午前10時頃)	施設内(室外・園庭等)	異年齢構成	106名	11歳	16歳	19歳	24歳	14歳	22歳	名	18名	17名	4歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	—	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(3)回/年	基準以上配置	年齢的な体のつくり(頭部比率が高い)を考慮し、体の使い方を職員及び子どもに周知する。適切な年齢での遊び遊びを認識し、子どもにも正しい方法を丁寧に教える。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	ジャングルジムの破損、設置場所等に問題はない。	集団活動中・見守りあり	(具体的内容記載欄)両手をしっかりと握り、確実に1歩ずつ降りていた。	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)3～4名がジャングルジムのり、その様子を一人の職員で全体の動きをみている。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)ジャングルジム以外の場所で遊ぶ子どもをみていた	—	ジャングルジムに職員がついていないときは使用停止とする。1対1の状況でも防ぎたいと思われる。			
3452	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	3	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内)	異年齢構成	3名	名	名	1名	2名	名	名	名	1名	1名	5歳	女児	なし	登園・降園中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	左外果骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準以上配置	会議などのやりとりの中で、様々な状況下で発生することを学ぶ機会を増やす。	様々な状況下で発生することを学ぶ機会を増やす。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	床に傷みや表材の問題はない	床の固さや表材の問題はない	その他	(具体的内容記載欄)仲の良い友達が降園時間が重なり、嬉しくなって跳びあがった	(具体的内容記載欄)玄關の視察は、本児のそばに保護者がいるため、見守っていた	対象児の至近で対象児を見ていた	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)保育室で	保護者と一緒に、危険なことを想定している。保護者は、保護者の時も、早めに声をかけたり、制止したりする		

[illegible]

No	初 回 掲 載 年 月 日	概 要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故にあった子どもの状況				事故発生の要因分析							ハード面 施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他の要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育支援の状況	その他の要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き理由	担当職員 の動きを していたか	他の職員 の動きを していたか	その他の要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日								
						発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳以上	学室 その他	事故発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因		ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他の要因・分析、特記事項	改善策																												
3472	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4 午前中	施設内（室外・園庭等）	—	21名	名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折 （腕・手・手指）	左側肩下骨折	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度（3～4）回/年	基準以上配置	—	新人研修で、早い時期に事故予防に関する研修を実施する。	定期的に実施	実施頻度（1）回/年	定期的に実施	実施頻度（1）回/年	定期的に実施	実施頻度（1）回/年	園庭は全面芝生だが、鉄棒の下などにより芝が剥がれ、地面が見えた。	鉄棒の下に人工芝を敷き、落下した際の衝撃を緩和するようにした。	朝人活動中・見守りあり	合同保育の片付けと登園時間が重なり、その日は特に早番から登園する5歳児が多く落ちた状況だった。	職員（クラス担任）がホールにそろってから一緒に片付けを始める。2、3歳児の片付けを簡素化した。	扉をはずし、クックションカバーを取り付けた。	集団活動中・見守りあり	—	対象児の動きを見ていなかった	—	担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児のけんかの仲間で、担当保育者が全体を見なかった。	担当保育者の仕事分担の見直しを必ず全体で行い、必ず全体を見るようにした。	
3473	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4 朝（始業～午前10時頃）	施設内（室内）	異年齢構成	44	10人	8人	9人	17人	6人	6人	5歳	男児	なし	室内活動中	負傷	—	骨折 （腕・手・手指）	左親指末端骨折・挫創	その他	なし	不定期に実施	実施頻度（4）回/年	基準以上配置	新学期が始まり各クラスがまだ落ち着いていない状況の中での合同保育の職員の動きや配置の確認不足。	特別保育のマニュアルを見直し、配置を確認し合い共有する。	定期的に実施	実施頻度（12）回/年	定期的に実施	実施頻度（12）回/年	定期的に実施	実施頻度（12）回/年	ホールと廊下の境目に扉があり、子どもが開閉できる。	扉をはずし、クックションカバーを取り付けた。	集団活動中・見守りあり	合同保育の片付けと登園時間が重なり、その日は特に早番から登園する5歳児が多く落ちた状況だった。	職員（クラス担任）がホールにそろってから一緒に片付けを始める。2、3歳児の片付けを簡素化した。	—	対象児の動きを見ていなかった	—	担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児のけんかの仲間で、担当保育者が全体を見なかった。	担当保育者の仕事分担の見直しを必ず全体で行い、必ず全体を見るようにした。				
3474	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	1 午後	施設内（室外・園庭等）	異年齢構成	32名	名	名	名	32名	3名	3名	6歳	女児	立ち入り検査、勸告、改善命令履歴なし	屋外活動中	負傷	—	骨折 （腕・手・手指）	母指末接骨骨折	その他	あり	定期的に実施	実施頻度（1）回/年	基準以上配置	—	特になし	定期的に実施	実施頻度（1）回/週	定期的に実施	実施頻度（1）回/週	定期的に実施	実施頻度（1）回/週	周りをよく見ない前にもあったものをうまく回避できないことがその辺でも子ども自身につくようになっている。	（具体的内容記載欄） 片付けの時間だったので、他の子も一緒に片づけていた。	対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載欄） 対象児の動きを見ていなかった	担当者・対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載欄） 他も子どもと一緒に片づけていた。	3人担任のところ。この日は担任が1人体みだったので2人の保育士で担当していた。急な休みに対応できない職員がいいる現状もある。								
3475	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4 夕方（16時頃～夕食提供前頃）	施設内（室外・園庭等）	異年齢構成	18名	名	名	8名	5名	13名	4名	1名	5歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折 （首・胸部・臀部・臀部）	鎖骨骨折	子ども同士の間突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度（12）回/年	基準以上配置	新しい職員間でのマニュアル確認及び周知が未実施であった。	早急に危険個所の確認・周知を行った。	定期的に実施	実施頻度（50）回/年	定期的に実施	実施頻度（300）回/年	定期的に実施	実施頻度（300）回/年	園庭では水たまりがあり本児がいた辺りは、走り回るスペースに限られていた。	しっかりと安全な環境が確保されたい場合は広い園庭での保育は避けるべきである。	（具体的内容記載欄） あちこち目的の遊びに向いて歩いたり走ったりして動いていた。	（具体的内容記載欄） 対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載欄） 対象児の動きを見ていなかった	担当者・対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載欄） 本児からは一番近くにいたものの配慮を要する子どももいた。職員1人・砂場の遊んでいたので、子どもの行動を把握できなかった。	職員や子どもの人数その日の状況に合わせて、子どもがよく把握できるように全体を配置場所や職員間の声かけ状況を行っていく。						

No	概要 初回掲載年月日 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの特記事項	事故状況					事故の転帰	死亡原因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面					ハード面					環境面 教育・保育支援の状況	人的面 対象児の動き理由	担当職員 の動きを 担ったか	他の職員 の動きを 担ったか	その他 要因・ 特記事項	改善策	掲載更新年月日
					発生時の体制	人数	異年齢構成の割合	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童		その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士 児童支援員等	発生時状況	事故の転帰	施設の状態							安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他の要因・分析・特記事項	改善策												
3480	令和3年5月31日	1.認可 6.認可保育所	4 午前中	施設内（室内）	5歳以上児	10名	0歳1名 1歳2名 2歳3名 3歳4名 4歳5名 5歳以上6名	3名	1名	5歳男児	自閉症スペクトラムと診断されている。身体及び指先の動きが5歳児の平均に比べ不器用さがある。新年度が始まり1か月弱で、やや落ち着きを見られず、欠いた様子が見られる。	室内活動中	負傷	一	骨折	上肢（腕・手・手指）	左上腕橈骨骨折	子ども同士の間での衝突によるもの	あり	定期的実施	実施頻度（12回/年）	基準配置	本児は自閉症スペクトラムで、身体全体に不器用さが見られるが、重度には感じない。転倒した場所では、行止まり感や、余儀なくされる、体のコントロールが難しいと考えられる。	園全体でのケース会議を行い、担任以外の職員も意見を交えながら、安全な保育を行う。	定期的実施	実施頻度（50回/年）	定期的実施	定期的実施	定期的実施	300回/年	遊戯室がこじんた広さで、年長児が走るには狭く感じる。転倒した場所はステージの前であり、行き止まり感や、余儀なくされる、体のコントロールが難しいと考えられる。	狭い遊戯室での遊びを味し、計画的に運動遊びを行う	ルールを忘れて滑り込んでしまった。本児は巻き込まれた。	興奮やわだかまりが激しい園児と合わせ直す。	いつもどおりであった	（具体的内容記載欄）一緒に鬼ごっこをしながら、全体の動きを至近距離で見ていた	（具体的内容記載欄）鬼ごっこをしながら、全体の動きを至近距離で見ていた	（具体的内容記載欄）鬼ごっこをしながら、全体の動きを至近距離で見ていた	走りながら滑り止めるような危険な行動をとるため、事前に「止まらないうえ」をし、「止まることでも見るといい」と示した。	けがにつながる危険な行動があったら、遊びを一時停止しルールの確認を行う。			
3481	令和3年5月31日	1.認可 6.認可保育所	3 午前中	施設内（室外・園庭等）	5歳以上児	13名	0歳1名 1歳2名 2歳3名 3歳4名 4歳5名 5歳以上6名	2名	2名	6歳男児	発達状況は良好で、既往歴やアレルギー等もない。	屋外活動中	負傷	一	骨折	上肢（腕・手・手指）	右機首及び尺骨骨折	遊具等からの転落・落下	あり	定期的実施	実施頻度（20回/年）	基準配置	普段から園児へルール（鉄棒遊びは許可し側について指導できるように）を教えるとともに、次の行動に移った際も園庭全体を視察し、子ども達に危険がないかを確保することを確認する。	鉄棒遊びを止めさせた後、みる時の目を離し、再び鉄棒遊びを始めたことがあったこと。	鉄棒の下は砂で、突起物や周囲の障害物が無くなり、安全領域は確保されていた。	状況に応じて、マットを敷く必要があった。	鉄棒の技をする子どもには、ハード面の準備が整い、保育士が見守れる時は控えた。	いつもどおりであった	（具体的内容記載欄）当日は鉄棒を含めた園庭全体を保育士2人で見守っていた。保育士の1人は直前に鉄棒を見守った後に伝えた後、鉄棒から離れた場所で見守っていたが、ケガ発生の瞬間は鉄棒から目を離していた。もう1人の保育士は、砂場から園庭全体を見守っていたが、当該児童の姿は目に入らなかった。	対象児から離れたところで見守っていた	（具体的内容記載欄）外活動中保育士2人で対応しており、適正な配置をしていたため、担当者2名以外に関わなかった。	適正配置をしていたが、保育士は園児全体を見ながら常に安全確認をする。											
3482	令和3年5月31日	1.認可 6.認可保育所	4 午後	施設内（室外・園庭等）	異年齢構成	21名	2歳0名 0歳0名 1歳0名 2歳13名 3歳6名 4歳6名 5歳12名	12名	12名	4歳男児	一	負傷	一	口腔内受傷	顔面（口腔内含む）	上の歯A/Aが外傷性歯根破裂、歯の亜脱臼	遊具等からの転落・落下	あり	定期的実施	実施頻度（20回/年）	基準以上配置	事故現場周辺でトラブルが発生していたにも関わらず、危機意識が低かった。	小さな事故（トラップ）を見逃さず、もし○○だったと想定して対応する。	固定遊具の高さが年令に合っていないか、検証ができなかった。また、合っている場合はどうするかとの共通認識が必要だった。	年齢や発達に合った遊具の高さを揃えていく必要がある。状況によっては、下にマットを引いて高さを調整することの配慮を行う。	固定遊具が高すぎたり、遊具が動かない、遊具と遊具の間が狭いなど、遊具の配置や設置の方法が適切でない可能性がある。	運動会を控えていることもあり、緊張感が漂っていた。	3歳児は、本人が動くつもりでも十分に身体が動かない、遊ぶときは必ず、保育士が見守ることが必要。	いつもどおりであった	（具体的内容記載欄）子どもたちが楽しんでいるダンスを、運動会に向けて練習するための準備を行っていた。	対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載欄）子どもたちが楽しんでいるダンスを、運動会に向けて練習するための準備を行っていた。	3歳児は、新しい環境、生活リズムに慣れ、5、6歳児との混合保育の中で出るようになった。その子どもの心理状態を十分把握しているため、保育士が1名で対応していた。	3歳児はの身体機能の発達と意欲とのギャップを理解し、3歳児専門に保育士1名を配置する。また、固定遊具で遊ぶ児童を見守る職員を加配し、安全に遊び込める環境を作る。									

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者うち保育教諭・幼稚園教諭・放課後児童支援員等	事故にあった子どもの年齢性別特記事項	事故状況発生時状況	事故の転帰 死亡死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析ソフト面						ハード面					環境面 教育・保育・育成支援の状況	人的面 対象児の動き理由	改善策	担当職員 の動きを していたか	他の職員 の動きを していたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日									
						発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳					その他	事故発生状況	死亡死因									負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員の研修配置	その他の要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】									玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他の要因・分析、特記事項	改善策						
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																																		5歳以上	学童				
3483	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	2 午前中	施設内（室内）	3歳児	10名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	4歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢（腕・手・手指）	左上腕骨外顆骨折 左手関節打撲	その他	あり	不定期に実施	実施頻度（2）回/年	基準配置	職員の研修は、正職であり、臨時職員には、回覧で行っていた。	職員の危機意識を高めるため危険箇所や事例を検討したり、臨時職員にも園内研修を行っていく。	定期的に実施	実施頻度（48）回/年	定期的に実施	実施頻度（260）回/年	定期的に実施	実施頻度（48）回/年	—	個人活動中・見守りあり	—	—	1歳児の忘れ物を見つけ、保育士に「お部屋にきて」と言われたので、行ってきた。	対象児の動きを見ていなかった	乳児室までは認識としていたが、子どもと迷った。	担当者・対象児の動きを見なかった	遊戯室では4歳児が遊んでいた。乳児室へは、遊戯室を通る人が少ないので歩いて行くのを確認していたが、声はかけず、付いていくことがなかった。	3歳児が10人に対し、職員が2人と十分な人員だとも聞わらず、乳児室まで距離があることを認識して、子どもだけで行かせる。手を付かないで乳児室へ行こうとする姿を見つけた職員は、声をかけた。一緒にいける配慮をする。				
3484	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	7 夕方（16時頃～夕食提供前頃）	施設内（室内）	異年齢構成	220名	0名	0名	4名	3名	6名	9名	0名	3名	3名	5歳	女児	なし	その他	負傷	—	その他	顔面（口腔内含む）	左眼球打撲傷、左結膜炎、左眼底出血、左眼瞼炎、左目外傷	他児から危害を加えられたもの	あり	不定期に実施	実施頻度（1～2）回/年	基準配置	なし	危機管理マニュアルの周知徹底を行う。	定期的に実施	実施頻度（24）回/年	定期的に実施	実施頻度（24）回/年	不定期に実施	実施頻度（）回/年	なし	施設安全点検の継続実施段階にあること確認し、整備を行う。	集団活動中・見守りあり	理由なく何でも物を投げつける児があつたにもかかわらず、傍に保育者がいなかった。声を出さず、児の特徴を把握し、全職員に周知したが、忙しい時間帯でパタパタしていた。	忙しい時間なので、声をかけあひ、連携を図る。	いつもの様子であった	（具体的内容記載欄）異年齢合の中ではあるが、いつもの環境で遊んでいた。	対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載欄）保育者は、他児への対応や保護者に対しては、児の動きを見ていなかった。	担当者・対象児の動きを見なかった	（具体的内容記載欄）保育者は、他児への対応や保護者に対しては、児の動きを見ていなかった。	2歳児の日頃の行動から考えられる危険を予測し、職員が連携し全体を把握する。	
3485	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	4 午前中	施設内（室外・園庭等）	5歳以上児	26名	名	名	名	名	名	名	1名	1名	5歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢（腕・手・手指）	右小指基節骨骨折	他児から危害を加えられたもの	あり	定期的に実施	実施頻度（3）回/年	基準配置	・保育室に戻る際、保育士1名の子どもたちと共に保育室にもど入る準備をしていた。残り18名の子どもを1名の保育士で保育していた。1名の保育士で保育をしていたため、すぐに受傷児童を抱き起こすことができなかった。 ・1名で保育が難しいとは応援体制を組むなど保育の流れを再度確認する。	定期的に実施	実施頻度（12）回/年	定期的に実施	実施頻度（240）回/年	定期的に実施	実施頻度（240）回/年	・所庭の砂が、風に飛ばされ粗い砂だけが残っている。そのため、乾燥していると滑りやすい。 ・所庭の砂を補充する。 ・所庭の隅のほうにたまっていた砂を戻す。 ・水をまき滑りを減らす。 ・所庭の隅にたたまった砂を中央に戻す。 ・所庭に水をまき、滑りを減らす。 ・新しい砂を入れる。	集団活動中・見守りあり	・所庭の隅にたたまった砂を中央に戻す。 ・所庭に水をまき、滑りを減らす。 ・新しい砂を入れる。	・所庭の砂が、風に飛ばされ粗い砂だけが残っている。そのため、乾燥していると滑りやすい。	・所庭の砂を補充する。 ・所庭の隅のほうにたまっていた砂を戻す。 ・水をまき滑りを減らす。	（具体的内容記載欄）・子どもと一緒に走っていったら、児童と離れていた。	担当者・対象児の動きを見なかった	（具体的内容記載欄）・早めに入室した児童と保育士との入室の準備をした。	・子どもたちは、みんなで走ることで競争心が湧いてきたので、いたらないか。また、部屋に1人で残りたいという気持ちがあり、走ることに集中してしまいがちだったので、気を配ったのではないかと考えた。	・保育室に戻るときに走り出すように促す。					

No	概要 初回掲載年月日 認可・認可外	施設・事業所種別	月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制													事故発生時の状況	事故の転帰	事故発生時の状況	事故の転帰	事故発生時の要因分析					ハード面					環境面 教育・育成支援の状況	人的面		担当職員	他の職員	その他の要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
						発生時の体制	人数	異年齢構成	年齢	性別	特記事項	死亡	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故					予防 実施頻度【回/年】	研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他の要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全	全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全	全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全		全点検 実施頻度【回/年】	その他の要因・分析、特記事項						改善策	対象児の動き理由	対象児の動き理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
																																												内訳 その他	教育・保育等従事者 のうち保育教諭・幼稚園教諭・保育士 児童支援員等	年齢	性別	特記事項	死亡	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故	予防 実施頻度【回/年】	研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他の要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全	全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全	全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全	全点検 実施頻度【回/年】	その他の要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き理由	対象児の動き理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
3490	令和3年5月31日	1. 認可 6. 認可保育所	3	午後	施設内（室内）	1歳児	23名	0歳児 1名	1歳児 2名	2歳児 3名	3歳児 4名	4歳児 5名	5歳児 6名	6歳児 7名	7歳児 8名	8歳児 9名	9歳児 10名	10歳児 11名	11歳児 12名	12歳児 13名	13歳児 14名	14歳児 15名	15歳児 16名	16歳児 17名	17歳児 18名	18歳児 19名	19歳児 20名	20歳児 21名	21歳児 22名	22歳児 23名	23歳児 24名	24歳児 25名	25歳児 26名	26歳児 27名	27歳児 28名	28歳児 29名	29歳児 30名	30歳児 31名	31歳児 32名	32歳児 33名	33歳児 34名	34歳児 35名	35歳児 36名	36歳児 37名	37歳児 38名	38歳児 39名	39歳児 40名	40歳児 41名	41歳児 42名	42歳児 43名	43歳児 44名	44歳児 45名	45歳児 46名	46歳児 47名	47歳児 48名	48歳児 49名	49歳児 50名	50歳児 51名	51歳児 52名	52歳児 53名	53歳児 54名	54歳児 55名	55歳児 56名	56歳児 57名	57歳児 58名	58歳児 59名	59歳児 60名	60歳児 61名	61歳児 62名	62歳児 63名	63歳児 64名	64歳児 65名	65歳児 66名	66歳児 67名	67歳児 68名	68歳児 69名	69歳児 70名	70歳児 71名	71歳児 72名	72歳児 73名	73歳児 74名	74歳児 75名	75歳児 76名	76歳児 77名	77歳児 78名	78歳児 79名	79歳児 80名	80歳児 81名	81歳児 82名	82歳児 83名	83歳児 84名	84歳児 85名	85歳児 86名	86歳児 87名	87歳児 88名	88歳児 89名	89歳児 90名	90歳児 91名	91歳児 92名	92歳児 93名	93歳児 94名	94歳児 95名	95歳児 96名	96歳児 97名	97歳児 98名	98歳児 99名	99歳児 100名	100歳児 101名	101歳児 102名	102歳児 103名	103歳児 104名	104歳児 105名	105歳児 106名	106歳児 107名	107歳児 108名	108歳児 109名	109歳児 110名	110歳児 111名	111歳児 112名	112歳児 113名	113歳児 114名	114歳児 115名	115歳児 116名	116歳児 117名	117歳児 118名	118歳児 119名	119歳児 120名	120歳児 121名	121歳児 122名	122歳児 123名	123歳児 124名	124歳児 125名	125歳児 126名	126歳児 127名	127歳児 128名	128歳児 129名	129歳児 130名	130歳児 131名	131歳児 132名	132歳児 133名	133歳児 134名	134歳児 135名	135歳児 136名	136歳児 137名	137歳児 138名	138歳児 139名	139歳児 140名	140歳児 141名	141歳児 142名	142歳児 143名	143歳児 144名	144歳児 145名	145歳児 146名	146歳児 147名	147歳児 148名	148歳児 149名	149歳児 150名	150歳児 151名	151歳児 152名	152歳児 153名	153歳児 154名	154歳児 155名	155歳児 156名	156歳児 157名	157歳児 158名	158歳児 159名	159歳児 160名	160歳児 161名	161歳児 162名	162歳児 163名	163歳児 164名	164歳児 165名	165歳児 166名	166歳児 167名	167歳児 168名	168歳児 169名	169歳児 170名	170歳児 171名	171歳児 172名	172歳児 173名	173歳児 174名	174歳児 175名	175歳児 176名	176歳児 177名	177歳児 178名	178歳児 179名	179歳児 180名	180歳児 181名	181歳児 182名	182歳児 183名	183歳児 184名	184歳児 185名	185歳児 186名	186歳児 187名	187歳児 188名	188歳児 189名	189歳児 190名	190歳児 191名	191歳児 192名	192歳児 193名	193歳児 194名	194歳児 195名	195歳児 196名	196歳児 197名	197歳児 198名	198歳児 199名	199歳児 200名	200歳児 201名	201歳児 202名	202歳児 203名	203歳児 204名	204歳児 205名	205歳児 206名	206歳児 207名	207歳児 208名	208歳児 209名	209歳児 210名	210歳児 211名	211歳児 212名	212歳児 213名	213歳児 214名	214歳児 215名	215歳児 216名	216歳児 217名	217歳児 218名	218歳児 219名	219歳児 220名	220歳児 221名	221歳児 222名	222歳児 223名	223歳児 224名	224歳児 225名	225歳児 226名	226歳児 227名	227歳児 228名	228歳児 229名	229歳児 230名	230歳児 231名	231歳児 232名	232歳児 233名	233歳児 234名	234歳児 235名	235歳児 236名	236歳児 237名	237歳児 238名	238歳児 239名	239歳児 240名	240歳児 241名	241歳児 242名	242歳児 243名	243歳児 244名	244歳児 245名	245歳児 246名	246歳児 247名	247歳児 248名	248歳児 249名	249歳児 250名	250歳児 251名	251歳児 252名	252歳児 253名	253歳児 254名	254歳児 255名	255歳児 256名	256歳児 257名	257歳児 258名	258歳児 259名	259歳児 260名	260歳児 261名	261歳児 262名	262歳児 263名	263歳児 264名	264歳児 265名	265歳児 266名	266歳児 267名	267歳児 268名	268歳児 269名	269歳児 270名	270歳児 271名	271歳児 272名	272歳児 273名	273歳児 274名	274歳児 275名	275歳児 276名	276歳児 277名	277歳児 278名	278歳児 279名	279歳児 280名	280歳児 281名	281歳児 282名	282歳児 283名	283歳児 284名	284歳児 285名	285歳児 286名	286歳児 287名	287歳児 288名	288歳児 289名	289歳児 290名	290歳児 291名	291歳児 292名	292歳児 293名	293歳児 294名	294歳児 295名	295歳児 296名	296歳児 297名	297歳児 298名	298歳児 299名	299歳児 300名	300歳児 301名	301歳児 302名	302歳児 303名	303歳児 304名	304歳児 305名	305歳児 306名	306歳児 307名	307歳児 308名	308歳児 309名	309歳児 310名	310歳児 311名	311歳児 312名	312歳児 313名	313歳児 314名	314歳児 315名	315歳児 316名	316歳児 317名	317歳児 318名	318歳児 319名	319歳児 320名	320歳児 321名	321歳児 322名	322歳児 323名	323歳児 324名	324歳児 325名	325歳児 326名	326歳児 327名	327歳児 328名	328歳児 329名	329歳児 330名	330歳児 331名	331歳児 332名	332歳児 333名	333歳児 334名	334歳児 335名	335歳児 336名	336歳児 337名	337歳児 338名	338歳児 339名	339歳児 340名	340歳児 341名	341歳児 342名	342歳児 343名	343歳児 344名	344歳児 345名	345歳児 346名	346歳児 347名	347歳児 348名	348歳児 349名	349歳児 350名	350歳児 351名	351歳児 352名	352歳児 353名	353歳児 354名	354歳児 355名	355歳児 356名	356歳児 357名	357歳児 358名	358歳児 359名	359歳児 360名	360歳児 361名	361歳児 362名	362歳児 363名	363歳児 364名	364歳児 365名	365歳児 366名	366歳児 367名	367歳児 368名	368歳児 369名	369歳児 370名	370歳児 371名	371歳児 372名	372歳児 373名	373歳児 374名	374歳児 375名	375歳児 376名	376歳児 377名	377歳児 378名	378歳児 379名	379歳児 380名	380歳児 381名	381歳児 382名	382歳児 383名	383歳児 384名	384歳児 385名	385歳児 386名	386歳児 387名	387歳児 388名	388歳児 389名	389歳児 390名	390歳児 391名	391歳児 392名	392歳児 393名	393歳児 394名	394歳児 395名	395歳児 396名	396歳児 397名	397歳児 398名	398歳児 399名	399歳児 400名	400歳児 401名	401歳児 402名	402歳児 403名	403歳児 404名	404歳児 405名	405歳児 406名	406歳児 407名	407歳児 408名	408歳児 409名	409歳児 410名	410歳児 411名	411歳児 412名	412歳児 413名	413歳児 414名	414歳児 415名	415歳児 416名	416歳児 417名	417歳児 418名	418歳児 419名	419歳児 420名	420歳児 421名	421歳児 422名	422歳児 423名	423歳児 424名	424歳児 425名	425歳児 426名	426歳児 427名	427歳児 428名	428歳児 429名	429歳児 430名	430歳児 431名	431歳児 432名	432歳児 433名	433歳児 434名	434歳児 435名	435歳児 436名	436歳児 437名	437歳児 438名	438歳児 439名	439歳児 440名	440歳児 441名	441歳児 442名	442歳児 443名	443歳児 444名	444歳児 445名	445歳児 446名	446歳児 447名	447歳児 448名	448歳児 449名	449歳児 450名	450歳児 451名	451歳児 452名	452歳児 453名	453歳児 454名	454歳児 455名	455歳児 456名	456歳児 457名	457歳児 458名	458歳児 459名	459歳児 460名	460歳児 461名	461歳児 462名	462歳児 463名	463歳児 464名	464歳児 465名	465歳児 466名	466歳児 467名	467歳児 468名	468歳児 469名	469歳児 470名	470歳児 471名	471歳児 472名	472歳児 473名	473歳児 474名	474歳児 475名	475歳児 476名	476歳児 477名	477歳児 478名	478歳児 479名	479歳児 480名	480歳児 481名	481歳児 482名	482歳児 483名	483歳児 484名	484歳児 485名	485歳児 486名	486歳児 487名	487歳児 488名	488歳児 489名	489歳児 490名	490歳児 491名	491歳児 492名	492歳児 493名	493歳児 494名	494歳児 495名	495歳児 496名	496歳児 497名	497歳児 498名	498歳児 499名	499歳児 500名	500歳児 501名	501歳児 502名	502歳児 503名	503歳児 504名	504歳児 505名	505歳児 506名	506歳児 507名	507歳児 508名	508歳児 509名	509歳児 510名	510歳児 511名	511歳児 512名	512歳児 513名	513歳児 514名	514歳児 515名	515歳児 516名	516歳児 517名	517歳児 518名	518歳児 519名	519歳児 520名	520歳児 521名	521歳児 522名	522歳児 523名	523歳児 524名	524歳児 525名	525歳児 526名	526歳児 527名	527歳児 528名	528歳児 529名	529歳児 530名	530歳児 531名	531歳児 532名	532歳児 533名	533歳児 534名	534歳児 535名	535歳児 536名	536歳児 537名	537歳児 538名	538歳児 539名	539歳児 540名	540歳児 541名	541歳児 542名	542歳児 543名	543歳児 544名	544歳児 545名	545歳児 546名	546歳児 547名	547歳児 548名	548歳児 549名	549歳児 550名	550歳児 551名	551歳児 552名	552歳児 553名	553歳児 554名	554歳児 555名	555歳児 556名	556歳児 557名	557歳児 558名	558歳児 559名	559歳児 560名	560歳児 561名	561歳児 562名	562歳児 563名	563歳児 564名	564歳児 565名	565歳児 566名	566歳児 567名	567歳児 568名	568歳児 569名	569歳児 570名	570歳児 571名	571歳児 572名	572歳児 573名	573歳児 574名	574歳児 575名	575歳児 576名	576歳児 577名	577歳児 578名	578歳児 579名	579歳児 580名	580歳児 581名	581歳児 582名	582歳児 583名	583歳児 584名	584歳児 585名	585歳児 586名	586歳児 587名	587歳児 588名	588歳児 589名	589歳児 590名	590歳児 591名	591歳児 592名	592歳児 593名	593歳児 594名	594歳児 595名	595歳児 596名	596歳児 597名	597歳児 598名	598歳児 599名	599歳児 600名	600歳児 601名	601歳児 602名	602歳児 603名	603歳児 604名	604歳児 605名	605歳児 606名	606歳児 607名	607歳児 608名	608歳児 609名	609歳児 610名	610歳児 611名	611歳児 612名	612歳児 613名	613歳児 614名	614歳児 615名	615歳児 616名	616歳児 617名	617歳児 618名	618歳児 619名	619歳児 620名	620歳児 621名	621歳児 622名	622歳児 623名	623歳児 624名	624歳児 625名	625歳児 626名	626歳児 627名	627歳児 628名	628歳児 629名	629歳児 630名	630歳児 631名	631歳児 632名	632歳児 633名	633歳児 634名	634歳児 635名	635歳児 636名	636歳児 637名	637歳児 638名	638歳児 639名	639歳児 640名	640歳児 641名	641歳児 642名	642歳児 643名	643歳児 644名	644歳児 645名	645歳児 646名	646歳児 647名	647歳児 648名	648歳児 649名	649歳児 650名	650歳児 651名	651歳児 652名	652歳児 653名	653歳児 654名	654歳児 655名	655歳児 656名	656歳児 657名	657歳児 658名	658歳児 659名	659歳児 660名	660歳児 661名	661歳児 662名	662歳児 663名	663歳児 664名	664歳児 665名	665歳児 666名	666歳児 667名	667歳児 668名	668歳児 669名	669歳児 670名	670歳児 671名	671歳児 672名	672歳児 673名	673歳児 674名	674歳児 675名	675歳児 676名	676歳児 677名	677歳児 678名	678歳児 679名	679歳児 680名	680歳児 681名	681歳児 682名	682歳児 683名	683歳児 684名	684歳児 685名	685歳児 686名	686歳児 687名	687歳児 688名	688歳児 689名	689歳児 690名	690歳児 691名	691歳児 692名	692歳児 693名	693歳児 694名	694歳児 695名	695歳児 696名	696歳児 697名	697歳児 698名	698歳児 699名	699歳児 700名	700歳児 701名	701歳児 702名	702歳児 703名	703歳児 704名	704歳児 705名	705歳児 706名	706歳児 707名	707歳児 708名	708歳児 709名	709歳児 710名	710歳児 711名	711歳児 712名	712歳児 713名	713歳児 714名	714歳児 715名	715歳児 716名	716歳児 717名	717歳児 718名	718歳児 719名	719歳児 720名	720歳児 721名	721歳児 722名	722歳児 723名	723歳児 724名	724歳児 725名	725歳児 7

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

No	初 回 掲 載 年 月 日	概要		施設・事業所種別	月	事故発生時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳					学 童 その他	教育・保育等従事者うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故にあった子どもの特記事項	性別	年齢	事故状況発生時状況	事故の転帰					死亡原因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析ソフト面					ハード面				施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他の要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他の要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き理由	担当職員の動きを具体的にしていたか	他の職員の動きを具体的にしていたか	その他の要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
		施設・事業所種別	月					事故発生時間帯	発生場所	発生時の体制	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	事故発生の要因分析ハード面			施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他の要因・分析、特記事項	改善策							環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他の要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き理由	担当職員の動きを具体的にしていたか						他の職員の動きを具体的にしていたか	その他の要因・分析、特記事項	改善策																				
3557	令和3年5月31日	1.認可	認可保育所	6	午睡中	施設内（室内）	異年齢構成	20名	0歳1名	1歳1名	2歳7名	3歳7名	4歳6名	5歳以上0名	2名	2名	4歳男児	・現在も通院、白い粉薬のニコラージュを毎食後服用中。（園では昼食後服用） ・園での注意点…（保護者からの依頼として）通常の生活で良い、運動制限なしだが大きな衝撃などは避けたい。（出血した場合止まり難いこともある。）	睡眠中（うつぶせ寝以外）	負傷	—	意識不明	熱性けいれん	その他	あり	不定期に実施	実施頻度（1）回/年	基準以上配置	園児については、「健康の記録」を管理し、既往症の確認を行っている。本児の「健康の記録」には「完全大血管転位症1型（0歳）」の記載があったが、熱性けいれんについては記載なし。（今回が初発） ・園内での救命救急研修を行う。（全職員対象。実施頻度は検討中） ・熱性けいれんを既往症とする児童等については、午睡前には検温し高熱の場合は脈拍も確認。午睡中は30分おきに検温・呼吸・発汗・顔色・脈拍などの確認を行い、午睡チェック表の欄に記入する。	定期的に実施	実施頻度（2）回/年	定期的に実施	実施頻度（1）回/年	定期的に実施	実施頻度（24）回/年	特になし	睡眠（午睡）中	—	持病のある子ども・風邪などの体調不良の子どもは保育者のそばで寝る。	いつもの様子であった （具体的内容記載欄）PCで資料作成をしていた。午睡チェック・13時の次のチェック（13:40）により気が付いた。 対象児の動きを見ていなかった	担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	（具体的内容記載欄）13:40頃、真夏に気づく（まだだれ、反応なし）一呼びかけ→13:43救急車要請 当日は本児の寝ている場所が職員の手で発見された。直ぐに対応出来た。 保護者からの情報収集（登園前日の様子など）も知らせて頂く。登園時の体調確認（検温）。持病のある子どもは保育士の側に寝かせる。																					
3558	令和3年5月31日	1.認可	認可保育所	5	夕方（16時頃～夕食提供前頃）	施設内（室外・園庭等）	異年齢構成	15名	1歳1名	2歳2名	4歳2名	5歳5名	1歳1名	0歳0名	5名	3名	3歳男児	—	登園・降園中	負傷	—	骨折	右鎖骨骨折	遊具等からの転落・落下	あり	定期的に実施	職員会議で事例検討	基準配置	保護者のお迎え後に、職員が本児から目を離してしまった。 事件・事故等発生状況報告書をもとに園内研修をおこない、職員への意識を高める。	定期的に実施	実施頻度（2）回/年	定期的に実施	実施頻度（1）回/年	定期的に実施	実施頻度（12）回/年	夕刻時は、遊びまたは器具の使用を禁止する。 夕刻時は、園庭は遊びまたは器具の使用を禁止する。 お迎えの保護者に引き渡した後も、園庭で遊ぶ場合は、保護者に引き渡すまで適切な対応を要する。 お迎えの保護者に引き渡した後も、園庭で遊ぶ場合は、保護者に引き渡すまで適切な対応を要する。 お迎えの保護者に引き渡した後も、園庭で遊ぶ場合は、保護者に引き渡すまで適切な対応を要する。	グループ活動中・見守りあり	お迎えの保護者に引き渡した後も、園庭で遊ぶ場合は、保護者に引き渡すまで適切な対応を要する。 お迎えの保護者に引き渡した後も、園庭で遊ぶ場合は、保護者に引き渡すまで適切な対応を要する。 お迎えの保護者に引き渡した後も、園庭で遊ぶ場合は、保護者に引き渡すまで適切な対応を要する。	母親が迎えに来て、園庭に出ていた。 母親が迎えに来て、園庭に出ていた。 母親が迎えに来て、園庭に出ていた。	対象児から離れたところで見守っていた。 対象児から離れたところで見守っていた。 対象児から離れたところで見守っていた。	担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	他の職員は、会議の所、事務所に居て気づかなかった。 夕刻時（お迎え時）の遊具の使用は禁止していたが、きちんと保護者に周知できておらず、徹底できなかった。 夕刻時（お迎え時）の遊具の使用は禁止していたが、きちんと保護者に周知できておらず、徹底できなかった。																					
3559	令和3年5月31日	1.認可	認可保育所	5	午後	施設内（室内）	異年齢構成	25名	0歳1名	1歳1名	2歳9名	3歳8名	4歳8名	5歳0名	3名	3名	5歳男児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢（腕・手・手指）	骨折（右手小指付け根）	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度（1、2）回/年	基準以上配置	普段の保育の様子で事故につながる場所はないと思っていた。 危険ではないと決めつけず、あらゆる予測で職員がつきまわっていた。 危険ではないと決めつけず、あらゆる予測で職員がつきまわっていた。	定期的に実施	実施頻度（1）回/年	定期的に実施	実施頻度（1）回/年	定期的に実施	実施頻度（ほぼ毎日）回/年	子どもたちの声掛けや配慮など、より細かな注意を行う。 子どもたちの声掛けや配慮など、より細かな注意を行う。 子どもたちの声掛けや配慮など、より細かな注意を行う。	グループ活動中・見守りあり	子どもたちの声掛けや配慮など、より細かな注意を行う。 子どもたちの声掛けや配慮など、より細かな注意を行う。 子どもたちの声掛けや配慮など、より細かな注意を行う。	対象児から離れたところで見守っていた。 対象児から離れたところで見守っていた。 対象児から離れたところで見守っていた。	（具体的内容記載欄）給食後の活動の流れは、普段と変わらなかった。 （具体的内容記載欄）給食後の活動の流れは、普段と変わらなかった。 （具体的内容記載欄）給食後の活動の流れは、普段と変わらなかった。	担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	（具体的内容記載欄）担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた） （具体的内容記載欄）担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた） （具体的内容記載欄）担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	事故に至るまでの対象児の行動は、突然走り出し転倒し、声掛けなどを行って行く。 転倒する姿勢がよく見られるので、職員配置を工夫し、必要に応じて声掛けを行う。 転倒する姿勢がよく見られるので、職員配置を工夫し、必要に応じて声掛けを行う。																			
3560	令和3年5月31日	1.認可	認可保育所	4	夕方（16時頃～夕食提供前頃）	施設内（室外・園庭等）	3歳児	9名	0歳1名	1歳1名	2歳1名	3歳1名	4歳1名	5歳1名	1名	1名	3歳男児	—	その他	負傷	—	骨折	顔面（口・鼻・手・足含む）	鼻骨折	自らの転倒・衝突によるもの	なし	不定期に実施	実施頻度（3）回/年	基準配置	遊戯室・園庭開放時も職員を配置する。 遊戯室・園庭開放時も職員を配置する。 遊戯室・園庭開放時も職員を配置する。	定期的に実施	実施頻度（12）回/年	定期的に実施	実施頻度（13）回/年	定期的に実施	実施頻度（12）回/年	今までの点検に加えて、遊びの動線面でも点検する。	その他	—	園庭開放時も職員が子どもと保護者への声掛けや危険がないかを見守りをする。 園庭開放時も職員が子どもと保護者への声掛けや危険がないかを見守りをする。 園庭開放時も職員が子どもと保護者への声掛けや危険がないかを見守りをする。	いつもの様子であった （具体的内容記載欄）特に具合の悪い様子や疲れた様子は見られなかった。 （具体的内容記載欄）本児は降所後の挨拶や玄関外への飛び出しがないかを見守っていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載欄）各クラスのものに対応した。 （具体的内容記載欄）各クラスのものに対応した。 （具体的内容記載欄）各クラスのものに対応した。	遊戯室・園庭開放時も職員が注意を払い、必要に応じて声掛けをする。																			

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故状況 発生時状況	事故の転帰 死亡原因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析ソフト面							ハード面					環境面 教育・保育・育成支援の状況	人的面		担当職員 の動きについて	他の職員 の動きについて	その他 要因・特記事項	改善策	掲載更新年月日								
						発生時の体制																教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	状況	死因	負傷	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】		職員配置	その他要因・分析、特記事項						改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き理由	対象児の動きについて
						人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																			
3561	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12 午前中	施設外 (園外保育先・公園等)	—	22名	名	名	名	名	名	名	5名	5名	3歳	男児	—	その他	負傷	—	骨折	上肢 (腕・手・手指)	右中指末節骨開放骨折・右示指末節骨骨折・右中指爪脱臼	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度(5回/年)	基準配置	・危険箇所の把握ができていなかった。 ・職員一人一人が危機管理意識を高め、ヒヤリハットを分析、課題把握と改善を行い全職員で共有する。	未実施	実施頻度()回/年	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	・避難車の状況の把握ができていない。 ・避難車の把握・避難車安全点検薄作成	・園外保育の場所での基本とする。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	対象児の動きを見ていた	(具体的内容記載欄) ・本児を含む6名を避難車に乗せていたため、見ていない。1名は金魚を見ていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) 3名の職員は避難車を押していたため、見ていない。1名は金魚を見ていた。	・避難車の安全点検をしていない。 ・避難車であるという思い込みをしていた。	・職員一人一人が危機管理意識をもち、根拠のない思ひ出しはない。 ・複数の職員を確認をする。			
3562	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	6 午前中	施設内 (室外・園庭等)	3歳児	18名	名	名	名	名	名	名	1名	1名	3歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	右鎖骨骨折	子ども同士の間での衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度()回/年	基準配置	—	マニュアルを再度周知するとともに、今回の事故の検証を職員全員で行い再発防止に努める	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度()回/年	定期的に実施	毎月自己点検をしつつ報告する	集団活動中・見守りあり	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 早く部屋に入ろうと走っていた。	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)	—	ボールを片付けようとして目を飛ばした	こども達から目を離さず、必要であれば無理せずに応援を呼ぶ保育士間の協力体制の確認。					
3563	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5 午前中	施設外 (園外保育先・公園等)	異年齢構成	103名	8名	19名	20名	20名	20名	16名	0名	25名	24名	3歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢 (腕・手・手指)	右上腕骨軽上骨折	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	親が作ったお弁当を持参。園では、遊ぶための時間を確保し、危険性の高い箇所には職員が巡回して行く。 一斉に同遊具を使用する遊具の使用、危険性の高い箇所には職員が巡回して行く。	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	本児にとっても少し難易度が高かったと思われる。 ヒヤリハット箇所を再度確認し、同遊具の使用方法を指導し、共通理解を深めていく。	グループ活動中・見守りあり	ビクニックという事で、本園児を含めた多動な園児も多かった。公園に近いので、園児の興奮も高まり、本人テンションも上がって多動気味になった。	対象児から離れたところで見守っていた	(具体的内容記載欄) 保育園から柏の葉公園までの距離が遠く、徒歩で歩行した。公園内にいる間は、常に元気な園児は、より一層興奮状態になるため、気になるところがあった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) 水遊び・砂遊び・鉄棒・トイブロックなどを使って遊ぶ。	広場に遊具があるため、広い範囲で遊ぶことができた。また、木陰の下で遊ぶこともあった。	3歳児が使用する遊具を、全体的に見守ることができ、再び事故が起きないように注意を徹底する。			
3564	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内 (室内)	異年齢構成	32名	名	名	名	11名	13名	8名	名	3名	1名	5歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢 (腕・手・手指)	手指骨折	その他	なし	未実施	実施頻度(1)回/年	基準配置	延長保育開始時は担当職員が交代し、保育士の交代や降園する児童もいる場合があるので、あらかじめ確認しておく。 交代時、子どもの状態を確認し、適切な対応ができるようにしておく。	定期的に実施	実施頻度(1)回/週	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	積み木の遊び方、片づけ方については、テープで高さをつけておくことで、安全性を高める。また、積み木を重ねて遊ぶ際は、危険な高さにならないように注意すること。また、積み木を倒さないように注意すること。	ケガの危険性が高いものは、十分に他児との接触を避ける。また、ケガの危険性が高いものは、十分に他児との接触を避ける。	(具体的内容記載欄) 遊びはじけたまま、隣のコーナーへ移動したため、目を離した。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) 各コーナーでそれぞれ対応を行った。	その場で声かけを行う。声かけの際は、安全を確認してから行う。	その場から離れた場合、声を掛け合い対応する。できない場合は、周囲の職員にサポートを求める。					
3565	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5 午前中	施設内 (室外・園庭等)	異年齢構成	33名	名	6名	3名	5名	7名	12名	名	6名	4名	5歳	男児	家庭では外で活発に遊ぶのが好きで、ゲームなどもよく遊ぶ。保育園でも運動は苦手な方。	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢 (腕・手・手指)	右上腕骨軽上骨折	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準配置	遊具取り付け後に遊び方の確認をしっかりと行った。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	鉄棒の下で遊んでいた。	砂をまきこんで遊ぶ。	(具体的内容記載欄) 鉄棒は危険な場所だったので、見守っていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) 他の園児の動きを見ていた。	他の園児に気を取られ、自分の動きを確認できなかった。	固定遊具で遊んでいる時に目を離さない。						

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	月	事故発生時期時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故にあった子どもの年齢性別特記事項			事故状況発生時状況		事故の転帰		事故誘因	事故発生の要因分析ソフト面						ハード面		環境面 教育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き理由	担当職員の動きを 何をしていたか	他の職員 の動きを 何をしていたか	その他 要因・分析、 特記事項	改善策	掲載更新年月日	
							発生時の体制	人数	異年齢構成の割合	場合の内の学年以上	その他	状況	死亡	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故	予防 実施頻度【回/年】	職員の配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全		安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全	安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全	安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策											
3570	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所		4 朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	異年齢構成	4名	0歳0名 1歳0名 2歳2名 3歳0名 4歳以上0名	2名	2名	5歳男児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右鎖骨打撲・右鎖骨骨折	自らの転倒・衝突によるもの	なし	未実施	実施頻度()回/年	基準配置	—	AEDや乳幼児のけがに対応を受けたり、事故対応のマニュアルを作成、掲示しているが、今後はヒヤリハットをさらに職員で情報共有し、事故防止につなげていく。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	今後とも定期的に遊具の点検を行い、目頃から安全面に留意していく。	集団活動中・見守りあり	—	延長保育時間については、子どもの動きにより注意を払っていく。	(具体的内容記載欄)いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)他の子どもの援助をしていたため、見ていなかった。	担当者・対象児の動きを見なかった	—	子どもの動きを観測するだけでなく、次の動きも予測していく。	
3571	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所		6 午前中	施設内(室内)	異年齢構成	70名	2歳8名 3歳14名 4歳13名 5歳17名 6歳以上16名	13名	12名	3歳女児	—	室内活動中	—	骨折	頭部	頭蓋骨骨折	その他	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	マニュアルの記載内容が不十分	マニュアルの見直し	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	本件は親子遊戯中であり、ハード面での指導には困難。	上記理由により、ハード面での予防は困難。	いつでもの様子であった	(具体的内容記載欄)特徴異常なく認められず	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)本児、保護者の正面で遊戯にあたっていた。	担当者・対象児の動きを見なかった	(具体的内容記載欄)他の児童、保護者の指導にあたっていた。	—	遊戯指導の際に、児童が不意に動く可能性を伝える。		
3572	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所		6 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室外・園庭等)	2歳児	16名	名 名 名 名 名 名 名	3名	3名	3歳男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	「上腕骨顆上骨折」	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度()回/年	基準配置	—	夕刻の自由保育時の人員配置の確認と園長の指示のもとで進める見守り体制の徹底。状況に応じた職員のフォローアップ体制の充実を行って行きたい。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	アスレチックの滑り台の下にある落下防止用の高さで不足であった。	遊具業者との協議を行い、落下防止用の手すり等の設置を検討したい。又、地面に敷設材も含め、検討を行う。出来る限り速やかに対処として実施していきたい。	集団活動中・見守りあり	—	いつでもの様子であった	(具体的内容記載欄)	対象児の至近で対象児を見ていた	職員は1人居る間に居たが、滑り台下の子どもの対応をした為、滑り台上の子どもの目が離れていた。	担当者・対象児の動きを見なかった	(具体的内容を記載欄)担任以外の保育士は、1名はその日の担当である保育士の掃除をしていた。保育室としての清掃状況は、現場の状況に気がついていない事が確認された。	複数職員で、声を掛け合いながら、自由保育時間の見守りを徹底していく。保育士一人ひとりが今やらなければならない事の向上への意識を持って指導していく。自由保育時間帯の保育士の増員も検討しています。
3573	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所		10 午前中	施設内(室内)	1歳児	12名	名 名 名 名 名 名 名	3名	3名	1歳男児	なし	室内活動中	負傷	—	創傷(切創・裂傷等)	顔面(口腔内含む)	眉間切り傷	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	基準配置	研修や会議の情報活用していない。	事故予防のための資質向上を目指す。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	継続感がめぐれてきた。又、テーブルが奥の方に置かれたようにあった。	継続感を直した。テーブルの傍に保育士が付く。	子どもの急な行動を予測できず、転倒させられた。	(具体的内容記載欄)排泄後、ままごとコーナーに向かう時に走った。	対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)対象児の後を追っていたが、間に合かなかった。	担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)全体を把握するために、排泄の介助をしていた。	子どもの行動に対する予測が不足していた。	全体をもっとよく観察し、危険な時は声を出さなければいけない。	
3574	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所		6 午後	施設内(室内)	3歳児	23名	名 名 名 名 名 名 名	2名	2名	3歳男児	完治済み	その他	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	自らの転倒・衝突によるもの	なし	不定期に実施	実施頻度(3)回/年	基準以上配置	—	複数担任での保育士位置取りについて話し合う必要があるという意見が出てくる。早速に事故予防マニュアルを整備する。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	移動して使用する物について使用しない時の仕方を確認することとする。	移動物品などがあるため危険性を十分に伝える	いつでもの様子であった	(具体的内容記載欄)普段から突如的な行動が見られる子に目をかける必要があった	対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)普段から突如的な行動が見られる子がいて全体的に見えなかった	担当者・対象児の動きを見ないままだった	(具体的内容記載欄)子どもが見えるよう環境を整えた	事故の要因を分析し、職員的位置確認と同様に業務の見直しを行う		

No	概要 初回掲載年月日 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故にあった子どもの年齢 性別 特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転機				事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面					ハード面					環境面 教育・保育・育成支援の状況	人的面			掲載更新年月日										
					発生時の体制	人数	異年齢構成 0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳以上	場合の内訳 2歳以上 学室 その他	死亡原因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】				職員配置	その他の要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】		遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他の要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き理由	担当職員の動きを何をしていたか	他の職員の動きを具体的に何をしていたか	その他の要因・分析、特記事項	改善策																
3579	令和3年5月31日	1.認可 6.認可保育所	5 午前中	施設外 (園外保育先・公園等)	異年齢構成	13名	0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳以上	2名	2名	3歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢 (腕・手・手指)	上腕骨骨折	他児から危害を加えられたもの	あり	定期的に実施	実施頻度(1回/年)	基準以上配置	安全マニュアルが浸透しておらず、みんなのものになっていない。 ・定期的な事故防止におけるミーティングの実施。 ・事故防止におけるマニュアルの徹底	定期的に実施	実施頻度(12回/年)	定期的に実施	実施頻度(12回/年)	不定期に実施	実施頻度()回/年	集団で遊具を使用する事故を想定できていなかった 集団で遊具を使用することにおいて遊具の点検をする	集団で遊具を使用することにおいて遊具の点検をする	集団活動中、細かい気づきが無かった。	集団活動中、細かい気づきが無かった。	職員が把握できる範囲で、細く我々の位置を考えた。	職員が把握できる範囲で、細く我々の位置を考えた。	子どもの動きを見ていなかった (具体的内容記載欄)何時も活発である。	子どもの動きを見ていなかった (具体的内容記載欄)何時も活発である。	対象児の動きを見ていなかった (具体的内容記載欄)他児の怪しい動きをしていた。	対象児の動きを見ていなかった (具体的内容記載欄)他児の怪しい動きをしていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった (具体的内容記載欄)他児と鬼ごっこをしていた。	担当者・対象児の動きを見ていなかった (具体的内容記載欄)他児と鬼ごっこをしていた。	全体的にも子どもの役割をしっかりと見守っていた。 全体的にも子どもの役割をしっかりと見守っていた。	全体的にも子どもの役割をしっかりと見守っていた。 全体的にも子どもの役割をしっかりと見守っていた。	全体を見る子どもの中に入らない時は、役割の区別をし、出来た行動を他の職員に伝えるなど、声を掛け合っていく。	全体を見る子どもの中に入らない時は、役割の区別をし、出来た行動を他の職員に伝えるなど、声を掛け合っていく。	
3580	令和3年5月31日	1.認可 6.認可保育所	4 午後	施設内 (室外・園庭等)	異年齢構成	13名	1歳 2歳 3歳 4歳 5歳以上	2名	2名	3歳	男児	特記なし	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢 (腕・手・手指)	左腕骨頭上骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度()回/年	基準配置	遊具の事故予防に関する意識を高め、研修的参加していく 事故予防に関する意識を高め、研修的参加していく	定期的に実施	実施頻度(6回/年)	定期的に実施	実施頻度(6回/年)	不定期に実施	実施頻度()回/年	一つの鉄棒に子どもが二人で遊ぶようにする 一つの鉄棒に子どもが二人で遊ぶようにする	一つの鉄棒に子どもが二人で遊ぶようにする 一つの鉄棒に子どもが二人で遊ぶようにする	子どもたちへの遊び方の指導を行うとともに、職員への指導、見守り強化につとめる	子どもたちへの遊び方の指導を行うとともに、職員への指導、見守り強化につとめる	対象児の動きを見ていなかった (具体的内容記載欄)鉄棒で遊んでいた	対象児の動きを見ていなかった (具体的内容記載欄)鉄棒で遊んでいた	担当者・対象児の動きを見ていなかった (具体的内容記載欄)鉄棒で遊んでいた	担当者・対象児の動きを見ていなかった (具体的内容記載欄)鉄棒で遊んでいた	年度始めということもあり、新入児への対応が必要で、遊具の見守りが十分でなかった 新入児への対応が必要で、遊具の見守りが十分でなかった	年度始めということもあり、新入児への対応が必要で、遊具の見守りが十分でなかった 新入児への対応が必要で、遊具の見守りが十分でなかった	新入児に 対応するときは、見守りが抜けた場所にも対応するよう、応援を要請する	新入児に 対応するときは、見守りが抜けた場所にも対応するよう、応援を要請する					
3581	令和3年5月31日	1.認可 6.認可保育所	1 午前中	施設内 (室内)	3歳児	15名	5歳 8歳 11歳 14歳 13歳	2名	2名	3歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢 (腕・手・手指)	左腕骨遠位端骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(1回/年)	基準以上配置	事例をもとに危機管理マニュアルの見直し、定期的な研修計画を立て、危険予測に関する職員の共通認識を深め、再発防止に努める 保育活動の中で保育士の立ち位置に危険予測が留意されていない点があった	定期的に実施	実施頻度(4回/年)	定期的に実施	実施頻度(4回/年)	定期的に実施	実施頻度(使用済み)回/年	施設・設備等には問題はないが、保育士と壁との空間が狭かった事による保育士の立ち位置の改善点として考える 施設・設備等には問題はないが、保育士と壁との空間が狭かった事による保育士の立ち位置の改善点として考える	施設・設備等には問題はないが、保育士と壁との空間が狭かった事による保育士の立ち位置の改善点として考える 施設・設備等には問題はないが、保育士と壁との空間が狭かった事による保育士の立ち位置の改善点として考える	逃げた際に保育士の立ち位置の確認・改善と、また、再発防止に繋がる保育士の立ち位置の改善点として考える 逃げた際に保育士の立ち位置の確認・改善と、また、再発防止に繋がる保育士の立ち位置の改善点として考える	逃げた際に保育士の立ち位置の確認・改善と、また、再発防止に繋がる保育士の立ち位置の改善点として考える 逃げた際に保育士の立ち位置の確認・改善と、また、再発防止に繋がる保育士の立ち位置の改善点として考える	(具体的内容記載欄)遊戯室に立ち寄り、保育士の動きを見ていなかった (具体的内容記載欄)遊戯室に立ち寄り、保育士の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)遊戯室に立ち寄り、保育士の動きを見ていなかった (具体的内容記載欄)遊戯室に立ち寄り、保育士の動きを見ていなかった	担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた) 担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた) 担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	逃げた際に保育士の立ち位置の確認・改善と、また、再発防止に繋がる保育士の立ち位置の改善点として考える 逃げた際に保育士の立ち位置の確認・改善と、また、再発防止に繋がる保育士の立ち位置の改善点として考える	逃げた際に保育士の立ち位置の確認・改善と、また、再発防止に繋がる保育士の立ち位置の改善点として考える 逃げた際に保育士の立ち位置の確認・改善と、また、再発防止に繋がる保育士の立ち位置の改善点として考える	子どもの動きを細かく想定し、危険な状況に繋がるような環境を作らないようにする 子どもの動きを細かく想定し、危険な状況に繋がるような環境を作らないようにする	子どもの動きを細かく想定し、危険な状況に繋がるような環境を作らないようにする 子どもの動きを細かく想定し、危険な状況に繋がるような環境を作らないようにする					
3582	令和3年5月31日	1.認可 6.認可保育所	6 朝(始業～午前10時頃)	施設内 (室内)	異年齢構成	61名	5歳 8歳 11歳 10歳 14歳 13歳	10名	9名	3歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢 (腕・手・手指)	左腕骨外顆骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(2回/年)	基準以上配置	マニュアルと事故防止の研修は、年度初めの全体職員会議や、採用時の説明で毎年確認し、職員全体に周知するようにしていたが、さらに丁寧に伝え、確認していく。 マニュアルと事故防止の研修は、年度初めの全体職員会議や、採用時の説明で毎年確認し、職員全体に周知するようにしていたが、さらに丁寧に伝え、確認していく。	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	遊具の点検等は、引き続き、引続き、所長・所長で行う。安全を確認していく。 遊具の点検等は、引き続き、引続き、所長・所長で行う。安全を確認していく。	遊具の点検等は、引き続き、引続き、所長・所長で行う。安全を確認していく。 遊具の点検等は、引き続き、引続き、所長・所長で行う。安全を確認していく。	3クラス合同であれば、遊びの種類の分けたり遊び方を工夫し、ごちゃごちゃにならないように環境を整える。イスの使い方は、縦に使用しないように徹底する。 3クラス合同であれば、遊びの種類の分けたり遊び方を工夫し、ごちゃごちゃにならないように環境を整える。イスの使い方は、縦に使用しないように徹底する。	3クラス合同であれば、遊びの種類の分けたり遊び方を工夫し、ごちゃごちゃにならないように環境を整える。イスの使い方は、縦に使用しないように徹底する。 3クラス合同であれば、遊びの種類の分けたり遊び方を工夫し、ごちゃごちゃにならないように環境を整える。イスの使い方は、縦に使用しないように徹底する。	4歳児が箱を並べて、おうちに入っているイスに上ったとき、バランスを崩してイスが倒れ転倒した。 4歳児が箱を並べて、おうちに入っているイスに上ったとき、バランスを崩してイスが倒れ転倒した。	4歳児が箱を並べて、おうちに入っているイスに上ったとき、バランスを崩してイスが倒れ転倒した。 4歳児が箱を並べて、おうちに入っているイスに上ったとき、バランスを崩してイスが倒れ転倒した。	対象児の動きを見ていなかった (具体的内容記載欄)他児の動きを見ていなかった	対象児の動きを見ていなかった (具体的内容記載欄)他児の動きを見ていなかった	担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた) 担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた) 担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	4.5歳児に付いていた職員も、全体を見守っていたが、突然の動きを予測することができなかった。 4.5歳児に付いていた職員も、全体を見守っていたが、突然の動きを予測することができなかった。	4.5歳児に付いていた職員も、全体を見守っていたが、突然の動きを予測することができなかった。 4.5歳児に付いていた職員も、全体を見守っていたが、突然の動きを予測することができなかった。	今後も、子ども数に対する配置以上に、その日の児童の様子に合わせた配置を配慮していく。 今後も、子ども数に対する配置以上に、その日の児童の様子に合わせた配置を配慮していく。	今後も、子ども数に対する配置以上に、その日の児童の様子に合わせた配置を配慮していく。 今後も、子ども数に対する配置以上に、その日の児童の様子に合わせた配置を配慮していく。			

[illegible]

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況		事故の転帰					事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面					ハード面					環境面 教育・保育・支援の状況	人的面			掲載更新年月日							
						発生時の体制	人数	年齢構成					場合の 5歳以上	内 学 童	訳 その他				教育・保育等従事 うち・幼稚園教諭・保育士 教諭・放課後児童支援員等	発生状況	死亡 状況	負傷 状況	受傷部位	診断名	職員の 配置		その他要 因・分 析、特 記事項	改善策	施設の安 全点検 実施頻度 【回/年】	遊具の安 全点検 実施頻度 【回/年】	安全点検 実施頻度 【回/年】	玩具の安 全点検 実施頻度 【回/年】	その他要 因・分 析、特 記事項	改善策	対象児の 動き 理由	担当職員 の動き を していたか		他の職員 の動き を していたか	その他 要因・ 分析、 特記事項	改善策								
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																																				
3587	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5 午後	施設内 (室外・園庭等)	5歳児	29名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢 (腕・手・手指)	左尺骨骨折・左橈骨骨折	子ども同士の間で	あり	不定期に実施	実施頻度()回/年	基準配置	活動前の遊具の安全確認と準備不足。職員が配置に著くまで遊びを始めた。	活動前の遊具の安全確認と準備不足。職員が園内研修を適宜実施していく。事故防止について具体策を講じられるよう研修を重ねる。	定期的に実施	実施頻度(毎週1)回/年	定期的に実施	定期的に実施	定期的に実施	玩具の準備として子ども達がボールを倉庫に取りに行ったことは、事前の準備で確認できていた。また、固定遊具が水で濡れていたため、事前の確認不足である。	普段よく遊ぶ玩具は、いつでも取りやすい場所に置くよう改善する。また、事前の準備で確認できるようにする。	環境面 教育・保育・支援の状況	その他要 因・分 析、特 記事項	改善策	対象児の動きを見つけた	(具体的 内容記載欄) 滑り台で遊ぶときに、滑り台の中央あたりで濡れているように思っていたところ、上から他児が滑ってきた。	(具体的 内容記載欄) 固定遊具の他に子ども達が滑り台の奥に居る様子を見つけた。園庭の出入り口付近に居た。	(具体的 内容記載欄) もう一人は最後の子どもが園庭の奥に居る様子を見つけた。園庭の出入り口付近に居た。	活動前には必ず遊具の準備をし、職員配置ができてから子ども達の活動を開始していく。	活動前には必ず遊具の準備をし、職員配置ができてから子ども達の活動を開始していく。	
3588	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5 午前中	施設外 (園外保育先・公園等)	3歳児	30名	名	名	名	名	名	名	1名	3名	2歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢 (腕・手・手指)	右手小指骨折	自らの転倒・衝突によるもの	なし	定期的に実施	実施頻度(6から8)回/年	基準以上配置	フリー保育士に配慮が必要。子どもに周知を行う。	フリー保育士に配慮が必要。子どもに周知を行う。	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	不定期に実施	実施頻度()回/年	—	—	集団活動中・見守りあり	水筒を持って歩くことになっていた。歩幅が狭い。水筒の重さ、ひも、掛け方を子どもに伝えておく。	水筒の重さ、ひも、掛け方を子どもに伝えておく。	水筒の重さ、ひも、掛け方を子どもに伝えておく。	(具体的 内容記載欄) 列の中で靴が脱げてしまった。靴が脱げてしまったため、本児に付いて歩くように指示した。	(具体的 内容記載欄) 靴が脱げてしまった。靴が脱げてしまったため、本児に付いて歩くように指示した。	(具体的 内容記載欄) 靴が脱げてしまった。靴が脱げてしまったため、本児に付いて歩くように指示した。	手を繋ぐ子を配慮する。間が空かないように歩いたり、後ろの子が追いつくまで待つ。子ども達にも間が空かないという約束をする。	手を繋ぐ子を配慮する。間が空かないように歩いたり、後ろの子が追いつくまで待つ。子ども達にも間が空かないという約束をする。
3589	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	5 午前中	施設内 (室外・園庭等)	異年齢構成	96名	1名	2名	3名	2名	2名	1名	2名	18名	5歳	男児	特になし	屋外活動中	負傷	—	骨折	上肢 (腕・手・手指)	右腕骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度(2)回/年	基準配置	—	特になし	定期的に実施	実施頻度(1)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度()回/年	—	特になし	個人活動中・見守りあり	—	特になし	特になし	(具体的 内容記載欄) 本児が少し離れたところへ遊びに行った。本児が少し離れたところへ遊びに行った。本児が少し離れたところへ遊びに行った。	(具体的 内容記載欄) 本児が少し離れたところへ遊びに行った。本児が少し離れたところへ遊びに行った。本児が少し離れたところへ遊びに行った。	(具体的 内容記載欄) 本児が少し離れたところへ遊びに行った。本児が少し離れたところへ遊びに行った。本児が少し離れたところへ遊びに行った。	園庭で遊ぶ際の保育士の位置について確認をし、全体が把握できるようにする。	園庭で遊ぶ際の保育士の位置について確認をし、全体が把握できるようにする。
3590	令和3年5月31日	1. 認可	6. 認可保育所	12 昼食時・おやつ時	施設内 (室内)	2歳児	18名	名	名	名	名	名	名	3名	3名	3歳	男児	—	食事中 (おやつ含む)	負傷	—	骨折	体幹 (首・胸・腕・手・足)	左鎖骨骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度()回/年	基準配置	子どもの性格、行動パターン、物的環境など複合的に状況判断し危険予測をする。	子どもの性格、行動パターン、物的環境など複合的に状況判断し危険予測をする。	定期的に実施	実施頻度(24)回/年	定期的に実施	実施頻度(24)回/年	不定期に実施	実施頻度(12)回/年	—	施設、遊具、玩具に原因はないと考える。	今回の事故や施設や玩具、玩具は原因はなかった。改善策は不要。	食事中(おやつ含む)	子ども達の動きを見つけた	(具体的 内容記載欄) 一人は、食事の片付けをしながら、遊び場へ出てきた。一人は、食事の片付けをしながら、遊び場へ出てきた。一人は、食事の片付けをしながら、遊び場へ出てきた。	(具体的 内容記載欄) 一人は、食事の片付けをしながら、遊び場へ出てきた。一人は、食事の片付けをしながら、遊び場へ出てきた。一人は、食事の片付けをしながら、遊び場へ出てきた。	(具体的 内容記載欄) 一人は、食事の片付けをしながら、遊び場へ出てきた。一人は、食事の片付けをしながら、遊び場へ出てきた。一人は、食事の片付けをしながら、遊び場へ出てきた。	子ども達の動きを見つけた	子ども達の動きを見つけた	

No	概要 初回掲載年月日	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故にあった子どもの性別	事故の状況	事故発生時の状況					事故誘因	事故発生の要因分析					ハード面				環境面			人的面					掲載更新年月日									
					発生時の人数	施設・事業体制					死亡原因	負傷状況	受傷部位	診断名				ソフトウェアの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他の要因・分析、特記事項	改善策		施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他の要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他の要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き理由	担当職員の動きを具体的に何をしていったか	他の職員の動きを具体的に何をしていったか	その他の要因・分析、特記事項	改善策														
						異年齢構成の場合の内訳	0歳	1歳	2歳	3歳																											4歳	5歳以上	学童	その他										
3611	令和3年5月31日	認可・認可外	6.認可保育所	2朝(始業～午前10時頃)	施設内(室内)	異年齢構成	84名	6名	12名	13名	24名	18名	11名	0名	26名	19名	2歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	骨折	上肢(腕・手・手指)	左中指第三指骨折【治療に要する期間：全治4週間】	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	基準以上配置	自由遊びの時間であり気持ちが高ぶっていたかもしれない。	基準以上の配置ではあったが、活動内容を予測して保育する必要があった。	不定期に実施	実施頻度(6)回/年	定期的に実施	実施頻度()回/年	不定期に実施	実施頻度(4)回/年	玩具を量の上に出していたが、対象児周辺には無かった。冬のため多少、床が滑りやすかった。	保育室内での遊びはしたが、床での対象児の動きに注意が必要だった。	保育室内で遊ぶためには広くしたが、対象児の動きにより注視しなくてはならなかった。	節分行事の後のため、机や椅子は廊下に出ており、保育室内は広く見守りあり	(具体的内容記載欄)対象児の動きもいろいろと見えていた。(具体的な内容記載欄)保育室全体を見ながら、子どもたちの動きや遊びを見ていた。	担当・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)対象児も見ながら、子どもと一緒に遊びながらも、その他の子供たちの様子を見ていた。	機嫌よく遊んでいたが、過度な動きになる場合予測し、静止させる必要があった。				
3612	令和3年5月31日	認可	6.認可保育所	11朝(始業～午前10時頃)	施設外(園外保育先・公園等)	4歳児	26名	6名	名	名	名	名	名	名	3名	2名	5歳	男児	—	室内活動中	負傷	—	その他	上肢(腕・手・手指)	右ひじ付近の軽微損傷	自らの転倒・衝突によるもの	あり	不定期に実施	実施頻度()回/年	基準以上配置	特になし	別の部屋に移す直前に歩いている行動をするよう声を掛ける	定期的に実施	実施頻度(10)回/年	定期的に実施	実施頻度(10)回/年	定期的に実施	実施頻度(10)回/年	特になし	特になし	転倒したときに手をつけないで、身体の柔軟性を養う必要がある。	保育の中で手を動かさず運動を取り入れることを、体操教室の指導者と共有する。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)指導者の声に動いていた	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)全体を見ながら対象児を見ていた	担当・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)対象児を見ていた	体操教室の指導者を含めて職員は子どもが走る時は、人との間隔をと十分に取るように声を掛ける	
3613	令和3年5月31日	認可	6.認可保育所	11午後	施設内(室内)	4歳児	20名	名	名	名	名	名	名	名	2名	1名	4歳	男児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	体幹(首・胸部・腹部)	左鎖骨骨折・左膝打撲傷・(環軸椎亜脱臼の疑い)	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度(4)回/年	基準配置	安全配慮に関する取り組みが不十分であった。	定期的にマニュアルを確認すると、職員に伝え、一人ひとりが常に意識を持って関わっている。	定期的に実施	実施頻度(48)回/年	定期的に実施	実施頻度(48)回/年	定期的に実施	実施頻度(48)回/年	遊具の遊び方について職員間で共有すべき基準が定まっていなかった。	遊具の遊び方について基準を定めると共に、引き続き定期的に各安全点検を行う。	体を十分に動かさずに戸外で遊んでいた。	寒い日は特に、体を十分に動かして、温めながら戸外で遊ぶようにする。	いつもの様子であった	(具体的内容記載欄)特にならなく、いつも同じ姿であった。	対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)園庭でうずまきじゃんけんをしていたので、そちらの遊びで遊んでいては注意しよう、日頃から意識していた。	担当・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)園庭に出る前に子どもを十分に温めるようになっていなかった。	準備運動をしたり、上着を着て暖かい服装で戸外に出るようにする	
3614	令和3年5月31日	認可	6.認可保育所	12夕方(16時頃～夕食提供前頃)	施設内(室内・園庭等)	異年齢構成	21名	名	名	6名	8名	7名	名	名	2名	2名	6歳	女児	—	屋外活動中	負傷	—	骨折	下肢(足・足指)	左足関節外側靱帯損傷、左足関節節外果骨折	自らの転倒・衝突によるもの	あり	定期的に実施	実施頻度(2)回/年	基準配置	冬場は気温も低く、子どもたちの身体も硬いので、園庭に出る際には、準備運動を行ったり、保育士、子どもたちにも周知すること	園庭に出る際、保育士を追いつけず、走り出し、準備運動を行ったり、保育士、子どもたちにも周知すること	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(48)回/年	定期的に実施	実施頻度()回/年	特になし	特になし	いつもどおりの様子であった	靴を履き、立ち上がり出した	対象児の動きを見ていた	(具体的内容記載欄)園庭遊びで移動し、本人が急に走りだし、そのたんばランスを崩したので対応が出来なかった	担当・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)園庭遊びで移動し、本人が急に走りだし、そのたんばランスを崩したので対応が出来なかった	特になし	特になし		

[illegible]

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故にあった子どもの年齢性別特記事項			事故状況発生時状況		事故の転帰		診断名	事故誘因	事故発生の要因分析ソフト面							ハード面			環境面 教育・保育・育成支援の状況	人的面			掲載更新年月日											
							発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳					学童その他	負傷状況	受傷部位		予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他の要因・特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】			その他の要因・特記事項	改善策	対象児の動き理由	担当職員の動きを何をしていったか	他の職員の動きを具体的に何をしていたか	その他の要因・特記事項	改善策																			
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																					5歳以上																		
3648	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭等)	7.異年齢構成	6名	名	名	4名	1名	1名	名	2名	2名	3歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折(左腕肘)	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	事故防止についての職員研修の回数が少ない	本部で事故予防マニュアルの作成を検討する	事故防止についての研修を定期的に(月に1度、職員会議の中で)行う。	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	園庭に遊具がないので、現状では遊びの幅が狭い	園庭の使用方の再検討をする・三輪車の活用ルールのある集団遊びなど	1.集団活動中・見守りあり	用具をすべて片付けてから順次入室する	1.いつもどおりの様子であった	登園時より平常通りだった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	入室準備をしていない子どもたちが遊んでいる様子をみていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全ての用具を片付けるときに子どもを順次入室の準備を始めたので、1人の保育士は本児をみていなかった	特になし	一人ひとりの動きを把握するよう保育する	
3649	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	13名	名	名	名	名	名	名	2名	1名	5歳	2.女児	—	8.その他	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘下骨折(橈骨・尺骨)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	—	個々の体力・成長及びその日の体調の把握をする。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	—	改めて跳び箱の補助の研修を行う。	7.その他	—	事故の起こっている時危険がないか確認。声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)運動が得意な方ではない	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)講師が補助について、担当は他児の対応をしていた。(至近距離にいた)	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)2回目の跳び箱であった。足をひきかけている子どもも数人いた。本児も何回か足をつけることもあった。またつないたりとてしまった。	—	転倒した後の子どもの状態を丁寧に確認をし、上司に直後に相談をする。	
3650	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	7	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25名	名	名	6名	7名	12名	名	2名	2名	5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足甲骨折	3.子ども同士の間での衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	—	子ども達が入り込みそうな狭い場所、死角はないか確認し、職員間で共有する。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	—	安全点検を定期的に行う。	1.集団活動中・見守りあり	他児を見ていた為、本児声で気づく	狭い場所で遊んでいる時危険がないか確認。声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)運動が得意な方ではない	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)他児を見ていた。密着して遊んでいたことが認識したが、ケガには繋がらなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)保育室の方保育している	—	立ち位置の検証をしていく。	
3651	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭等)	7.異年齢構成	16名	名	名	7名	5名	4名	名	2名	2名	5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(0.5)回/年	1.基準以上配置	—	事故防止のためにこまめに学習をしている必要がある。	1.定期的に実施	実施頻度(0.5)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	—	鉄棒は随時点検をしており、特段の改善策はなし。	1.集団活動中・見守りあり	朝の登園時には、受け入れもあるので活動を見ます。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)いつもと変わらない様子で、鉄棒をしたと言っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)本児のやりたかった鉄棒をやることにした。保育士はそばについていたときに落ちてしまった。抱きかかえ砂を払ったら、腕の異変に気がついた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)朝の受け入れ時だったので、他の子どもの受け入れをため見ていた。	—	その場の状況等を踏まえ、職員の見守りや必要がある。			

概要		発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者		事故にあった子どもの特記事項		事故発生時の状況		事故の転帰		事故誘因		事故発生の要因分析		ハード面		環境面		人的面		掲載更新																						
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制						人数	異年齢構成	場合の内の学童5歳以上	その他	保育教諭・幼稚園教諭・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡死因	負傷負傷状況	受傷部位	診断名	誘因	マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き理由	担当職員の動きを何をしたか	他の職員の動きを何をしたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日							
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																																									
3665	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児						27名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	2.女児	落ち着きのない子で、激しい行動がある。	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.基準配置	ブランコの柵を乗り越えたりしないよう日頃から注意しておく。	年長児になり、自分の力以上の事に挑戦しようとする気持ちも出てくることを、日頃の保育から感じ取り、発達過程から予測しておくことも必要。	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし。	特になし。	1.集団活動中・見守りあり	(具体的内容記載)午後も、おやつも食いつも元気に園庭で遊んでいた。仲が良かったので対象児を見ていた。対象児と友だちが柵の所に入っていたが、そのような行動をとることはなかった。	(具体的内容記載)一人は対象児から少し離れた範囲の近くでお迎えの対応をしていた。もう一人は園庭の奥山近くで他の子を見ていた。対象児と友だちが柵の所に入っていたが、そのような行動をとることはなかった。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載)他の職員はそれぞれクラスの子についていた。	友だち同士でも危ないことは合うよう指導する。	危険な行動をしていないか見守る。		
3666	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	12名	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	6歳	1.男児	曇っていた雨が降り出し、おやつ後はホールでの活動となった。	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.基準配置	雨天、土曜日の合同保育時、危険な遊びを工夫する。	土曜日の合同保育時、危険な遊びを見直す。	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	年長児になると、走るスピードも速くなったときの衝撃が大きかったらう。	事故の状況をクラス全体に話し、ホールの遊び方を子どもたちと一緒に確認し合った。	1.いっぽりのお子であつた	(具体的内容記載)朝、普段と同じ時間に登園し元気に遊んでいた。	3.対象児から離れたところでお迎えをしていた	(具体的内容記載)友だちと鬼ごっこで遊んでいるのを見ていた。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載)他の職員は自分たちの担任の子で遊んでいる様子を見ていた。	土曜日は他のクラスの担任の先生が多いため、安全面について話すとともに、年長児からの発達段階から発達段階に合わせた遊びの様子を見守る。	
3667	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41名	名	名	名	13名	11名	17名	名	3名	3名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆粒骨折(右肘)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	なし	園庭あそびにおける子どもたちの約束事項のマニュアルの中に子ども同士、ボールを蹴り合うをする場合、前後に人がいないか、確認しながらサッカーをするように全体に周知することを追記する。	園庭あそびにおける子どもたちの約束事項のマニュアルの中に子ども同士、ボールを蹴り合うをする場合、前後に人がいないか、確認しながらサッカーをするように全体に周知することを追記する。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	—	毎日、遊具や玩具のチェックは行っている。改善点としては、更に園児のあそび場の見守りを強化する。	園児の人数に対して、保育士の人数が適切である。降所時には保護者との伝達事項でも、子どもが離れることがないように注意をし、持ち場を離れる際は、職員間での連携を図る。	1.集団活動中・見守りあり	—	(具体的内容記載)いつも通っている場所から、本児が離れたところでお迎えをしていた。	3.対象児から離れたところでお迎えをしていた	(具体的内容記載)全体が見守りながら、本児が離れたところでお迎えをしていた。転倒で止めることが出来なかった。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載)他の職員は、他の担任の子の担任の子を見ていた。	子ども同士、ボールを蹴り合いをする場合、前後に人がいないか、確認しながらサッカーをするように全体に周知する。	
3668	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	20名	名	名	名	名	名	名	名	22名	14名	5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	4.創傷(切創・裂創等)	顔面(口腔内含む)	網膜裂孔	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.基準配置	保育場において、詳細なマニュアルが整備できていなかった	事故防止マニュアルを整備し、研修の実施により職員に周知を行う	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	練習スペースとしては、空間が狭く、子どもの動線が重なっていた	遊戲室で行うなど、広いスペースを確保する	1.集団活動中・見守りあり	子ども同士がぶつからないように、片付けに決める	収納場所及び位置の確保が充分でなかった	子ども同士がぶつからないように、片付けに決める	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載)練習を終えてパチを床においていて、練習で入れた後、後ろ向きながら立ち上がったところ、後ろにいた男児が振り返ってパチが目についた。	(具体的内容記載)パート別で指導しているが、練習が終わった後、後ろ向きながら立ち上がったところ、後ろにいた男児が振り返ってパチが目についた。	初めての練習でパチは十分に指導していたが、練習が終わった後、後ろ向きながら立ち上がったところ、後ろにいた男児が振り返ってパチが目についた。	練習が終わった時やパチを使わない時などのルールを決め安全対策を強化する		

[illegible]

概要		発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの年齢		事故状況発生時状況		事故の転帰		事故誘因		事故発生の要因分析ソフト面		ハード面		環境面		人的面		掲載更新年月日																							
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	事故発生時期時間帯	発生場所	発生時の体制					教育・保育等従事者うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	状況	死亡	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	誘因	マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面教育・保育支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き理由	担当職員	他の職員	その他要因・分析、特記事項	改善策											
							人数	0歳	1歳	2歳	3歳																															4歳	5歳以上	学童	その他						
3714	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	8	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	11名	0名	1名	11名	0名	4名	1名	男児	・事故当日、保護者と共に受診。保護者の意向によりレントゲン撮影は行わず、エコーをとり、右下腿挫傷との診断となる。再診時(翌々日)、歩かない状況が変わらず、保護者同意のもとレントゲンを取り、今回の診断となる。	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	螺旋状骨折(右脛骨)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	—	タ方という時間帯の子どもの状況(疲れや集中力の低下により、転倒や怪我につながる行動が見られることを予測した保育を行う。	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	—	子どもの動線を考えた上で、遊びの設定を行う。	3.個人活動中・見守りあり	—	子どもの遊びを見守りつつ、遊んでいない玩具は片付ける。状況により、設定を変えるなど遊びに集中できる環境をつくる。	1.いっもどりの様子であった	(具体的内容記載欄)	2.対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)子どもの動きが全体的に見える位置に座り、他児と関わっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)排泄のため、トイレについていた。	—	担任以外の保育士が保育を担当していた。保育にあたる保育士が子どもの状況を把握し、動きが把握できる位置など視覚をつくらにすることを改めて確認する。			
3715	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36名	0名	0名	13名	11名	12名	0名	2名	2女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	クラス担当2名のうち1名が産休に入り、代替の職員はあったものの、そのうちの一人の担当がクラス児を把握しきれていない状況にあり、見きれていなかった。幼児担当の職員同士で、大人の動きを確認し合っていることを徹底する。	1.定期的実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的実施	実施頻度(2)回/年	1.集団活動中・見守りあり	対象児の身体発達や体力面等を把握しきれていない状態です。園庭での活動をさせていました。	対象児の把握の徹底、活動させる際の注意点を確認。	1.いっもどりの様子であった	(具体的内容記載欄)保育の経験はあり、不安があった。園庭での活動を見守っていました。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)他児の対応をしていたが、転んですぐに本児につき、身元の状況を確認し、手洗いをさせ、事務室の看護師に見せに連れていった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)他児の対応を見て、そばにはいなかった様子が見守っていた。	スコップなど大きなもの、長いものなど手に持つことの危険性を子どもたちにも伝え、そのことをお約束して守って安全に遊べるよう指導していく。						
3716	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17名	0名	0名	0名	7名	10名	0名	1名	1名	6歳	2女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	ソフト面については事故発生の要因は考えられる	ソフト面については改善策はないと考えられる	1.定期的実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的実施	実施頻度(24)回/年	2.不定期実施	実施頻度(12)回/年	転倒した付近に危険物はなく、施設も点検も行ったことから、安全面は確保できていた。	所庭には芝が敷いてあり、転んでもけにくい環境ではあるが、今後点検等、安全面の確保に努める。	子ども達は保育士届く場所やお遊り、危険な遊びをしていないかった。	子どもが着用している衣服や運動に適しているものか、チェックする。	1.いっもどりの様子であった	(具体的内容記載欄)普段と変わらず、体を動かして元気な様子で遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)対象児の動きを見ていた	担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)所庭に出ていた。4・5歳児担当1名であったため、他の職員はいなかった。	—	—	
3717	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	34名	0名	0名	0名	14名	9名	11名	0名	2名	2名	5歳	1男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(約1)回/年	2.基準配置	ブランコの乗り方については事故発生の要因は考えられる	ソフト面については改善策はないと考える	1.定期的実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的実施	実施頻度(6)回/年	—	対象児の想定外の行動による事故で施設・設備等の点検では防げなかった。	公園は園のすぐ側にあり、約週3回遊びに行く公園	保育の状況は、普段通りで改善するところはない。	1.いっもどりの様子であった	(具体的内容記載欄)9月頃からブランコを上手に滑りやすくなるようになり、普段通り速度を上げて大きく滑る。耳元にまで飛んできておどろかすという状況で、右半身から落下。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)ブランコの側に付き、全体を見ながらブランコを滑っている子を見える。大きく滑っている時に「手を絶対に離さないで」と声を掛けをする。落下する瞬間は見えていたが、落下を防ぐことはできなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)全体を見渡せる場所を回していた。ブランコから少し離れた場所に居たため落下を防ぐことはできなかった。	大きくブランコを滑っている対象児を一度止めて、滑りすぎないように促さずだった。	

[illegible]

No	概要 初回掲載年月日 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況					事故誘因	事故発生の要因分析ソフト面					ハード面					環境面 教育・育成支援の状況	その他要因・分 析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き理由	担当職員の動き 何をしていたか	他の職員の動き 何をしていたか	その他要因・分 析、特記事項	改善策	掲載更新年月日													
					発生時の体制	人数	異年齢構成	0歳	1歳	2歳	3歳					4歳	5歳以上	学童	その他	発生時状況		死亡死因	負傷負傷状況	受傷部位	診断名	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】										玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策										
3754	令和3年5月31日	1.認可 6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内（室外・園庭等） 7.異年齢構成	80	3名	14名	17名	20名	13名	13名	名	21名	21名	5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（1）回/年	1.基準以上配置	マニュアルの記載内容が不十分	マニュアルの見直し	1.定期的に実施	実施頻度（12）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（ ）回/年	本件はハード面での原因は考えにくい。	上記理由により、ハード面での対応は困難	1.集団活動中・見守りあり	—	—	1.いつともどおり様子であった	（具体的内容記載欄） 特段異常は見えていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	（具体的内容記載欄） 園庭で走り回っている本児を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	（具体的内容記載欄） 園庭で走っていた	振り返ったりせず、前を向いて走るよう子どもたちに伝える。				
3755	令和3年5月31日	1.認可 6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内（室内）	—	20名	名	名	名	名	名	名	1名	1名	5歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	木骨折	若	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度（1）回/年	2.基準配置	—	職務会や園内研修にて、安全面について話し合いをし共通理解をはかる。	1.定期的に実施	実施頻度（ ）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（毎日 ）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（ ）回/年	—	遊具や体育道具は、使用前にしっかりと点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	運動会の演技中、	担任が2人いるのでどんな時も全体と個人で見守っています。子ども達の様子を見ながら、その子の側に行きかけし対応する話を合っていました。	（具体的内容記載欄） とび箱をとび箱をぶつかったり、ブリッジ歩き練習中に膝を床に少しまみってしまい、本児の気が下がってしまい、気持ちの切り替えができないまま、とび箱を跳んでしまいました。	2.いつもより元気がなかった（理由を記載）	（具体的内容記載欄） とび箱のとび箱のそばにつき、子ども達をペルの合図でリズムに合わせて踊らせたところ、自分自身も6段をクリアすることができず、跳んだあと、ふてくされたような表情をしていたものの、痛がついてからは見えなくなりました。	2.対象児の動きを見ていた	（具体的内容記載欄） とび箱のとび箱のそばにつき、子ども達をペルの合図でリズムに合わせて踊らせたところ、自分自身も6段をクリアすることができず、跳んだあと、ふてくされたような表情をしていたものの、痛がついてからは見えなくなりました。	1.担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	（具体的内容記載欄） とび箱のとび箱のそばにつき、子ども達をペルの合図でリズムに合わせて踊らせたところ、自分自身も6段をクリアすることができず、跳んだあと、ふてくされたような表情をしていたものの、痛がついてからは見えなくなりました。	運動会練習中、グループ別で（ブリッジ歩きを）披露する際、膝を床に少し打ってしまった際、待機していた他のグループの子に見られていたこと、その子が行ったことに驚きました。	担任が2人いるのでどんな時も全体と個人で見守っています。子ども達の様子を見ながら、その子の側に行きかけし対応する話を合っていました。	
3756	令和3年5月31日	1.認可 6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地外（室外・園庭等） 5.4歳児クラス	23	名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	2.基準配置	—	マニュアルがあることを職員に周知し、いつでも見られるようにしていく。 臨時職員に安全な保育や子どもへの関わりについて話をする機会をつくる。	1.定期的に実施	実施頻度（12）回/年 実施頻度（3）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（12）回/年 実施頻度（24）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（48）回/年	—	地面の凸凹など転びやすい場所の整備を行う。	1.集団活動中・見守りあり	—	・子どもが集まっている時や十分なスペースがない時など、子どもが動き出す前に十分なスペースを確認する。 ・遊びが集中しないように遊びの種類や遊び方などの工夫をしていく。	（具体的内容記載欄） 友達の問をくぐり抜けて前へ歩こうとしていた。	2.対象児の動きを見ていた	（具体的内容記載欄） 友達の問をくぐり抜けて前へ歩こうとしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載欄） 友達の問をくぐり抜けて前へ歩こうとしていた。	子どもが集まっている時や十分なスペースがない時など、子どもが動き出す前に十分なスペースを確認する。					
3757	令和3年5月31日	1.認可 6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外（園外保育先・公園等） 7.異年齢構成	65	名	名	名	名	41名	24名	名	6名	5名	5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	若木骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（1）回/年	2.基準配置	特になし	園外での活動前に、場所・遊具等の確認を行い、事故防止のための内部研修に職員間の共通理解を図る。	1.定期的に実施	実施頻度（12）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（2）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（12）回/年	特になし	園外の施設であるため管理できない。園内の遊具については、毎日の点検とヒヤリハットの伝達から危険箇所を共有する。	1.集団活動中・見守りあり	事故現場のターザンロープについて、遊び始めの箇所で掴み方を教えて指示を出したが、返りに職員が配置されていなかった。	4.5歳児の発達、遊びのレベルを考慮し、使い分けを講じる	（具体的内容記載欄） 友達の遊びに興味がなく、ロープの掴み方を添って指示して遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	（具体的内容記載欄） 友達の遊びに興味がなく、ロープの掴み方を添って指示して遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載欄） 友達の遊びに興味がなく、ロープの掴み方を添って指示して遊んでいた。	大型固定遊具だけの使用として遊ぶよう職員を指導しているが、その中でも年輪応じてあるかの判断ができずに、跳ね返りの場所にも職員を配置するべきであった	職員間で配置箇所を確認し、職員数が不足している場合は、遊具を使い分けたり、判断をとる				

[illegible]

No	概要				施設・事業体制										発生時の体制		事故にあって子どもの特記事項				事故状況				事故発生の要因分析				ハード面				環境面		人的面				掲載更新年月日											
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の人数	異年齢構成の場合の学童数					教育・保育等従事者うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生状況	事故の転帰 死亡原因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き理由	担当職員の動きを何をしていたか	他の職員の動きを何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策												
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																													5歳以上	その他									
3793	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36名	0名	0名	0名	18名	18名	名	4名	3名	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	—	子どもの動きをより具体的に予想して、危険箇所を見直していく	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2〜4)回/年	—	かけつこのゴール位置の変更・ゴールした後の誘導	1.集団活動中・見守りあり	(具体的内容記載欄) ゴール後はゆっくりクラスの列に戻るよう声をかける	1.いつもおどりの様子であった	(具体的内容記載欄) かけつこのスタート地点で次の子ども達の準備をしていた	3.対象児から離れたところへ対象児を見ていた	(具体的内容記載欄) かけつこのスタート地点で次の子ども達の準備をしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄) ゴールするまでみていたが、ゴール後の友だちとの接触によるもので、手助けはできなかった	ゴール付近に十分なスペースが確保できていなかった	子どもたちの声掛け
3794	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	20名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	3歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	本児は、個別支援が必要で補助保育士がいる。本児の補助とはいえず、常についているわけではないので、2人の子どもを保育している。	補助保育士は、離れていて本児から出ることを制限し、目を離さないように見守る。	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.集団活動中・見守りあり	クラスみんなでごっこ遊びをしていたが、本児は気が進まず、一人室内を歩いている状態で、精神的に不安定であったと想像する。	(具体的内容記載欄) クラスみんなでごっこ遊びをしていたが、本児は気が進まず、一人室内を歩いている状態で、精神的に不安定であったと想像する。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	3.対象児から離れたところへ対象児を見ていた	(具体的内容記載欄) クラスの活動として、ごっこ遊びをしていた最中であったため、本児より離れたところにいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ごっこ遊びをしている他の園児の動きを見ていた。	—	子どもへの気持ち添い、手持たふさぎにならないよう様子を見て、他の活動ができるように環境を整えていくこと。
3795	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22名	名	名	名	12名	10名	名	1名	1名	6歳	1.男児	・身長114cm、体重20kg、体格が良い。 ・天気も良い暖かい日であった。 ・戸外で身体を動かしたり、友達と鬼ごっこをして遊ぶことが好きだった。	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	—	・活動によって必要な保育士の人数調整を行う。 ・事故予防に関する研修に参加し、職員全体で周知する。	・午後からは午前中の疲れがあるため、走る範囲を決めて行う。 ・日頃の保育の中で運動機能を取り入れる。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.集団活動中・見守りあり	園庭の地面のへこみや石が落ちていないかを、隅々まで確認するよう努める。	園庭の地面を確認し、隅々まで整備するよう努める。	1.いつもおどりの様子であった	(具体的内容記載欄) 友達と一緒に元気よく走ったり、鬼ごっこをして遊ぶ姿が見られた。	3.対象児から離れたところへ対象児を見ていた	(具体的内容記載欄) 園庭にあそび場があり、子供たちが楽しんでいる様子を見た。対象児を含め、鬼ごっこをする子どもたちを目で追っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄) 休日の勤務中に、事務所の職員3名が事務所に含まれていた。鬼ごっこをして遊んでいた。	固定遊具で遊ぶ子どもには、保育士がつながないような目印がなく、周囲の時に動けない可能性があるため、もう一人保育士を配置する必要があると考えた。	戸外で遊ぶ時には、保育士を2人配置する。
3796	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	2	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	10名	名	名	名	名	名	2名	2名	2歳	2.女児	—	食事中(おやつ含む)	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	転倒した際噛んだことによる下唇の創傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	子どもは予測の付かない行動をとることがあるので大人の危機管理意識を高める。	担任が注意・観察するだけでなく、日頃から園児に対して、転倒しないよう安全な椅子の座り方を示すように説明して身に付けさせることを今まで徹底していた。	日頃から下面での安全点検をチェックシートを用いている。今後、毎日、ハード面で点検を行い、ヒヤリハット事故につながらないよう安全面に配慮したい。	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	1.集団活動中・見守りあり	子どもは予測の付かない行動をとることがあるので大人の危機管理意識を高める。	子どもは予測の付かない行動をとることがあるので大人の危機管理意識を高める。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄) 担任と副担任は、担任と一線、兄が椅子から転倒しないよう注意・観察していたが、担任の兄の食事介助もしていたため、兄につきっきりで指導することは難しい状況であった。	(具体的内容記載欄) 担任と副担任は、担任と一線、兄が椅子から転倒しないよう注意・観察していたが、担任の兄の食事介助もしていたため、兄につきっきりで指導することは難しい状況であった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄) 担任と副担任は、担任と一線、兄が椅子から転倒しないよう注意・観察していたが、担任の兄の食事介助もしていたため、兄につきっきりで指導することは難しい状況であった。	子どもは予測の付かない行動をとることがあるので大人の危機管理意識を高める。	散歩や室内での遊び以外に、昼食時など想定外時の事故予防方法についても検討する。		

[illegible]

[illegible]

No	初 回 掲 載 年 月 日	概 要 認可・認可外	施設・事業所種別	事 故 発 生 時 期 月 時 間 帯	発 生 場 所	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故に あつた 子ども の 年 齢	性 別	特 記 事 項	事故状況 発生時状況	事故の転帰 死亡 原因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故 誘因	事故発生の要因分析 ソフト面					ハード面				環境面 教育・ 育成・ 支援の 状況	その他要 因・分 析、特 記 事 項	改善策	人的面			その他 要因・ 分析、 特記事 項	改善策	掲 載 更 新 年 月 日										
						人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳以上	学 童 その他	事故予 防 研 修 実 施 頻 度 【回/年】	職員配置	その他要 因・分 析、特 記 事 項	改善策	施設の安全点検 実施頻度 【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度 【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度 【回/年】											その他要 因・分 析、特 記 事 項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員 の動き 何をしていたか	他の職員 の動き 具体的に何をしていたか																							
3876	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	18名	0名	1名	2名	3名	4名	5名	0名	4名	4名	3歳	1.男児	—	食事中(おやつ含む)	1.負傷	—	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折【治療に要する期間：2ヶ月〜3ヶ月】	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	両手がふさがれていたこと。手に持っていたもので打ち付けたこと。	両手に物を持たない。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	引き続き定期的に点検を実施していく。	6.食事(おやつ)中	机と机の距離が近かったため	出来るだけ空間を広く確保しようとする。机の配置にする。	1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄)給食後、歩き出した時に椅子につきず転倒した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)周りをよく見て、気を付けるよう声をかけた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)給食時、各テーブルの他児への対応をしていた。	—	子どもたちも目を向ける。子どもたちへ、片付けの際は十分気を付けるよう声掛けをしていく。	
3877	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5歳児	1名	5名	6名	9名	8名	13名	8名	0名	1名	1名	6歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	—	普段から体制がしっかりしておらず、声掛けが必要である。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	床材の硬さを考える。	1.集団活動中・見守りあり	—	歩行中突然足をひねってしまったので、なすすべもなかった。今後の対策として「歩き方の見直し」「転ばないような体づくり」を心掛ける。	1.いつもの様子であった	普段から時、くね事があった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	普通に歩いただけだったので、特に危険は感じず見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故当時、他の職員はいなかった。	—	両足をしっかりと床につけて歩く事を指導する。	
3878	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	66名	0名	0名	0名	19名	24名	23名	0名	6名	6名	5歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右示指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	保育士の見守りや体制に不備は無く、遊具使用している物で活動前に点検している。	慣れた活動の場合も活動前には、危険箇所や注意事項を再度、児童に促したり確認している必要がある。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	日常使用している遊具であり、活動前に点検している。	遊具の頻回使用による劣化や消耗に気を付ける。	1.集団活動中・見守りあり	保育士の見守りや体制に不備はなかったが、活動前の危険箇所や注意事項に気を配っていた。皆、落ちて活動に臨んでいた。	1.いつもの様子であった	(具体的内容記載欄)跳び箱の側に付き、当該児童と周待機している児童にも十分に気を配っていた。皆、落ちて活動に臨んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)担当者の至近距離に、他の配置された数名の保育士で活動を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)担当者の至近距離に、他の配置された数名の保育士で活動を見ていた。	保育士の見守りや体制に不備はなかったが、活動前の危険箇所や注意事項に声掛けがなかった。	慣れた活動の場合も活動前には、危険箇所や注意事項を再度、児童に促したり確認していくと共に、職員同志の連携を密にする。		
3879	令和3年5月31日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	10名	0名	0名	0名	10名	0名	0名	0名	1名	1名	3歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	脛骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	・雪山での遊び方の注意事項の確認が出来なかった。(初回) ・雪山の状況(雪質、傾斜)や年齢による遊び方の見通しが出来なかった。 ・雪山での遊び方を全職員で確認し、戸外活動をする時は職員体制・子ども数・場所を報告し明記する。	・雪山の状況を確認して遊び方を検討する。 ・雪山の状況を確認して遊び方を検討する。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	・子どもの人数が多かった。 ・天候・雪質等を遊ぶ前に確認が出来なかった。	・公園の山の斜面は、前日から寒さで滑りやすくなり、滑りが出来るようになった。 ・初めてのソリ滑りであり、年齢として自分での操作が出来ない状態の時等は、安全に遊べるよう内容を変更をする。	1.集団活動中・見守りあり	・公園の山の斜面は、前日から寒さで滑りやすくなり、滑りが出来るようになった。	・初めてソリ滑りであり、年齢として自分での操作が出来ない状態の時等は、安全に遊べるよう内容を変更をする。	1.いつもの様子であった	自分のソリを持ち山へ向かう途中	2.対象児の至近で対象児を見ていた	山の上から滑りはじめると子どもを主にしていた。	—	なし	・雪山の下を把握していなかった。 ・担任の情報交換・連携が出来なかった。	・滑る場所・登るタイミングを自視して、子どもが危険だと思われる場合は、声をかけていく。 ・園外活動の時は、遊び方や人数等を担任間で連携しあう。 ・園外活動の時は、複数人で出掛けるようにより安全に努める。	

No	概要 初回掲載年 月日 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・放課後児童支援員等	事故に あった子どもの 年齢 性別 特記事項	事故状況 発生時状況		事故の転帰		事故 誘因	事故発生時の要因分析 ソフト面					ハード面				環境面 教育・保育・育成状況	人的面 対象児の動き理由		担当職員	他の職員	その他 要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日													
					発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳					状況	死亡 死亡	負傷 負傷状況			受傷部位	診断名	マニュアルの有無	事故 予防 研修 実施頻度 【回/年】		職員 配置	その他 要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全 点検 実施頻度 【回/年】	遊具の安全 点検 実施頻度 【回/年】	玩具の安全 点検 実施頻度 【回/年】	その他 要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き理由		担当職員	他の職員						その他 要因・分析、特記事項	改善策											
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																														5歳以上	学童	その他								
3880	令和3年5月31日	1.認可 6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	19名	名	名	名	名	名	名	2名	2名	5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	右腕	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置	—	—	1.定期的に実施	実施頻度(48回)/年	1.定期的に実施	実施頻度(12回)/年	1.定期的に実施	実施頻度(48回)/年	毎日の活動の中で動や静の時間があり、遊んでいたり、遊んでもちやが床に落ちてしまっていることもある。今回の事故は、着替え中脱いだ服が床にあり、側転を服の上で付きたった可能性が高い。	活動中絶えず危険な状態でも、喚起の声を聞いていた。いつも「危ないから床ではしないように」と言っていた側転を急に止めた。	1.集団活動中・見守りあり	(具体的内容記載欄)対象児は、友だちとの間わりの中で落ち込んだり機嫌が悪かったが、機嫌が直った後は落ち込んでいた。いつも「危ないから床ではしないように」と言っていた側転を急に止めた。	3.いつもより発声で活動的であった(理由を記載)	毎日の保育活動の中でも、喚起の声を聞いていた。	(具体的内容記載欄)対象児は、友だちとの間わりの中で落ち込んだり機嫌が悪かったが、機嫌が直った後は落ち込んでいた。いつも「危ないから床ではしないように」と言っていた側転を急に止めた。	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)対象児は、友だちとの間わりの中で落ち込んだり機嫌が悪かったが、機嫌が直った後は落ち込んでいた。いつも「危ないから床ではしないように」と言っていた側転を急に止めた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)対象児は、友だちとの間わりの中で落ち込んだり機嫌が悪かったが、機嫌が直った後は落ち込んでいた。いつも「危ないから床ではしないように」と言っていた側転を急に止めた。	対象児は、落ちきい性格もあり、機嫌が悪いと突発的にしゃべることがある。体操教室に通って、時々側転をしていた。	行動を事前に予測し、感情が浮き沈みしている時は、声をかけて、側に付くよう心掛ける。	
3881	令和3年5月31日	1.認可 6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	—	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	4歳	2.女児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨折・挫傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1回)/週	1.基準以上配置	登降園中の状況や実態の把握の不足や危険予知能力の意識が弱く、話題にできていなかった。	送迎時の様子や状況の把握、保護者への働きかけの大切さを職員間で話し、予知能力を高めた。	1.定期的に実施	実施頻度(1回)/週	1.定期的に実施	実施頻度(1回)/週	1.定期的に実施	実施頻度(1回)/週	保護者が、使用している自転車の後ろの椅子の足を乗せることができていた。	すぐに新しいのを買い替えた。	7.その他	登降園中の保護者や実態の把握の不足や危険予知能力の意識が弱く、話題にできていなかった。また、椅子が壊れていて、足が後ろ車輪に入り込み挟まれた。	(具体的内容記載欄)自転車の後ろの、子どもの椅子の足を乗せるところが壊れていて、足が後ろ車輪に入り込み挟まれた。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)自転車の後ろの、子どもの椅子の足を乗せるところが壊れていて、足が後ろ車輪に入り込み挟まれた。	—	(具体的内容記載欄)	なし	なし		
3882	令和3年5月31日	1.認可 6.認可保育所	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5歳以上児	22名	名	名	名	名	名	名	1名	1名	5歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.定期的に実施	実施頻度(10回)以上/年	2.基準配置	主任から指示を受けていたにもかかわらず、気心の知れた園児という安心感から目を離し、発生を防ぐことができなかった。	マニュアルの再確認 外部研修への参加 園内研修(毎職員会議時に研修)	マンユアルの上置・歩ける幅でフを配置していた。	子どもの位置・歩ける幅でフを配置していた。	ブロック・設置位置の変更	法定数内ではあるが複数配置の強化。優先順位の再確認。	1人配置の際の業務制限と複数配置の強化。優先順位の再確認。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄)	4.対象児の動きを見ていなかった	1名が離れてしまった。2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者に対する対応のため、断って断っていた。	特定された主任の指示を保育士が遵守できなかった。	保育士の意識の共有								
3883	令和3年5月31日	1.認可 6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	13名	名	名	名	名	名	名	3名	2名	2歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	大腿骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(12回)/年	2.基準配置	遊んでいる子どもの動きの把握ができていなかった。	保育士が移動する際は、周囲の子どもの状況の確認と子どもの動きの予測を十分注意する。	保育士が移動する際は、周囲の子どもの状況の確認と子どもの動きの予測を十分注意する。	保育士が移動する際は、周囲の子どもの状況の確認と子どもの動きの予測を十分注意する。	保育士が移動する際は、周囲の子どもの状況の確認と子どもの動きの予測を十分注意する。	1.集団活動中・見守りあり	(具体的内容記載欄)本児を含め数人と一緒に遊んでいる。遊んでいる間は、必ずしも手を離さないようにする。遊びの場を確保している。	(具体的内容記載欄)本児を含め数人と一緒に遊んでいる。遊んでいる間は、必ずしも手を離さないようにする。遊びの場を確保している。	4.対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)本児を含め数人と一緒に遊んでいる。遊んでいる間は、必ずしも手を離さないようにする。遊びの場を確保している。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)本児を含め数人と一緒に遊んでいる。遊んでいる間は、必ずしも手を離さないようにする。遊びの場を確保している。	子どもと遊んでいる時の職員同士の連携。	一人ひとりの職員が視野を広く持ち、お互い注意を欠かさないようにする。								

No	初 回 掲 載 年 月 日	概 要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	発生場所 時間帯	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士 児童支援員等	事故にあった子どもの 年齢 性別 特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰 死亡原因 負傷 負傷状況 受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析										環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要 因・分 析、特記事項	改善策	人的面					掲載更新年月日											
						発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳					事故発生時の状況	事故の転帰	死亡原因							負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策				ハード面 施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策		対象児の動き理由	担当職員 具体的な何をしていたか	他の職員 具体的な何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策						
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																																		5歳以上	学童	その他			
3893	令和3年5月31日	1.認可	7.小規模保育事業	11	午前中	施設内(室内)	2歳児	5名	名	名	名	名	名	7名	1名	3歳	女児	—	室内活動中	負傷	—	その他	上肢(腕・手指)	左肘	ひび	遊具等からの転落・落下	あり	不定期に実施	実施頻度(1)回/年	基準以上配置	事故防止マニュアルを普段から読んでいた。クレーンの横から少し離れたところを歩いている時に、職員間の情報共有もなかった。	事故防止マニュアルの細かい見直し	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に実施	実施頻度(12)回/年	—	集団活動中・見守りあり	クラス内でコーナーをつくり各場所まで子ども達が遊んでいた。クレーンの横から少し離れたところを歩いている時に、職員間の情報共有もなかった。	保育士は子ども達の安全を確保するために、常に子ども達の動きを注視していた。また、子ども達が危険な場所に行かないよう、声をかけたり、手をのびて止めるようにしていた。	いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 対象児の至近で対象児を見守っていた	担当・対象児の動きを見ていなかった	各クラスに担任も配置されており、保育士は園内の補助や手作業などを行っていた。その場で見ていなかった。	保育士は子ども達の安全を確保するために、常に子ども達の動きを注視していた。また、子ども達が危険な場所に行かないよう、声をかけたり、手をのびて止めるようにしていた。	保育士は子ども達の安全を確保するために、常に子ども達の動きを注視していた。また、子ども達が危険な場所に行かないよう、声をかけたり、手をのびて止めるようにしていた。			
3894	令和3年5月31日	1.認可	7.小規模保育事業	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	5名	名	名	名	名	名	8名	8名	2歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	6.その他	—	—	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	沐浴中の園児と沐浴後の園児がいるため、保育士は見守りながら対応していたが、危険を予測して直ぐに回避できない場所にはいなかった。	沐浴は、全員一緒に浴槽から出て、着替わって、保育士と一緒に移動するようにした。	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	児童は心臓中隔欠損症で手術を受けており、小児喘息の症状も起きている。	今後AEDを設置すると共に消防士から心肺蘇生の実施を受ける。	1.集団活動中・見守りあり	沐浴を終えた子どもの待機時間の過ごし方を考えていなかった。	全員イスに座ったままの絵本の読み聞かせをしながら、食事をするようにした。	4.具合が悪くなった(熱発・腹痛・風邪気味等を記載)	身体がまだ安定しなかったため、本児を見守りながら他の園児の寝言を聞いたため、本児を離すことができなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	沐浴中であったため、本児を見守りながら他の園児の寝言を聞いたため、本児を離すことができなかった。	2.担当・対象児の動きを見ていなかった	沐浴中の園児をみているため、見ていなかった。	咳がひどくなったため、午前中は元気がなかった。普段通り沐浴を行った。	咳が落ち着いてきて、活動等にも十分に配慮し園児の様子を見守ることが必要である。	
3895	令和3年5月31日	1.認可	7.小規模保育事業	6	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11	0名	6名	5名	0名	0名	0名	3名	3名	2歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷	—	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	運動遊びの台(60cm)に保育士1名が補助していた。	運動中や外にも見守りを行い、危険を予測して直ぐに回避できるようにした。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	該当児はジャンプ等の運動も最近できるようになり、本児の体幹やバランスを崩したり転んだりする事もあった。	遊具・台の下にマット等を敷き、衝撃を吸収できるようにした。	1.集団活動中・見守りあり	運動遊びに子ども5名・保育士1名、玩具遊びに子ども6名・保育士2名が参加していた。	子どもの様子・ついでにジャンプ等の運動も行うようにした。また、子ども達が危険な場所に行かないよう、声をかけたり、手をのびて止めるようにした。	(具体的内容記載欄) 対象児の身長以下の高さから降りたりジャンプする運動が出来るようになって、本児も運動遊びに興味を示していた。また、食事の時間には、保育士が巡回し、安全を確認していた。	1.いつもどおりの様子であった	(具体的内容記載欄) 対象児がジャンプする前に、保育士が巡回し、安全を確認していた。	2.担当・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄) 玩具遊びの6名を保育士2名で見守っていた。そのほか、保育士は巡回し、安全を確認していた。	子どもの動き・導線に配慮し、遊具を使う際は補助を担任や保育士が行っていた。また、子ども達が危険な場所に行かないよう、声をかけたり、手をのびて止めるようにした。		
3896	令和3年5月31日	1.認可	7.小規模保育事業	7	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	7名	名	名	名	名	名	2名	2名	2歳	2.女児	—	食事中(おやつ含む)	1.負傷	—	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	歯の脱臼、唇の裂傷	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	—	—	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	元々滑りにくい椅子だったが、湿度が高く(80%)更に滑りが悪くなった。	椅子に、子どもが座って動かせない程度の滑りやすい素材をつける。もしくは床の素材を見直す。	職員が手洗い場に行き、自分でも椅子を動かして、椅子の端の方に着席していた。	椅子はあらかじめ適度なスペースで配置しているが、子どもが座った際に、椅子の端の方に着席していた。	1.いつもどおりの様子であった	手洗い場で、自分でも椅子を動かして、椅子の端の方に着席していた。	対象児とマンツーマンの状態で、対象児に接していた。	隣りに座り、自分も椅子を動かして、椅子の端の方に着席していた。	2.担当・対象児の動きを見ていなかった	水道で手洗いをしていた。	子どもの様子・導線に配慮し、遊具を使う際は補助を担任や保育士が行っていた。また、子ども達が危険な場所に行かないよう、声をかけたり、手をのびて止めるようにした。	子どもの位置を移動させる場合、一度立ち上がり、椅子を動かすようにする。また、子ども達が危険な場所に行かないよう、声をかけたり、手をのびて止めるようにした。		

No	初 回 掲 載 年 月 日	概 要 認可・認可外	施設・事業所種別	月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰					事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面					ハード面					環境面 教育・保育・支援の状況	その他要因・特記事項	改善策	人的面			掲載更新年月日								
							人数	異年齢構成の場合の内訳					教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位					診断名	マニュアルの有無	事故予防 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き理由	担当職員の動き 何をしていたか	他の職員の動き 何をしていたか	その他要因・分析、特記事項				改善策											
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																													5歳以上	学童		その他							
4001	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	6	8. 夕方 (16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	22							3	18. 6歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	1. 頭部	右下顎骨折、右耳道出血	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施	—	2. 基準配置	—	外遊びは2名以上で行っていたが、発生時はあった児童と1名教室に戻っていたので、今後は公園に保護者が迎えに来てもらうようにする。		1. 定期的に実施	6			—	当該事故において問題がないため、改善策はない。	1. 集団活動中・見守りあり	—	児童と話している際にも、他の児童を離さないように連携を取るべき。	1. いつもの様子であった	転落する直前に、他の児童が滑り台から飛び降りたのを恐るも飛び上がった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	直前に、他の児童が飛び降りたのを注意していたが、滑り台には気づいていなかったが反応出来なかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は室内で、遊んでいる児童に対応。1名はお迎えに来た児童を送り届けていた。	—	お迎えに来た児童を教室に送るのではなく、保護者に公園にお迎えに来てもらう。		
4002	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	4	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	72							4	23. 11歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足指骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	—	2. 基準配置	—	マニュアルの該当部分に今回の事故に対応できるように記載内容を修正した。	1. 定期的に実施	2年に1回	1. 定期的に実施	10	1. 定期的に実施	毎日	今回の事故は、児童がボール遊び中に窓の木枠に接触したことにより発生した。	窓の木枠など鋭角な場所には、クッション材を貼ることや、テープを貼ることを検討する。	1. 集団活動中・見守りあり	今回の事故は、児童がボール遊び中に窓枠に接触したことにより発生した。	施設内の危険箇所について、改めて職員で行い、児童クラブ員にも注意するように呼びかけた。また、事故発生場所については特に注意して見守りを行う。	1. いつもの様子であった	対象児に普段と変わった様子はない。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	1階室内遊戯場にてボール遊びをしており、放課後児童1名が見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1階には、放課後児童支援員1名以外にも補助員が見守っていた。	—	職員に事故の経緯を周知し多くの児童が遊んでいるときの目の届かない場所を再確認した。また、特に室内遊戯場でのボール遊びについては注意するとともに、児童クラブ員にもケガのない安全なボール遊びの方法を伝えた。	
4003	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	3	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8. 学童	21							2	19. 7歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	脾臓(ひざう)の裂傷	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	—	マニュアルに沿って行動でき、外部研修にも積極的に参加している。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	流水園は、設置当初、自然観察用であったことから、遊び場としての利用は想定していなかった。	流水園で遊ぶことを中止した。	1. 集団活動中・見守りあり	学校の休み時間などでも、流水園を長年遊び場として利用していたことから、今回の事故は想定できなかった。	1. いつもの様子であった	他の児童や放課後児童支援員と一緒に遊んでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	対象児と一緒にかくれんぼ遊びをしていたが、岩から落下したのを見なかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で遊ぶ児童の見守りをしていなかった。	—	学校の休み時間などでも、流水園を長年遊び場として利用していたことから、今回の事故は想定できなかった。		
4004	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	6	8. 夕方 (16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8. 学童	10							2	20. 8歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	2. 不定期に実施	—	2. 基準配置	10人の児童が各5人に分かれて別の遊びをしていたことにより見守りが二分した。	事故予防マニュアルの作成	2. 不定期に実施	—	座ったまま飛びついたこと。飛びつく目標の位置が遠すぎたこと。	うんていの下にマットを敷いておく。	1. 集団活動中・見守りあり	うんていで遊ぶボール遊びをする子の方で見守っていた。	外遊び時の見守り方法を改めて確認。	1. いつもの様子であった	—	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	—	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	担当支援員が他の子どもにかかっている場合は、突発的な事故に対応できるように他の支援員がカバーするなど支援員間で協力体制を構築する。						
4005	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	6	8. 夕方 (16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	47							6	20. 8歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足薬指亀裂骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	1～2	1. 基準以上配置	決まり事及び約束事が曖昧になっていたこと。	児童一人ひとりに目を配り、指導を徹底する。	1. 定期的に実施	毎日	2. 不定期に実施	ほぼ毎日	1. 定期的に実施	毎日	本来、籠に入れておくべき水筒をロッカーに入れてしまったことに、指導員が気付いていなかった。	学年別、男女別に籠を用意し、児童目から籠に入れるよう約束事を徹底する。	各児童のロッカーの収納状態に目を配れていなかった。	定期的に各児童のロッカーの収納状態を確認し、収納状態が悪い児童は整理整頓をするように指導する。	児童は帰る支度を済ませており、保護者が迎えに来るまでの過ごし方を模索している状況でロッカー付近にいた。	1. いつもの様子であった	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	室内全体を注視しており、児童に事故が発生した時、至急対応に当たることが出来た。	他に室内遊びをしている児童がいたため、室内に引き続き実施しつつ、当該児童に協力して対応した。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	日頃の児童への指導が不足していたため、約束事が曖昧となっていた。	再び同様の事故が発生しないように指導員によるミーティングを行う。		

No	初 回 掲 載 年 月 日	概 要 認 可 ・ 認 可 外	施 設 ・ 事 業 所 種 別	事 故 発 生 時 期 月 時 間 帯	発 生 場 所	発 生 時 の 施 設 ・ 事 業 体 制										教 育 ・ 保 育 等 従 事 者 の 数	事 故 に あ っ た 子 ど も の 年 齢	性 別	特 記 事 項	事 故 状 況 発 生 時 状 況	事 故 の 転 帰 死 亡 死 因	負 傷 負 傷 状 況	受 傷 部 位	診 断 名	事 故 誘 因	事 故 発 生 の 要 因 分 析					環 境 面					環 境 面 教 育 ・ 保 育 ・ 育 成 支 援 の 状 況	そ の 他 要 因 ・ 分 析 ・ 特 記 事 項	改 善 策	人 的 面 対 象 児 の 動 き 理 由	担 当 職 員 の 動 き 具 体 的 に 何 を し て い た か	他 の 職 員 の 動 き 具 体 的 に 何 を し て い た か	そ の 他 要 因 ・ 分 析 ・ 特 記 事 項	改 善 策	掲 載 更 新 年 月 日						
						発 生 時 の 体 制																				ソ フ ト 面					ハ ー ド 面																			
						人 数	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳 以 上	学 童	そ の 他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等											状況	死亡	負傷	受傷部位	診断名	誘因	マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項										改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
4023	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	6	8. 夕方（16時頃～夕食提供前頃）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	8. 学童	84					9	4	20. 8歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期実施	5	2. 基準配置	—	職員会議での見守りポイントの確認と周知	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	施設設備については問題なし	なし	1. 集団活動中・見守りあり	—	見守り方法の再確認	1. いっぽりのお様子であった	校庭の雲梯で遊んでいる最中に発生した。	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	マンツーマンで付き添っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	一瞬の出来事で、手を付いた瞬間は未確認であった。	—	遊び中の怪我であるが、状況をよく確認し、他の部位にけががないか確認して応急措置をするよう職員間で再確認した。	
4024	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	5	8. 夕方（16時頃～夕食提供前頃）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	8. 学童	36					5	2	18. 6歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	—	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	危険があるという予測に欠けていた	職員体制を整え、危険予測を行う。事故発生時の対応方法を再確認する。	2. 不定期に実施	3	2. 不定期に実施	2	2. 不定期に実施	2	安全点検以外にも遊具使用前に点検する	タイヤを一定期間使用禁止にした	1. 集団活動中・見守りあり	自分でも危険を予測し、ルールは守る。	色々な危険があることを予測して、何度か伝える	1. いっぽりのお様子であった	普段からタイヤのところで遊んでいた	2. 対象児の至近距離で遊んでいた	危険があることの声かけはしていた（至近距離にいた）	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	ほかの児童を見ていた	子どもの遊び場必ず複数の指導員を配置すること	天候によっては滑りやすいなど、遊具の危険性があることを指導員ミーティングで確認し、日々意識するようにする。	
4025	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	6	8. 夕方（16時頃～夕食提供前頃）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	8. 学童	57					5	5	20. 8歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	ひび（亀裂骨折）	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	ボールの取り方についての説明が必要であった。	キャッチボールで起こるケガについて注意喚起をする。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	点検リストに基づいて、安全点検をする。	1. 集団活動中・見守りあり	—	全児童を見守る体制での支援配置を検討、改善していく。	1. いっぽりのお様子であった	キャッチボールを相手とケラブルなく、通常の投げから起きたことだった。	2. 対象児の至近距離で遊んでいた	児童同士でキャッチボールをしていた（至近距離にいた）	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	児童の様子を視野に入れたが、それぞれの配置で、遊びを見ていた。	—	児童を遊ばせる環境の中で、適切な支援員の配置を行うことも大事な位置に配置するか予測と検証を繰り返すこととする。		
4026	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	5	8. 夕方（16時頃～夕食提供前頃）	1. 施設敷地内（室内）	8. 学童	56					5	3	20. 8歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	右上腕骨頸部骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	事故を未然に防ぐため、支援員（補助員）での連携	支援員（補助員）全員、毎日の清掃後、全体ミーティング等で安全確認を徹底する。	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	12	連休明けで、全体的に児童が興奮した様子であったと思われる	児童全員で、今一度室内遊びのルールを話し合った	1. 集団活動中・見守りあり	児童は遊びに夢中になっていた	狭い室内で事故を未然に防ぐために、見守りを強化する	1. いっぽりのお様子であった	本児は、ざいていた男女7～8人の中に、一緒に遊んでいた	2. 対象児の至近距離で遊んでいた	支援員（補助員）全員の声を聞いていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	送迎の時間、他の児童を対応した	連休明けの児童の様子、送迎時間の重なり	今後も、走り回らないうちの児童への声かけを強化し、危機管理を徹底する	
4027	令和3年5月31日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	4	8. 夕方（16時頃～夕食提供前頃）	1. 施設敷地内（室内）	8. 学童	6					2	2	18. 6歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢（足・足指）	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	—	常に職員が事故予防のために巡回し、研修やマニュアルの確認を必要とする。	3. 未実施	—	2. 不定期に実施	12	2. 不定期に実施	12	遊具自体は破損等はなく、ウレタン製のブロックで遊び方についている。	ウレタン製のブロックを飛ばす際に、間隔が大きいようなら支援員が事前に指導する必要がある。で、危険予知トレーニングで実践できるようにする。	1. 集団活動中・見守りあり	ハード面に、遊びの予測が支障をきたすよう、必要がある。	1. いっぽりのお様子であった	特に目立った動きはなかった。	2. 対象児の至近距離で遊んでいた	近くにいるが、ウレタン製のブロックの間が広がった認識はなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の遊びを見ていて、対象児は見ていなかった。	—	当時、遊戯室にいた児童が少なく、複数の遊びを展開していた。支援員がもう少し注意が必要がある。		

[illegible]

概要		発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの年齢										事故発生の要因分析										ハード面										環境面	人的面	掲載更新																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面				施設の安全点検				遊具の安全点検				玩具の安全点検				その他要因・分析・特記事項	改善策	施設面 教育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き理由	担当職員	他の職員	その他要因・分析・特記事項	改善策	年月日																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
							人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因						負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	マニュアルの有無		事故予防 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】												実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】

[illegible]

No	初 回 掲 載 年 月 日	概 要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事 うち保育教諭・幼稚園 教諭・保育士・放課後 児童支援員等	事故にあった子どもの 年齢 性別 特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰					事故 誘因	事故発生の要因分析 ソフト面					ハード面					環境面 教育・保育・ 育成支援の状 況	その他要 因・分 析、特記 事項			人的面 対象児の動き 理由			担当職員 の動き 具体的に 何をして いたか	他の職員 の動き 具体的に 何をして いたか	その他 要因・ 分析、 特記事 項	改善策	掲 載 更 新 年 月 日						
						人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳以上					学 童 其 他	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位				診断名	施設 の安全点 検 実施頻度 【回/年】	遊具の安全点 検 実施頻度 【回/年】	玩具の安全点 検 実施頻度 【回/年】	その他要 因・分 析、特記 事項		改善策	施設 の安全点 検 実施頻度 【回/年】	遊具の安全点 検 実施頻度 【回/年】	玩具の安全点 検 実施頻度 【回/年】	その他要 因・分 析、特記 事項	改善策	対象児の 動き 理由	担当職員 の動き 具体的に 何をして いたか	他の職員 の動き 具体的に 何をして いたか	その他 要因・ 分析、 特記事 項		改善策																
							0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳																										5 歳 以上															
4145	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭等)	8.学童	172						11	5	18.6歳	1.男児	-		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	-	2.基準配置	事故が発生した際の、事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	-	特になし	1.集団活動中・見守りあり	-	特になし	1.いつもどおりの様子であった	-	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りで、当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行い、注意を配っていたが事故が起こってしまった。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
4146	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭等)	8.学童	117						11	3	19.7歳	1.男児	-		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手薬指剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	-	2.基準配置	事故が発生した際の、事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	-	特になし	1.集団活動中・見守りあり	-	特になし	1.いつもどおりの様子であった	-	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りで、当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行い、注意を配っていたが事故が起こってしまった。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
4147	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭等)	8.学童	177						13	5	19.7歳	1.男児	-		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手親指骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	-	2.基準配置	事故が発生した際の、事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	-	特になし	1.集団活動中・見守りあり	-	特になし	1.いつもどおりの様子であった	-	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りで、当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行い、注意を配っていたが事故が起こってしまった。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
4148	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭等)	8.学童	97						9	3	18.6歳	1.男児	-		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨近位骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	-	2.基準配置	事故が発生した際の、事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	-	特になし	1.集団活動中・見守りあり	-	特になし	1.いつもどおりの様子であった	-	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りで、当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行い、注意を配っていたが事故が起こってしまった。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
4149	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭等)	8.学童	83						9	4	18.6歳	1.男児	-		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	-	2.基準配置	事故が発生した際の、事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	-	特になし	1.集団活動中・見守りあり	-	特になし	1.いつもどおりの様子であった	-	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りで、当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行い、注意を配っていたが事故が起こってしまった。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	
4150	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭等)	8.学童	88						6	3	20.8歳	2.女児	-		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨骨折疑い	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	-	2.基準配置	事故が発生した際の、事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	-	特になし	1.集団活動中・見守りあり	-	特になし	1.いつもどおりの様子であった	-	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りで、当該児童も見ていた。	支援員が見守りを行い、注意を配っていたが事故が起こってしまった。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。	

No	初 回 掲 載 年 月 日	概 要 認可・認可外 施設・事業所種別	事 故 発 生 時 期 月 時 間 帯	発 生 場 所	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故にあった子どもの			事故状況					事故発生の要因分析										環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他の要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き理由		担当職員 の動き に何を していたか	他の職員 の動き に何を していたか	その他の要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日								
					人数	異年齢構成の場合の内訳					年齢	性別	特記事項	発生時状況		事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防 実施頻度【回/年】	職員の配置	その他の要因・分析、特記事項	改善策	ハード面		遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他の要因・分析、特記事項	改善策																			
						0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																	5歳以上	学童					その他											施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】						
4171	令和3年5月31日	3.その他 15.放課後児童クラブ	6 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	67							4	2	19.7歳	1.男児	-		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外側上顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	年数回	2.基準配置	-	帰宅経路上で起きた事故のため改善策なし。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	-	帰宅経路上で起きた事故のため改善策なし。	7.その他	-	帰宅経路上で起きた事故のため改善策なし。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から帰宅途中に走り回ったりすることを注意されることが多く、当日は姉と一緒に帰る予定だったが、姉の遅かったため手を引いて走ったために転倒した。	4.対象児の動きを見えていなかった	職員は、小学校の児童玄関で見送った退館以降の行動は把握できない。	2.担当者・対象児の動きを見えていなかった	活動室で他児童の対応を行っていた。	児童が帰宅中に、走り回ったり遊んでいたことが要因とされる。	児童の交通安全意識を高め、道路の歩き方について指導を行う。	
4172	令和3年5月31日	3.その他 15.放課後児童クラブ	9 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	99							8	2	20.8歳	1.男児	-		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	2.顔面(口腔内含む)	右外傷性鼓膜穿孔	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	年数回	2.基準配置	-	活動前には周りをよくみて動き出すよう話を	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	-	-	1.集団活動中・見守りあり	-	子どもたちの行動の特徴と危険性について再度職員間で共通認識をする。									
4173	令和3年5月31日	3.その他 15.放課後児童クラブ	11 7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	76							6	4	21.9歳	1.男児	-		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	-	2.基準配置	本児童は、事故当日までバスケットボール少年団の練習によるケガで運動をしていたため、骨折があった。児童センターにて友達と一緒に遊ぶことが高まり、気持ちのコントロールができていないため、事故が起った。	支援員等相互が、状況判断力や児童自身の危険回避能力や防衛力について事例研究を行うことで、支援力を高める。	1.定期的に実施	開館日	1.定期的に実施	開館日	2.不定期に実施	-	屋外での活動前には、石など点検し、運動をする時は普段から危険が及ぶよう一層注意の声をかける。徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	運動にブランクがあった児童に対して、声かけが不十分であった。	普段から、児童の様子や状態を観察し、運動にブランクがある児童や、たまに来館する児童に対してはより一層注意の声をかけるよう徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はない。遊びに楽しんでいた。	2.対象児の動きを見えていなかった	屋外を渡す際に、活動を見守っていた。	3.担当者・対象児の動きを見えていなかった	屋内で、活動を見守っていた。	運動にブランクがあった児童に対して、声かけが不十分であった。	普段から、児童の様子や状態を観察し、運動にブランクがある児童や、たまに来館する児童に対してはより一層注意の声をかけるよう徹底する。		
4174	令和3年5月31日	3.その他 15.放課後児童クラブ	11 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	14							3	3	19.7歳	2.女児	-		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨末端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	-	遊具の使用法について入所児童に説明。	1.定期的に実施	毎日	3.未実施	-	1.定期的に実施	毎日	-	遊具の使用法について入所児童に説明。	1.集団活動中・見守りあり	遊具使用の際に児童への声かけを密にする。	1.いつもどおりの様子であった	-	2.対象児の動きを見えていなかった	対象児の目の前に危険がないようにしていた。	2.担当者・対象児の動きを見えていなかった	-	遊具使用の際に児童への声かけを密にする。			
4175	令和3年5月31日	3.その他 15.放課後児童クラブ	9 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	97							7	4	21.9歳	2.女児		日光に当たらないように室内遊びをしよう。激しい運動は避ける。	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯2本破折、仙骨骨折、脳振とう	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし。	一人一人が視野を広げて保育する必要がある。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし。	特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	特になし。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は行っているところから、遊び場を見守っていた。	4.対象児の動きを見えていなかった	体育館付近に誰もいなかった。	2.対象児の動きを見えていなかった	本館を含め5名の児童が近くで遊んでいたことを認識しなかった。	視野を広げて保育すること。補助員は見ているだけでなく児童へ寄り添う保育をするよう指導。		
4176	令和3年5月31日	3.その他 15.放課後児童クラブ	8 7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	40							4	2	19.7歳	2.女児	-		6.水遊び・プール活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足小指骨端線損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	-	途中で声をかける。	1.定期的に実施	毎日	3.未実施	-	1.定期的に実施	毎日	-	毎日点検をすることから、改善策はないと考える。	3.個人活動中・見守りあり	できるかぎり広く間隔をとって遊ばせる。	1.いつもどおりの様子であった	プール中(水中)で他の子どもとビー玉で遊んでいた。	2.対象児の動きを見えていなかった	職員4名で監視、プール監視員1名、計5名で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見えていなかった	水中の出来事であった。見えなかった。	途中で注意を促す。			

概要		施設・事業所種別	事故発生時期 月	発生場所	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故にあった子どもの				事故状況				事故発生要因分析										環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面		掲載更新年月日																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
No	初回掲載年月日				認可・認可外	発生時刻	発生場所	発生時の体制										年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面		ハード面				その他要因・分析、特記事項				改善策	対象児の動き理由		担当職員	他の職員	その他要因・分析、特記事項	改善策																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
								人数	異年齢構成の場合の内訳	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳		5歳以上	学童					その他	死亡	負傷	負傷状況		受傷部位	診断名	死亡	負傷	負傷状況	受傷部位												診断名	誘因	マニュアルの有無	事故予防実施頻度【回/年】	職員の配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き理由	担当職員	他の職員	その他要因・分析、特記事項	改善策																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
4177	令和3年5月31日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	64																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												

[illegible]

[illegible]

[illegible]

No	初 回 掲 載 年 月 日	概 要 認 可 ・ 認 可 外	施 設 ・ 事 業 所 種 別	事 故 発 生 時 期 月 時 間 帯	発 生 場 所	発 生 時 の 施 設 ・ 事 業 体 制										教 育 ・ 保 育 等 従 事 者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事 故 に あ つ た 子 ど も の 年 齢 性 別 特 記 事 項	事 故 状 況 発 生 時 状 況		事 故 の 転 帰		事 故 誘 因	事 故 発 生 の 要 因 分 析 ソ フ ト 面					ハ ー ド 面					環 境 面 教 育 ・ 保 育 ・ 育 成 支 援 の 状 況	人 的 面 対 象 児 の 動 き 理 由	担 当 職 員 の 動 き に 何 を し て い た か	他 の 職 員 の 動 き に 何 を し て い た か	そ の 他 要 因 ・ 分 析 ・ 特 記 事 項	改 善 策	掲 載 更 新 年 月 日											
						発 生 時 の 体 制	人 数	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳 以 上	学 童	そ の 他			死 亡 死 因	負 傷 負 傷 状 況	受 傷 部 位	診 断 名		マ ニ ュ ア ル の 有 無	事 故 予 防 研 修 実 施 頻 度 【 回 / 年 】	職 員 配 置	そ の 他 要 因 ・ 分 析 ・ 特 記 事 項	改 善 策	施 設 の 安 全 点 検 実 施 頻 度 【 回 / 年 】	遊 具 の 安 全 点 検 実 施 頻 度 【 回 / 年 】	玩 具 の 安 全 点 検 実 施 頻 度 【 回 / 年 】	そ の 他 要 因 ・ 分 析 ・ 特 記 事 項	改 善 策																		
4359	令和3年9月30日	1. 認可	5. 幼稚園	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス									2	2	16. 4歳	2. 女児			1. 屋外活動中	1. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷による歯の脱臼、外傷による歯の半脱臼	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準配置	要因・特記事項なし	園庭の遊具使用について再度、具体的に指導を行い、事故を防ぐようにする。また園児の行動の特性を理解した上で適切な援助ができるように職員間で共通理解した。		12		12		12	安全管理にしていたが、危険予感が十分ではなかった。	固定遊具の危険箇所を再確認するとともに、幼児の身体能力や行動の特性から危険を予測し、教職員で共通理解を図る。また、幼児の正しい使いについて周知する。	見守りながら保育していたが、十分ではなかった。	教師同士が再確認しながら保育を行う。	いつも通り遊んでいる遊具であったという意識が始めていた。	3. 対象児から離れたところ対象児を見ていた	園庭全体の様子に配りながら、他児の手当てをしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体で遊びをしており、危険な場所において、園児の遊びの様子を見ていたが、本児とは離れた場所にいた。	固定遊具に挑戦していたが、いろいろな動きをしようとする姿が出てきた。	固定遊具の使い方に慣れ、職員共に再確認し、遊具も危険を伴っていることを職員も常に念頭に置いて、傍について見守るようにする。	
4360	令和3年9月30日	1. 認可	5. 幼稚園	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	15			6	7	2			3	3	18. 6歳	2. 女児			1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足脛骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	いつもより大人の数が多いことで油断があった。	大人が多く、その危険意識を持つよう職員間で共有した。		12	1. 定期的に実施	12		1. 定期的に実施	大型遊具(ジャンピンググラミング)には必ず職員1名以上が付き添うことになった。	大型遊具(ジャンピンググラミング)に修繕等による落下の危険があった。	保護者(父親)がいることで、よりダイナミックな遊びになる。	保護者にも安全をよめるように声をかける。	3. いつもより活発であった(理由)父親と一緒に遊んでいる遊具であったという意識が始めていた。	2. 対象児の動きを見ていた	ジャングリングには必ず職員1名以上が付き添うことになった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離で当該園児の動きを見ていた。	当該園児が得意な登り棒を降りるのを保護者(父親)に見てもらった。	いつもより気持ちが高まっていた時に、落ちる声をかける。	
4361	令和3年9月30日	1. 認可	5. 幼稚園	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	28								2	2	18. 6歳	1. 男児			1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	11	2. 基準配置	不意の事故はあるが、職員全員が安全教育の重要性を認識し、協力しながら環境の配慮や指導に努める。		11	1. 定期的に実施	11		1. 定期的に実施	安全に遊ぶように、石などがある場合は事前に除去し、危険な状態を確保する。	安全に遊ぶように、石などがある場合は事前に除去し、危険な状態を確保する。	2. 対象児の動きを見ていた	集団でサッカーをしていたが、審判がなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任とともに集団活動を見守っていた。	常に見守り、異変があれば複数の職員で対応するよう最善の方法をとる。					
4362	令和3年9月30日	1. 認可	5. 幼稚園	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	21										16. 4歳	1. 男児			1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部)	右鎖骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	引き続き、定期的な施設安全点検を行い、事故防止を図る。		12	1. 定期的に実施	12		1. 定期的に実施	何をしても、一日に何回も転倒する癖があるので、常に声をかけている。	3. いつもより活発であった(理由)本児は直ぐに転倒する癖がある。	4. 対象児の動きを見ていなかった	見ておらず、部屋の子を対応していた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離で見守っていた	本児が部屋に戻る時は、ゆっくりと戻るよう指導し、園児が全員部屋に戻るまで見守る。						
4363	令和3年9月30日	1. 認可	5. 幼稚園	11	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	52								3	2	17. 5歳	1. 男児			1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位骨端線損傷、左手関節捻挫	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	10	2. 基準配置	職員が、危険箇所や怪我をしやすいつい場所を重点的に見るように意識し、なるべく全園児と一緒に園庭に出て、多くの職員で見守ることができるようにする。		12	1. 定期的に実施	12		12	園児が怪我をしやすいつい場所を重点的に見るように意識し、なるべく全園児と一緒に園庭に出て、多くの職員で見守ることができるようにする。	園児が遊んでいて、遊具の安全点検を重視していた。	園児が遊んでいて、遊具の安全点検を重視していた。	園児が遊んでいて、遊具の安全点検を重視していた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	他の園児を見守っていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児を見守っていた	一緒に遊んでいた友達に追いつこうと急いでいたため、手を離したのではない。	一つの遊びを見守りながらも、全体の様子に目を配っていたり、危険な場面を見逃さず、気を付けて遊ぶよう助言したりする。		

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの年齢 性別 特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰 死亡 死因 負傷 負傷状況 受傷部位 診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面					ハード面					環境面 教育・育 育成支 援の状 況	その他要 因・分 析、特 記事 項	改善策	人的面 対象児の 動き理 由	担当職員 の動き 具体的に 何をして いたか	他の職員 の動き 具体的に 何をして いたか	その他要 因・分 析、特 記事 項	改善策	掲載更新年月日																		
						人数	異年齢構成 0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳以上	内訳 学 童 その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡 死因	負傷 負傷状況					受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】										玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策															
4369	令和3年9月30日	1.認可	5.幼稚園	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	21				7	7	7		2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右機首骨折 右肘頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施		1.基準以上配置	積木の上を歩くことの危険性。	職員の研修や会議の場で積木の上を歩くことの危険性について取り上げる。	1.定期的に実施		3	1.定期的に実施		3	1.定期的に実施		3	小さい積木や軽い積木は特にひっくり返りやすいので注意が必要。	幼児の年齢や様子次第では、遊びを止めて別の安定感のある積木ブロックまたは平均台を使用する。	1.集団活動中・見守りあり	幼児が興奮したりふざけたりしないかよく観察し確認する。	積木の上を歩く場合は、バランスを崩すと危険である園児に伝え、よく注意して観察し、止めたり介助えたりできるように構えておく。	1.いつも通りの様子であった	いつも通り元気に歩き回っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	同じ遊戯室内にいたが、ずっと注視していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ遊戯室内にいたが、ずっと注視していた。	無	幼児の人数や遊びの内容や次第では担当の教員の増員を考慮する。	
4370	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	11	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38	0	0	20	18	0	0		6	6	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2.基準配置	2クラスが合同で戸外遊びをしていたので、保育士の配置、役割分担を明確にするとともに声をかけ合い臨機応変に対応する。職員会議時に報告し、要因分析、再発防止策を話し合い、職員全員に周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	子どもの目線に立って安全点検をしっかり行う。	1.集団活動中・見守りあり	子どもの主体的な遊びを尊重しつつ保育士との役割分担を明確にする。また、遊びの方向性を日頃から子ども達にしっかりと伝え、安全な環境づくりをする。	対象児とともに遊ぶことができなかった	対象児とともに対象児を見守っていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見守っていたが、鬼ごっこになると周りが見えなくなる状況も起ることを想定し、力加減が難しい子ども等には特に注意を怠らないようにする。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	配置、役割分担を明確にし、他クラス職員にも連携を持って保育する。	対象児と加害児は日頃からふっ合う傾向があったので、その時にすぐに対応できるようにする。	戸外遊びをする上での注意事項を事前に伝え、保育士の立ち位置や声掛けを工夫し、職員間も役割分担を連携を持って保育する。ケース検討会議において話し合い、職員全員で共通理解を図った。							
4371	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	10								2	2	2歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	なし	塗装が剥がれている箇所等の修繕、安全確認	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	なし	危険箇所となりうる場所が発生した場合は補修、改善を都度行っていく	1.集団活動中・見守りあり	なし	ヒヤリハットなどを用い、会議で意見交換をしていく	1.いつも通りの様子であった	すべり台をすべりようとしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	すべり台をすべりようとしていたが、危険がないようにすべり台の側に立ち、安全確認をしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児童のサポートをしていた	なし	すべり台をすべり際にはなく、階段の安全確認も都度行っていく				
4372	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	65	4	11	14	7	15	14	0	10	9	5歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	1.基準以上配置	事故が起きた際、遊戯室で自由遊びをしていた。本児と隣り合った他児が急に遊んでいる姿が目視していたが行動を制止し切れず事故が起きた。今後は2名の職員の立ち位置をバランスよく配置し子どもの動きを予測して対応できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	ホールで遊ばせる際の職員配置、複数の職員立ち位置ルールを徹底する。	3.個人活動中・見守りあり	園児が遊戯室の広範囲に散らばっているため、保育士が死角を作らぬように移動しつつ見守りを行う。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	(具体的内容記載欄) 本児はソフトブロックを積んでいたが約束事を守らずソフトブロックの上から不安定な状況になった。そこを他児がふさぎ、土砂のソフトブロックを故意に揺らし本児が転倒。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ホール内において他の園児に対しては本児の行動は見なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ホール内において他の園児に対しては本児の行動は見なかった。	当日はお盆後の土曜日で出席数が37%と少なく3歳～5歳児保育を行った。その日雰囲気もいつも以上に浮足立った行動が出たのではない。	日常と違い、園児も園生活に再び慣れていくとある時期である時期で配慮し職員連携を密にして見守る。							

No	初 回 掲 載 年 月 日	概 要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの年齢 性別 特記事項			事故状況 発生時状況	事故の転帰				事故誘因	事故発生の要因分析						環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面			掲載更新 新年月日																					
						人数	異年齢構成の場合の内訳					教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位		診断名	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防 研修実施頻度【回/年】	職員配置		その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項				改善策	対象児の動き理由	担当職員		員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員 の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策																	
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																															5歳以上	学童	その他														
4398	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭等)	7.異年齢構成	43					21	22		2		2	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷			4.創傷(切創・裂創等)	顔面(口腔内含む)	挫創(右頬部)顔面急性皮膚炎	3.子ども同士の間際の衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	滑り台から飛びおたりして、滑り台本来の遊びをいいため。	滑り台の遊び方(飛びおたりしない)この指導を計る。		1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		小さい子ども用の遊具なので、上に乗ると想定されていない。	滑り台の上に乗ったとき、滑りしないような滑り止めを張ったりする。	1.集団活動中・見守りあり	発達段階を踏まえた遊具の配置が考慮されていない。	見守りがしやすいような遊具の配置を考える。	1.いつも通りの様子であった	通常通り、朝から登園している。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任が離れたところを守りていたため、事故発生を未然に防げたことになった。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	担任とは別の方向を見ていたことがなかった。	保育者の見守り分担ができていなかった。	保育者が見守りして、見守りに死守が不要になるようにする。			
4399	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17						17		2		2	6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷			2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第5趾基節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	職員1名がピアノを弾いており、1人ひとりが子どもに目が届きにくくなっていた。	園児の活動内容に応じて、手が空いている職員に入ってもらい、子どもの対応をするようにする。		2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年		2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年		2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年		必要に応じてマットなどを敷くなどの対応をする。	1.集団活動中・見守りあり	週末の夕方ので疲れている時に、卒園式の練習をしたり、リズムミカルな歌をうたったり歌の曲目を考える	その時の子どもたちの様子を見守り、子どもたちがウーンという、話したり歌の曲目を考える	1.いつも通りの様子であった	いつも通り、活動的であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたちが楽しく歌っている時に、一人動かしづづいておかしなことをしていたかと思いついた。聞きかたを聞いて、すぐに事務室に連れてきた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1名はピアノを弾き、1名は全一語に歌をうたっていた	子どもたちの様子を見守り、曲を歌うように促す	夕方の活動と子どもたちの様子を見守り、周知した	
4400	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	9								2		2	3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷			5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	・ヒヤリハットの報告を細かく行い、職員間で共有し、危機管理意識を高める。 ・転倒から身を守るような運動遊びを、日頃から意識して取り入れる。		1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年		1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年		1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年		点検を確実に、異常があれば速やかに対応する。	1.集団活動中・見守りあり	転倒しやすい年齢であることと、遊びを見守り、子どもたちの様子に配り、瞬時に対応できるように体制作りに努める。	1.いつも通りの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2歳児全体の様子を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	別の園児と近くでリズム遊びをして、手を差し伸べたが間に合わなかった。	新しいリズム遊びがうけて、浮足立っていた。	2グループ、3グループ等に分けて、人数で確認する。 ・報告を速やかに行い、複数で確認する。 ・子どもたちの言葉を聴き、痛いところ以外も丁寧に確認する。				
4401	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20				10	10			2		2	5歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷			5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	打撲(上下前歯右側)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	安全に関する研修などを実施する回数が少ない。	安全に関する研修を定期的に開催する。		2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年		2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年		2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年		主に、用務員の方が点検してくれたが、保育士も日給でも施設点検を行う。安全係を設けて、年4回は、点検していく。	1.集団活動中・見守りあり	前日の寝不足もあり、身体が軽い状態であった。	子どもの生活リズムを把握し、活動を考えていく。	2.いつもより元気な様子であった(理由を記載)	普段は、戸外に出ることが多いが、体調も考慮し、ホールが空いたため、リズム遊びをする。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	友達同士、呼吸を合わせること、ぶつからないようで行うことを事前に伝える。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	別の園児と近くでリズム遊びをして、手を差し伸べたが間に合わなかった。	新しいリズム遊びがうけて、浮足立っていた。	2グループ、3グループ等に分けて、人数で確認する。 ・報告を速やかに行い、複数で確認する。	
4402	令和3年9月30日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	2	1				1			3		2	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷			5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	事故が起きた時に登園していたのが本児だったので、保育士1名以外はその場所にいなかった。	園児が少数でも保育士は2人以上にしておく。		1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年		3.個人活動中・見守りあり	遊ぶ物が準備されなかったため、手持ち無沙汰だった。	落ち着いて遊ぶ環境を用意する。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	前日の帰りの時間も少し興奮気味だった。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	2.番目に登園してきた園児を迎えるため、テラスに出た。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	他クラスの加温器をかけたため、保育準備をしていた。	園児のいる場所に保育士1名しかいなかった。	複数で子どもを見守りできるように徹底する。					

[illegible]

No	初 回 掲 載 年 月 日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの年齢 性別 特記事項			事故状況 発生時状況	事故の転帰		事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面					ハード面					環境面 教育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面		掲載更新年月日											
						人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳以上					訳 学 童 その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故 マニュアルの有無		事故 予防 実施頻度【回/年】	職員の配置		その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き理由	担当職員の動き 何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか				その他要因・分析、特記事項	改善策												
4468	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	2. 7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭等)	7. 異年齢構成	105				38	33	34		6	6	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 道具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1 2)回/年	2. 基準配置	鉄棒の上には座らないことを徹底していく。 鉄棒の上には座らないことを徹底していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 7)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	鉄棒の高さが1 0 0 cmあった。 年齢等によって、使っている鉄棒の高さが異なっていた。 年齢等によって、使っている鉄棒の高さが異なっていた。 年齢等によって、使っている鉄棒の高さが異なっていた。	3. 個人活動中・見守りあり	園庭遊びの約束事があった。 園庭遊びの約束事があった。 園庭遊びの約束事があった。	約束事について、改めて見直し、改訂したところを職員全員で周知する。	1. いったいどのような様子であったか	鉄棒でいろいろな高さに登って遊んでいた。 対象児の動きを見なかった	対象児が近くに出た。 対象児が近くに出た。 対象児が近くに出た。	2. 担当児の動きを見なかった	対象児の動きを見なかった	対象児の動きを見なかった	鉄棒に付いたが、固定遊具に、保育士が必ず付くことを職員全員で徹底していくことだった。 固定遊具には、保育士が必ず付くことを職員全員が周知、徹底する。		
4469	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	2. 1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	85	0	0	0	33	17	35		9	9	4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨内側上顆	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1 11)回/年	2. 基準配置	なし	基準配置は守られていたため、ソフト面で問題はなかった。 ウレタン積み木は、上に乗って遊ぶと、形や配置によりバランスを崩しやすい。	年齢や経験によって、配置の仕方(間隔、距離)や遊び方を考える。	1. 集団活動中・見守りあり	ウレタン積み木のコーナーでは、年中児が遊んでいたが、事故発生当時も参加していたため、ウレタンの間隔が空いたり、三角や円柱型など様々な形の積み木で遊ばれていた。	ウレタン積み木のコーナーでは、年中児が遊んでいたが、事故発生当時も参加していたため、ウレタンの間隔が空いたり、三角や円柱型など様々な形の積み木で遊ばれていた。	1. いったいどのような様子であったか	お絵描きコーナーで遊んでいたが、ウレタン積み木のコーナーに興味を示し、自分から参加した。	4. 対象児の動きを見なかった	担任保育士は、園庭で行っていた。 1. 担当児の動きを見なかった(至近距離にいた)	乳児担任保育士は、1. 5メートル離れたところで他児の補助を行っており、本児がバランスを崩した瞬間は見えていたが、間に合わなかった。	遊戯室に園児1 6名(年少児7名、年中9名)だったが、乳児担任保育士が育児休暇中だったため、もう一人保育士を配置するか、園長や主査が室内に行く必要がある。	園長が主査が、遊戯室内の様子を定期的に確認しに行くようにする。							
4470	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	2. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	20					20			2	2	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2. 基準配置	全職員が事故が起きたところを、実際に見ながら立ち位置の確認し、何か気付かないかなど共有し再発防止に努める。 芝生の長さは適切であったか、絡んではいけないか。	芝生の管理が十分に行えているか確認すること。	1. 集団活動中・見守りあり	事故に対する予測が足りなかった。また、降園する子どもがおぼろしくしていた時間だった。体があらぬまま園庭に出たため、思うように体が動かずしまった。	再度職員の見え方を確認、遊び方の検討をする。	1. いったいどのような様子であったか	友だちと一緒に、転倒してしまっった。	3. 対象児から離れたところ対象児を見ている	園庭全体を見える位置で、部屋に入るよう声をかけていた。	2. 担当児の動きを見なかった	降園児の対応をしていた。									
4471	令和3年9月30日	1. 認可	6. 認可保育所	11. 2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	69				24	30	25		6	6	5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左頭骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度1 回/年	1. 基準以上配置	職員全員で危機管理意識をより高める。 日頃から施設や遊具、玩具に関して、故障や不備がないかなどを確認する意識を持つようにする。	子ども達の動線を考慮して遊具の配置を考え、遊べるスペースを確保する意識を日頃から持つ。また、年齢や運動能力に合わせて、遊具の高さを調節する。	3. いったいどのような様子であったか(理由を記載)	遊戯室で遊び始めて直後だったため、も気分が活発に遊びたいから、巧技台からのジャンプ)を楽しんでいた。	2. 対象児の動きを見なかった	他にも同じ遊びをしている児童もいたため、遊具の傍で対象児を見守っていた。	2. 担当児の動きを見なかった	遊戯室内の他の遊具で遊んでいる児童もいたため、遊具の傍で対象児を見守っていた。	巧技台からジャンプする際には、慌てずに跳ぶ姿勢をしつかり整えてからジャンプするように、常に傍で見守り声を掛ける。必要な時には手を持って補助する。											

No	概要 初回掲載年月日 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・放課後児童支援員等	事故に合った子どもの年齢 性別 特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰					事故誘因	事故発生の要因分析					ハード面					環境面 教育・育成支援の状況	人的面			掲載更新年月日				
					発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳以上 学室 その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位				診断名	ソフト面	事故予測研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項		改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き理由	担当職員の見え方	他の職員の見え方	その他要因・分析、特記事項		改善策							
4487	令和3年9月30日	6.認可保育所	2.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	22		2	2.5歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足脛骨(けいこつ)骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	道路の絵の描いてあるシート(横108cm縦56cm)に滑り止めが付いていなかった。 遊び込みすぎたので蔽棄とする。	1.集団活動中・見守り	保育室(52.5平米)は、2つのコーナー(積木・車)を設け、遊ぶようにしていたが積み木が沢山でいた。 玩具(積み木)の数は遊びながら調整する。 1.いつもどりの様子であった	体調も普段通り、機嫌よく登園する姿が変わらずだった。車の好段から遊んでいた。遊も好きな遊びを着ている。片付けて落ちて行った。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育者は、他の子どもと一緒に積み木を見ていたため見えなかった。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	障がい児(ジュニア)で見えなかった。障がい児の位置を確認し、積み木と一緒に見ていたが、本児が見えていなかった。	いつも使っている遊具なども片付けたり目が行き届くよう確保しているが、怪我につながる危険はないかと予測する。	保育者は全体をみながら一人一人に目を配るよう努めている。
4488	令和3年9月30日	6.認可保育所	2.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭等)	6.5歳以上児クラス	20		3	3.6歳	1.男児	特になし。	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし。	子供の視界は大人よりも狭く事故は起こりやすいことを踏まえて保育を行うよう、研修等で繰り返し伝えていく。 設備や空間に大きな問題がなくとも事故は起こることを周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし。	使用後玩具は速やかに片付ける。 1.いつもどりの様子であった	他児と園庭で追いかけ合っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の園児と遊んでいた。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	本児自身も遊びに夢中になっており元々ボールがあることが付いていた。	園庭に使っていない玩具が転がったように保育者も留意しつつ、子供達にも使ったものは元の場所にしまうように働きかける。		
4489	令和3年9月30日	6.認可保育所	1.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	36	16 20	4	2歳	2.女児	2歳児と3歳児が一緒に迎えを待っていた時間帯の可能性がある。	8.その他	1.負傷	2.骨折		右環指基節骨骨折	8.その他	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	子ども達が密集すると接触・転倒等により怪我等が発生する可能性がある。子ども達の訴えやけがの情報を職員間で共有し、報告すること 子ども達が密集すると接触・転倒等により怪我等が発生する可能性がある。子ども達の訴えやけがの情報を職員間で共有し、報告すること 子ども達が密集すると接触・転倒等により怪我等が発生する可能性がある。子ども達の訴えやけがの情報を職員間で共有し、報告すること	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	保育室内の机や椅子は密着して移動しているため、障害物がないところである。 室内を仕切り、落ち着いた環境を設定する。	座ってテレビを見ながら、3歳児と一緒に過ごしたことで指を踏まれた可能性がある。 密着を避ける。子ども達の動きを把握しておく。	1.いつもどりの様子であった	座ってテレビを見たまま、急いで泣き出した。それ以外では通った様子だった。	対象児とマンツーマンでの対面(対象児に対して)	泣き出し、痛みを訴えた。患部を冷やした。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	2歳児・3歳児と一緒に迎える。送迎を待つ間、過剰な声かけをしない。	一人一人に目を配るよう注意すること。保育者が訴えた情報は他の職員にも共有すること。保護者に伝える。		
4490	令和3年9月30日	6.認可保育所	2.1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	10	10	1	1.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	A「歯牙破折」上唇小帯裂創	3.子ども同士の間隙によるもの	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	子どもの行動に伴う危険を予測することができなかった 事故内容について職員会議において報告し、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	今回の事故は子ども同士の間隙によるもので、ハート面での改善策は特になし。 一斉に逃げる夢の中に子どもたちが散らかり、思いつきで動くことによる事故の可能性を予測し、子どもたちの無秩序な動きを抑制するための対策を検討する。	遊びに夢中で注意力が散漫になり、思い通りに動かない状態になった。子どもたちは自分たちで遊ぶつもりだったが、周囲の状況に気づけず、危険な状況になった。	3.いつもどりの様子であった	遊戯室で10人の子と実習生1人で遊んでいた。スズメは十分にあふれた子たちと鬼役となれ、そのことに気づかなかった。	2.対象児の動きを見ていた	担任は鬼ごっこに参加していた。子どもたちは普通に遊んでいました。	実習生も一緒に鬼ごっこに参加していた。子どもたちは普通に遊んでいました。	普段の保育以上に子どもへの危険回避と気持のための声かけをする必要がある。			
4491	令和3年9月30日	6.認可保育所	11.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18	6 6 6	6	6.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	顔面(口腔内含む)	上前歯動揺	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	職員の危険予測力を磨く	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	危険な場所・物の周知、確実な伝達	1.集団活動中・見守り	体の使い方を日々の活動の中で教えていく	1.いつもどりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2.担当対象児の動きを見ていなかった	少人数に分けるなどして子どもをみていく				

No	初 回 掲 載 年 月 日	概 要 認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況発生時状況	事故の転帰					事故誘因	事故発生の要因分析ソフト面					ハード面					環境面教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面			その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日								
							人数	異年齢構成の場合の内訳					状況	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位						診断名	マニ ュアルの有無	事故予 防頻度【回/年】	職 員配置	その他 要因・分析、特記事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他 要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き理由	担当職員	他の職員	その他 要因・分析、特記事項				改善策													
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																														5歳以上	学 童				その他							
4576	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ		11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	24						24		5	4	21.9歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1.基準配置	子どものケガの起こり得る想定の見直し。	特になし。	2.不定期に実施	1	1.定期的に実施		1.定期的に実施		1.定期的に実施	1.集団活動中・見守りあり	外遊び時、ドッジボールをしていた。	特になし。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	外遊びの見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	分担して外遊びの見守りをしていた。	通常ドッジボールをする時は、1人支援員が付いている。危険な行動等は注意をする。					
4577	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ		10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	134						##		10	4	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	前額部挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	事故が発生した際の、事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	特になし	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施		1.定期的に実施	随時目視により確認している。	1.集団活動中・見守りあり	-	特になし	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りで、当該児童も見えていた。	支援員が見守りを行い、注意を配っていたが事故が起きてしまった。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。				
4578	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ		9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	146						##		10	4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	事故が発生した際の、事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	特になし	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施		1.定期的に実施	随時目視により確認している。	1.集団活動中・見守りあり	-	特になし	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で、当該児童も見えていた。	支援員が見守りを行い、注意を配っていたが事故が起きてしまった。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。				
4579	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ		10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	142						##		10	3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	下顎裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	事故が発生した際の、事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	特になし	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施		1.定期的に実施	随時目視により確認している。	1.集団活動中・見守りあり	-	特になし	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で、当該児童も見えていた。	支援員が見守りを行い、注意を配っていたが事故が起きてしまった。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。				
4580	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ		12	5.おやつ(学童)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	112						##		8	3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯動揺	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	事故が発生した際の、事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	特になし	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施		1.定期的に実施	随時目視により確認している。	1.集団活動中・見守りあり	-	特になし	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の側で見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りで、当該児童も見えていた。	支援員が見守りを行い、注意を配っていたが事故が起きてしまった。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。				
4581	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ		11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	80						80		6	4	23.11歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕橈骨及び尺骨の骨折(各1カ所)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4.基準配置	職員ひとりひとりの注意力の向上と、それに伴う児童への声掛けを強化する。	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施		12	1.定期的に実施	12	特になし	児童の動線や行動の傾向を予測し、危険なものとは事前に設置場所を変える。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の状況に合わせ、職員の経験値を考慮し、各室の配置数を調整する。	1.いつもどおりの様子であった	活発に遊んでいたが、着きが悪く、職員の注意を聞けなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	広い体育館で児童が多かったため、他の児童も少し離れた所で見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	体育館は2名の職員で児童対応を行っていた。他の職員も上履を脱ぎ、同様に少し離れた所で見えていた。	特になし	研修以外、日常業務の中でも、随時事故の防止について注意を促す。	
4582	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ		11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	104						##		6	4	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	1.頭部	頭部内骨折(ヒビ)	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	5.基準配置	職員会議での見守りのポイントの確認と周知	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施		12	1.定期的に実施	12	施設設備については問題なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	見守り方法の再確認	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	通常の活動であつたので、特別な見守りはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常の活動であつたので、特別な見守りはいなかった。	外での活動の際は、特に周囲や児童の動きに注意を払い、声を掛け合つて見守りを行う				

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	発生場所 時間帯	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故にあった子どもの年齢			事故状況発生時状況	事故の転帰			事故誘因	事故発生の要因分析					ハード面					環境面 教育・育成支援の状況	その他要因・特記事項	改善策	人的面		担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・特記事項	改善策	掲載更新年月日										
						人数	異年齢構成の場合の内訳					性別	特記事項	死亡 死因	負傷 負傷状況		受傷部位	診断名	マニュアルの有無		事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・特記事項		改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要因・特記事項	改善策	対象児の動き理由	対象児の動き理由																						
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																						5歳以上	学童				その他																
4588	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	42						42				3	1	20.8歳	2.女児				7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折(左足首)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置	支援員全員の共有事項としての声掛けの強化	1.定期的に実施	240	3.未実施		2.不定期に実施	片付けや整理する時に確認する	支援員全員の共有事項としての声掛けの強化	1.集団活動中・見守りあり	帰りの会で下校時に階段等の飛び降り、その他危険な行動をとりながら帰るという声掛けをしていく	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	室内あそびの見守り	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他遊びや室内遊びの見守りをしていた			帰りの会で下校時に階段等の飛び降り、その他危険な行動をとりながら帰るという声掛けをしていく	
4589	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	8						8				3	1	19.7歳	2.女児				2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	8.その他	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置	事故や怪我が発生した場合の対処方法について、再度職員間で把握・確認を行う。	2.不定期に実施		1.定期的に実施	小学校敷地内施設につき、小学校教員による点検を実施	2.不定期に実施	屋内環境の安全性について点検し、整理整頓に努め、新たな事故を防ぐ。	予測できない児童の動きが、事故に繋がるといふことを再認識し、注意深く見守る。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近距離にはいたが、背後から乗ってきたため、すぐに対応できなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の活動をする児童達の見守りをしていた			予測できない児童の動きが、事故や怪我が起こるというのを再認識し、注意深く見守る。			
4590	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭等)	8.学童	6						6				2	2	20.8歳	1.男児				2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	土曜日はグラウンドが使用できないため、部屋で遊んでいたため。	今後は限られた遊びとすること(鬼ごっこは禁止)	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12.特になし。	特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	決められたルールのもとに指導する。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見守りはしていたが、本人が足につまみ、手を差し伸べる間がなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内遊びの児童の保育をしていた。	特になし。	今後は声掛けをし、注意深く見守る。
4591	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	35						35				3	3	19.7歳	1.男児				2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	過度に勢いのある遊び方をしているか常に注意を払う。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	48	万が一、滑って遊具がずれたりすることが、滑り止めシートを敷く。	1.集団活動中・見守りあり	少しでも危険が感じられる場合は、本人に危険が及ぶ可能性があるため、滑り止めシートを敷く。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児のなわとびの様子を見つ、対象児が走った様子を確認したため、まもなく手を差し伸べる間がなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	現場から比較的近い場所と、なわとびの様子を見ていたが、対象児の転倒は確認した。	全ての支援員において、目の前でなく広い範囲の視野を持って見守りができるように、支援員間の声かけを行う。				
4592	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	51						51				5	5	19.7歳	1.男児				2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	左肘挫創皮膚びらん	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	夏休み最終日もスタッフに集中力があつたのではない。	子供たちの状況確認とともに、スタッフの体調面など行い無理のない職員配置に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	48	ガラスに保護シートを貼る。アクリル板への変更。ガラス注意の張り紙。	夏休み中では学童以外の児童も多く出入りしており、常に騒がしい環境となっていた。(視覚的、聴覚的)	遊びの空間、コーナーの設置など落ち着いて遊べる環境づくり	自己コントロールと次の予測が苦手なため、危険回避が難しい。	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	走り回っている行動については、再三注意を付けていたが、止まらなかった。また、ガラス窓に突っ込むという行動を予測していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童の対応に当たったり、その場を見守ることができなかった。	本来走ったりする場所ではないところでの突発的な動きであった。	遊びの空間を繰返し伝える。(静かな遊びの空間との区別)	
4593	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	5.おやつ時(学童)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	20						20				4	2	19.7歳	1.男児				8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨端損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	研修等により支援員の安全意識向上を図ります。	2.不定期に実施		2.不定期に実施		2.不定期に実施	声かけや注意することなどを指導します。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	他児童への対応、おやつなどの瞬間の出来事だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童への対応、おやつなどの準備などを行っていた。	児童の様子を見て声かけを行い注意を促す。						

No	初 回 掲 載 年 月 日	概 要 認 可 ・ 認 可 外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの 年齢 性別 特記事項			事故状況 発生時状況	事故の転帰		診断名	事故 誘因	事故発生の要因分析 ソフト面					ハード面					環境面 教育・保育・ 育成支援の状 況	その他要 因・分 析、特記 事項	改善策	人的面		その他 要因・分 析、特記 事項	改善策	掲載 更新 新 年 月 日							
						人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳以上 学 童 その他					教育・保育等従事 うち保育教 諭・幼稚園 教諭・保育 士・放課後 児童支援員 等	年齢	性別	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	マニュアルの有無		事故予防 研修実施頻 度【回/年】	職員配置			その他要 因・分 析、特記 事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度 【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度 【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度 【回/年】	その他要 因・分 析、特記 事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員 の動きに 何をしていたか	他の職員 の動きに 何をしていたか				その他 要因・分 析、特記 事項											
4620	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	17.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29									1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置			1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.集団活動中・見守りあり	ドッジビーという遊びは、狭い範囲で瞬発的に動く要素があるため、接触の可能性が生じた可能性がある。	遊びの形態に即し、適切にスペースを確保する必要がある。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	正月休みが終わり、久しぶりの施設利用であった。普段は外遊びは苦手になっているが、冬休みの解放感からか、嬉々とした様子で外遊びを行っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	8.集団で遊んでいたため、その周囲で遊んでいた。注意喚起おして、意図的に声を発したが聞こえなかった。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	他の児童の外遊びを見ていた。	普段からよくドッジビーを実施しており、ここで事故等もなかったため、十分な注意喚起ができていなかった。	集団で遊ぶときは、密集せず、他人人との距離を保つよう常に見守り、接触が起きないように注意喚起する。				
4621	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	108.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	32									2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3.基準配置	活動を設定していないフリーの時間だったため、子供の動きが自由になりやすい状況だった。	職員の見守り体制の強化。人数やかわり方を再確認していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	落ち着いた様子で遊べる場所の設定・コーナーの増加等環境作り。	3.個人活動中・見守りあり	普段から走り出したり活動的な遊びが好きな状況。	一定の時間のクールダウンが必要	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	通常と変わった様子が見られなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこをしている本児以外にも、遊戯室の遊びも始まっていたため、見守りが切れていなかった。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	担当場所の職員のみが本児を見守っていたことで、見守りが薄い状況になっていた	子どもの遊びの状況に合わせて見守り人数を増やす等、現場の状況に合わせた対応を考えた。また、危険(転倒・衝突)が予測される場合は遊びに転換していく				
4622	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	118.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	40									2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯上、永久歯、前歯のぐらつき	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3.基準以上配置	17時以降の一般来館児童の帰宅後にクラブ児童のみで遊戯室で運動を許可したが、当日児童は体育での運動量より多かったことを把握できていなかった	運動毎に合間に適度な休憩をとることを、連続しての運動は児童の様子を確認していくこと。また軽度な準備運動を入れてから運動を行うこと。	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	10	遊戯室の床が板状となっており、とても硬い。上履きを使用していないため、裸足での運動となっている。	可能な限りソフトな床での実施を検討したい。早急にとは、児童への上履きの使用ができるように検討していきたい。	運動毎に合間に適度な休憩をとることを、連続しての運動は児童の様子を確認していくこと。また軽度な準備運動を入れてから運動を行うこと。	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	10	遊戯室2名の他に児童室1名・図書室1名・事務室1名と配置されたが、本児の怪我発生をきっかけに、発生後事務室にて対応にあたる必要があった。また保護者の許可を取り、覆りつて歯科に同行受診を行った。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	遊戯室内で「ドッジボール」を10名程度の児童が楽しんでいた。支援員は2名配置。児童を壁面サイドで挟み込むように見守っていた。	他職員は、遊戯室2名の他に児童室1名・図書室1名・事務室1名と配置されたが、本児の怪我発生をきっかけに、発生後事務室にて対応にあたる必要があった。また保護者の許可を取り、覆りつて歯科に同行受診を行った。	今回の件をうけて、ヒヤリハットを実施。危険発生予測について確認し合う。また遊戯の際、参加人数を制限し、多過ぎるようなら定員を設定する。	
4623	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	127.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	58									1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	2.基準配置	安全管理マニュアルの予防対策の徹底	1.定期的に実施	12				ボールが経年劣化し、雨上りのグラウンドの水を含んで通常より重くなった。	当該ボールの廃棄、ソフトボールの導入	1.集団活動中・見守りあり	地面が濡れており、ボールが水を含み状況であった。	ビニール製のボールを使うよう改善	1.いつもどおり様子であった	2.担当対象児の動きを見ていた	対象児童に声をかけ、冷やそうに声をかけると見守りしていたが、遊びのさきから室内に戻ってアイシングを打った様子を見守りしていた。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	別のグループの児童の見守りをしていた。	職員の動きに配置や予見や工夫を入れる。						
4624	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	17.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	12									2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2.基準配置	ミーティングを実施し監視体制や注意点を協議した。児童に対しても安全に乗り、かつ楽しく乗るための指導を実施した。	2.不定期に実施	6	2.不定期に実施	6	2.不定期に実施	12	学校の園工室を利用しているため(作業台6・教卓1)角のある物件が多い。	衝突防止のためのフェンス等を購入し設置。(今後追加フェンスとボールも購入する)	3.個人活動中・見守りあり	一輪車が得意な児童でより難しい後進の練習をひとりでおこなう際の安全確保に気を配っていた。	1.いつもどおり様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	一輪車を利用して児童は4人おこなっていたが、全体の見守りをしていないで当該児童を直視しなかった。	部屋全体の見守りをしていたが、当該児童は直視しなかった。	この日は学校の冬休みにより、普段より利用児童が多く見守りの体制が通常時と比べて手薄だった。	事故につながる可能性については、支援員を強化し、職員配置と児童の活動スペースを工夫したい。						

No	概要 初回掲載年月日 認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生時期	発生場所	発生時の施設・事業体制							教育・保育等従事者うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故にあった子どもの状況					事故発生の要因分析					環境面 教育・保育・育成支援の状況	人的面		掲載更新年月日												
							発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳						事故状況発生時状況	事故の転帰	死亡死因	負傷負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析ソフト面				ハード面				改善策	対象児の動き理由	担当職員の見守り	他の職員の見守り	その他の要因・特記事項						
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳									5歳以上	学童	その他		マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】		職員配置						その他の要因・特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他の要因・特記事項
4633	令和3年9月30日 3. その他	15. 放課後児童クラブ	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8. 学童	26								1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	前歯欠損、口内負傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	今回の事故は不慮の事故であったが見守りをより強化する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	日頃から危険な箇所がないかを支援員が点検時に必ず確認するようにする。 学校から市に相談、大きな岩を起す、除き去らせた。児童の行動の監視することは困難なため、クラブの方で話をするなど注意を促す。 1. 集団活動中・見守りあり	1. いっぽうの様子があった	3. 対象児から離れたところで見守っていた	至近距離では見守っていましたが、少し離れた場所で見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	日頃からの様子を確認し、子どもが遊びに夢中になっている際には、支援員はより一層の注意をするようにする。			
4634	令和3年9月30日 3. その他	15. 放課後児童クラブ	1	8. 夕方(16時頃～夕食提供前項)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	40								2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	1. 基準以上配置	色々な活動を各部屋に分かれて活動するため、ホール活動は職員が1名で担当している場合が多い。 見守りだけではなく、声に出してしっかりと注意していく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	現在は、ホールのワックス掛けを年に3回(委託業者1回、職員2回)実施している。今後は2ヵ月は1度のワックス掛けと現在実施している毎日の清掃時の点検を継続しておかない、追突や転倒を防ぎたい。 異学年が一緒にプレイしていたため、運動能力に差があった事が要因の一つと考えられる。 学年ごとに分け、しっかり指導していく。 1. 集団活動中・見守りあり	1. いっぽうの様子があった	久しに会う友達とスポーツを楽しむにた。 ふざけたり友達と遊ぶのを止めた。	2. 対象児に近いで見守っていた。	体育教員資格を持つ男性職員が担当していた。コーナーで見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他の職員配置 学習室1名 学習室2名 読書室・パソコンルーム1名	上級生のカテゴリーになるにつれ、体格にも差があり、ボールの取り合いが多くなる。 職員が事故ないように声をかけていく。	
4635	令和3年9月30日 3. その他	15. 放課後児童クラブ	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前項)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	28								8. その他	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施	1. 基準以上配置	待つ間、おとなしく待っている。この児童は先に学童に連れてくる。 待つ間、ピロティでおとなしく待たせなければならぬ。できなければ、この児童は先に学童に連れてくる。	学校の遊具なので点検はしない。 高いところからジャンプした。 この高さからジャンプしたいという子を見つけた。 1. いっぽうの様子があった	知っている友達もいたので、ピロティから行って遊んだ。	4. 対象児の動きを見ていなかった	学級からピロティに来る時に本児を見つけた。言葉交わしたが、そのあとには迎えていない。(ひとりの職員が行く。)	数週間前から、遊ぶのが大好きで、ほかの子よりも早く遊びたい。本児はもう考えている。 ピロティで待つことをしっかりと守らせる。										
4636	令和3年9月30日 3. その他	15. 放課後児童クラブ	1	8. 夕方(16時頃～夕食提供前項)	2. 施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8. 学童	32								1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	子どもの「平気」という言葉だけで判断してしまった。 そのときは腫れもなく本人もいまだに「平気」と言っていて、その後経過観察をする。 今後、クラブのおもちゃや学校の遊具で遊ぶよう、保育前の点検、確認を実施する。	3. 未実施	3. 未実施	2. 不定期に実施	1. 集団活動中・見守りあり	迎えるまで痛がることなく、支援員が気が付かなかった。ケガしたことが付いたので、記録をとった。 いつでも通り、宿題が終わった後、運動場に出て遊んでいた。	2. 対象児に近いで見守っていた	4名のグループで遊ぶ(ワックス)するための集まったので、一人の支援員がついていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	外は2つのグループで遊ぶ(ワックス)ための集まったので、一人の支援員がついていた。 子ども4人の小さな集団だったので、一人の支援員だけでは対応できなかった。 フリーの支援員を配置することで、一人でなくてもいいようにする。						

No	初 回 掲 載 年 月 日	概 要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	発生場所 時間帯	発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故にあった子どもの年齢・性別			事故状況発生時状況	事故の転帰			事故誘因	事故発生時の要因分析										環境面 教育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面			掲載更新年月日										
						人数	異年齢構成の場合の内訳					事故状況発生時状況	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位		診断名	ソフト面	事故予防研修実施頻度【回/年】		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策		ハード面			改善策	対象児の動き理由	担当職員の動きを 具体的に何をして いたか	他の職員の動きを 具体的に何をして いたか	その他要因・分析、特記事項	改善策																		
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳														5歳以上	学童	その他							施設安全点検【回/年】				遊具安全点検【回/年】	玩具安全点検【回/年】	その他要因・分析、特記事項		改善策									
4637	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	32						32		3		19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	3.子ども同士の間で衝突によるもの	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	子どもの行動、様子を気にかけ、職員間の配置を確認しつづける必要がある。	事故予防マニュアルの作成と日頃から危険を感じた場面や場所を伝え合い、事故予防のルールを職員間で明確にする必要がある。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	今回の事故は、遊具や施設内の不備で起こったものではなかった。	毎日の片付け、掃除の際には、遊具や施設内については、危険ではなかったが、確認、改善している。	3.個人活動中・見守り	馬飛びをして子どもたちと宿題をする子どもたちを見守ることができなかった。	室内で遊んでいる子どもたちの様子に変化が見えないように、定期的にコミュニケーションをとる必要がある。	通常通り、来所宿題をしていたが、馬飛びをして他の児童等と突っ込んでいき、割り込んで来た。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は宿題をしていたため、他の児童の対応を待たずに、馬飛びをしてしまった。対象児を他の職員が連れてきたため、状況の確認、ケガへの対応をした。	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	他児の対応を見ていなかった。	馬飛びをして子どもたちを見守る必要があった。	子どもたちの活動状況に応じて、各所に支援員等を適切に配置し、職員同士の見守り範囲の確認や連携、声掛けに努める。	
4638	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭等)	8.学童	57						57		4		19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(右手中指第一関節)	5.他児からの衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2.基準配置	勝ち負けにこだわらず、お互いの状況を確認し合い、強く投げた。	周りを良く見て、相手の気持ちになつて、公平な態度で取り組むよう話す。	1.定期的に実施	4.3.未実施		2.不定期に実施	3.運動場の状況が悪くなった。	1.集団活動中・見守り	咄嗟の対応で、直ぐに対応できなかった。	思いやりや気持ちのいい活動ができた。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ドッジボールが得意で、つい力が入ってしまう。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	ドッジボール以外の遊びを見ていた	咄嗟の対応で、直ぐに対応できなかった。	本児が勝ちにこだわり、力が入っている時は、笛を吹いて切り替える。				
4639	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭等)	8.学童	32						32		5		19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手薬指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置	ボール遊び等の危険性のある遊びの前の注意喚起が不十分だった。	外遊びの内容や見守り方法について、検討する。	1.定期的に実施	2.定期的に実施	12.定期的に実施	2.特になし	当該事故において、下面に問題がないため、改善策なし。	1.集団活動中・見守り	ボール遊び等の危険性のある遊びの前の注意喚起が不十分だった。	見守りの職員が手薄になる時間帯の危険性のある遊びの実施方法について、検討する。	1.いつもどおりの様子であった	特に目立った行動はなし。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	1.対象児の動きを見守っていた(至近距離にいた)	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	ボール遊び等の危険性のある遊びの前の注意喚起が不十分だった	ドッジボールのようなケガが発生しやすい遊びに対して見守ることを検討していく。				
4640	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭等)	8.学童	33						33		5		18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1.基準以上配置	職員研修の回数や内容を改善する。	職員研修の回数や内容を改善する。	1.定期的に実施	12.定期的に実施	12.定期的に実施	12.定期的に実施	リスク担当職員だけでなく、他の職員も交代で安全点検を実施し、意識を高めるようにする。	1.集団活動中・見守り	遊具で遊ぶ際のルールや安全に遊ぶための気を付けることを児童全員に指導を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこに夢中だったため、着地した。	2.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	室内において、1名は連絡帳等を見ていた。2名は室内で遊んでいる児童を見守っていた。	子供の遊びの状況や室内室外で遊ぶ子どもの人数のバランス等を見守り、職員を配置を配慮する。						
4641	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	29						29		3		22.10歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第5中足骨基部骨折	3.子ども同士の間で衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	1.基準以上配置	今回の事故は不慮の事故であったが、見守りや安全確認を強化する。	今回の事故は不慮の事故であったが、見守りや安全確認を強化する。	1.定期的に実施	12.定期的に実施	12.定期的に実施	12.定期的に実施	今回の事故に関しては遊具の不備はなかったが、日頃から危険な箇所がないかを点検し、児童には自ら危険を予防回避できるように話をした。	1.集団活動中・見守り	児童の行動すべてを監視することは困難なため、環境を整え安全に配慮しながら、児童には自ら危険を予防回避できるように話をした。	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	低学年の児童の近くで、遠くから見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	別の部屋にいた児童を見守っていたので、対象児の動きを見守っていたが、事故発生時は見ていなかった。	児童の様子を観察し、児童が遊びに夢中になり活動している際には、支援員もより一層の注意を払って見守る。						

概要		発生時の施設・事業体制																			事故発生の要因分析																			掲載更新年月日										
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	発生時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故状況発生時状況				事故の転帰				事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面教育・保育・育成支援の状況	その他要因・特記事項	改善策	人的面対象児の動き理由				担当職員	他の職員	その他要因・特記事項	改善策									
							人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳		5歳以上	学童	その他	死亡	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】				その他要因・分析、特記事項	改善策	見守り人数の強化、参加人数の調整、グループ分けをして、少人数で行う。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)						通常と変わった様子ではなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	個別ではなく全体の見守りをしながら活動の指揮を執っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当場所の職員のみが活動を見守ったことで、結果的に見守り状況になっていた。	おにごっこ活動時は見守り人数を増やす。危険な行動(転倒・衝突)があった場合の家庭への連絡や翌日の確認の徹底。		
4647	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ		2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	26						26	3	2	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	子供たちの動きがフリーになる活動「おにごっこ」のため、転倒や衝突が遊びの中で起こりうる活動だった。	おにごっこ時の職員の見守り人数を増やす。環境設定の強化。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	落ち着いて遊びの増加・場所の設定・コーナーの増加等環境作り。	見守り人数の強化、参加人数の調整、グループ分けをして、少人数で行う。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	通常と変わった様子ではなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	個別ではなく全体の見守りをしながら活動の指揮を執っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当場所の職員のみが活動を見守ったことで、結果的に見守り状況になっていた。	おにごっこ活動時は見守り人数を増やす。危険な行動(転倒・衝突)があった場合の家庭への連絡や翌日の確認の徹底。		
4648	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ		3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	45						45	2	1	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	2・3	1.基準以上配置	事故との関連無し	2.不定期に実施	10・12	2.不定期に実施	10・12	2.不定期に実施	10・12	1.集団活動中・見守りあり	事故との関連無し	外遊び中に植え込みの事故のため、今後は植え込みなどを避けた範囲で遊ばせるなど場所の指定を工夫する。	1.いつもどおりの様子であった	普段と特変変わった様子ではなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	外遊び中に子供たちを各箇所にて見守っていた。本児でも見守っていたが、転ぶ場面は見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ほかの集団または個人を見守っていた	植え込み付近など危険なところでは遊ばせないよう注意して見守る。		
4649	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ		1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	71						71	7	5	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足の中指の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	児童には、平らな場所で一輪車を使用するよう指導し、児童も厚生員にも児童の様子を見守るよう指導する。		2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	12	滑り台の周りには段差があるため、児童には、平らな場所を一輪車を使用するよう指導し、児童も厚生員にも段差のない所で一輪車をさせるよう指導する。	1.いつもどおりの様子であった	一輪車が好きな子どもが一輪車と友達になっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	館庭に、子どもが20人くらいいたので、対象児をずっと見守っていたわけではなかった。転倒したのは分かったため、駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	気になる子どもがいたため、その児童の対応をしていた。				
4650	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ		2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31						31	5	3	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肩の若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	100	2.基準配置	当該児童が一輪車のアイドリング中にバランスを崩し、手を伸ばして転倒を防げるよう、アイドリングを練習中の児童は壁に棒の近くで遊ぶように指示し、支援員も近くで見守るようにする。	万が一バランスを崩しても、手を伸ばして転倒を防げるよう、アイドリングを練習中の児童は壁に棒の近くで遊ぶように指示し、支援員も近くで見守るようにする。	2.不定期に実施	1	1.定期的に実施	52	3.未実施	0	特になし	特になし	広範囲の見守りが必要な状況下において、職員の見守り体制(配置)等を工夫し、児童の転倒等による事故発生可能性を予見し、児童に対し注意するよう指導する。	健康面等、普段と変わった様子は特になく、友達3人と一輪車で遊んでいた。アイドリングの練習中に、自らバランスを崩し、転倒したものの。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	支援員のうち1人が近くで当該児童を見守っていたが、瞬間の出来事だったので事故の発生は防げなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	広い校庭内で多数の児童が遊んでいたため、職員も分散しながら児童の見守りを行っていた。	当該児童の近くで見守りして、事故の発生を未然に防ぐよう努める。	外遊びの際は、ケガ・事故等が発生する可能性が高いので、職員も配置等にも留意しながら、児童に注意を促すなどして、児童のケガを未然に防ぐよう努める。	
4651	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ		1	5.おやつ(学童)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	66						66	9	8	20.8歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指刺離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	48	2.基準配置	児童の見守りと事故防止のための児童への注意を徹底する。	1.定期的に実施	44	1.定期的に実施	45	1.定期的に実施	44	安全点検に努め危険箇所を発見し、修繕等を行っていく。	児童の見守りと事故防止のための児童への注意を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	おやつ時、座ろうとして床に右手中指を突いて負傷した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊戯室やクラブ室での児童を見守っていた。	偶発的な事故を防止するため、日頃から注意を徹底する。				

No	初 掲 載 年 月 日	概 要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰				事故誘因	事故発生時の要因分析 ソフト面					ハード面					環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面		改善策	掲載更新年月日							
						発生時の体制														死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防 研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策				自由時間に見守りの立ち位置、目配り等について再度確認を行う。	対象児の動き理由			担当職員 員具体的に何をしていたか	他の職員 員具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策			
						人数	異年齢構成の場合の人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	訳その他																															うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等		
4652	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	16								1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施		2.基準配置	特になし	事故発生時の振り返りを含め、事故予防に関する研修を適宜実施する。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	特になし	遊具等の安全点検については定期的に実施しており、今後も継続し、必要に応じて修繕等を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	自由時間に見守りの立ち位置、目配り等について再度確認を行う。	1.いつもおどりの様子であった	宿題を終えた後、いつも使っている遊具などいっつも変わらない様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	事故発生時、他の児童とサッカーをしており、対象児が落下するとは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	施設内で他の児童の対応を為、見ていなかった。	周辺状況を把握し、遊具の使用に注意するよう促すなどの対応が十分であった。	自由時間に見守りを実施中、周囲の状況をよく把握し、児童の動きに注視するよう指導を徹底する。	
4653	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	90								2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足中指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	5	2.基準配置	友だちと話をしながら歩いていた。壁の方には注意がなかった。	児童クラブ全体に廊下を走らない等のルールの周知を徹底した。壁の角に安全カバーを貼った。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	提供する時	1.定期的 に実施	毎日	他児童が廊下で遊ぶ時がある。廊下には、寝転んだりする。	廊下では遊ばないことを繰り返し伝える。安全カバーをつけてはいるが、更に注意するよう周知する。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもおどりの様子であった	いつも通元気に登壇し、他児と遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	普段と変わらない様子だった。走った時は声をかけたが、壁の角にぶつかったのは気づかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応や他の見守り等で、廊下を見ていなかった。	壁を蹴ったり、高い所の上り下り、他児や年上の児童の真似をして、自分の体力がついていないことがある。	他児が、危ないことをしている時は注意すること、危ないことは真似を繰り返さないことを繰り返していく。	
4654	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	67								1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	5	1.基準以上配置	—	ヒヤリハットを常に意識し事故発生の予防に心がける。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	50	—	児童が怪我をするかもしれない危険箇所を点検する。	1.集団活動中・見守りあり	—	日頃から危険箇所について、子どもにも注意喚起を行う。	1.いつもおどりの様子であった	いつも通元気に、体調不良は見られなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	館庭のボール遊び等の子どもに加えて、対象児を含めたところのグループ全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの部屋で見ているので、対象児は見えていなかった。	—	走り回る子ども達も、注意喚起しながら見守りができるように心掛ける。	
4655	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	27								1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左機尺骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	1.基準以上配置		指導員から見て危険性があると思ったことには積極的に注意喚起していく。	2.不定期に実施		6	2.不定期に実施	6	6	6	良く利用させてもらって中庭の地面が固いので、全力疾走や遊び方など気を付ける。	1.集団活動中・見守りあり		焦らず余裕をもつて行動できるように声掛けしていく。	1.いつもおどりの様子であった	友達の名前を呼び元気がなくなり、元気に走って戻ろうとしていた。	2.対象児の動きを見ていなかった	転び方が危険だったため、すぐに対象児の体をチェックし、手前が変形していたため、対象児の不安にないように冷静に指導員間で連絡を取り、救急車を呼んだ。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		職員配置は足りていると思われる。事故後の行動も迅速に連携できた。			
4656	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15								2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1.基準配置		遊びに入る前に、準備運動や転んだ際の手のつき方の確認を行う	1.定期的 に実施	2	1.定期的 に実施	2	1.定期的 に実施	2		普段通りの環境で遊びを行っていたため、ハード面における改善点は特に見受けられなかった。	1.集団活動中・見守りあり		普段通りの環境で遊びを行っていたため、環境面における改善点は特に見受けられなかった。	1.いつもおどりの様子であった	ボール遊びをしていた際に、左肘を強く打った。	2.対象児の動きを見ていなかった	子どもたちの動きに注視しながら、密集時等のケガを防止するため、随時声かけを行った	2.対象児の動きを見ていなかった	1フロアで1つの遊びを行っていたため、他の職員の見守りをしていた		ボールを追いかける際等、声かけを強化していく。		
4657	令和3年9月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	89								1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指基節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置		スタッフ間で、見守りの際はボールの投げ方、受け取り方の指導も行うように話合った。	1.定期的 に実施	毎日	1.定期的 に実施	毎日	1.定期的 に実施	毎日		外遊び前に準備運動を行い、対象児は普段通りの様子だった。	2.対象児の動きを見ていなかった	近くにいる支援員がすぐに駆け寄り、患部を確認。対象児は痛みを訴えていたため、室内へ戻り氷嚢で患部を冷やした。	1.担当者・対象児の動きを見て(至近距離にいた)	児童全体の動きを、通常配置で見守っていた。		全児童集合時に、外遊び中・前外遊び中に痛みや体調不良を感じた際はスタッフにすぐ知らせよう注意喚起をした。							

No	概要 初回掲載年月日 認可・認可外	施設・事業所種別 月時間帯	事故発生時期 発生場所	発生時の施設・事業体制		発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳以上 学				
----	-------------------------	------------------	----------------	-------------	--	--------------	---	--	--	--	--

